大正十一年四月廿六日第三種郵便物認可
大正十一年九月一日發行（毎月一回一日發行）

性之問題研究の最高級雜誌

變態性慾

田中香涯執筆

九月號

目次

□同性愛に關する内分泌の學理に就いて……（一九九）
□先天性生殖腺發育不全……（二〇四）
□非自然的性交に因る姙娠……（二一一）
□醫學上より觀たる獨身生活の利害（中）……（二一六）
□女性陰毛の生理……（二二一）
□老婆の姙娠……（二二五）
□「サロメ」とザヂスムス……（二二七）
□英國宮廷腐敗史の一節……（二三一）
□日本の古文學と「性」……（二三三）
□乳房と生殖機關……（二三七）
□男子同性愛の一實例……（二四一）
□執筆を終へて……（二四三）

東京　日本精神醫學會　發行

滋強
飲料

カルピス

一等當選懸賞漫畫



眞珠を溶かした色　上品

味のオーケストラ　美味

カルシウム、ヸタミン
蛋白質、有機酸、糖類　滋養

絹のやうな舌觸　清涼

八倍となる　經濟

販賣所、酒店、食料品店、藥店

製造元東京ラクトー株式會社

井上庄三氏新譯

一條忠衛著

◎男女の性より觀たる社會問題

金壹圓八拾錢 送料十二錢

新刊 性と自我

若き婦人の爲に

若い婦人の種々な疑問解決し難い煩悶を懐き乍ら明けて相談する人、適當な指導を與へてくれる人を得ない爲めに遂に其本性を誤つて如何はしい道に迷ひ込み不道徳に生きて行く事は少なからず原書は實にかゝる過を未然に防ぐ爲めに生れし書で米國婦人社會で大歡迎を受けし書である我國の人々も啓發さるゝと思ひます

四六版上最製
正價金
壹圓八拾錢
送料十貳

新マルサス協會
國際聯盟委員
瀧本二郎氏新著

社會勞働問題と產兒制限論

四六判最上製
壹圓八拾錢
送料十二錢

報知新聞評世界各國に於ける社會問題のすべては過多の兒女を養育することによつて生ずるものであつて貧富いづれの大家族でもその及ぼす弊害は大きなものであることを述べて賣春婦人の奴隷的拘束と勞働階級の虐待と幼年の勞働と戰爭などは尤なるものであるとて社會改造や勞働問題の解決やの實を擧げるには先づ出產の制限を實施すべきを强唱し產兒制限は人道に反くと攻擊するものに對しても決して非人道的でない理由を示しまた出產を制限すれば遂には民族自滅に至るといふ說の淺薄皮相の觀察にすぎないことからその世界平和實現に効果あるべきを論じて英米に於けるマルサス主義に說き及べる事である

工藤直太郎著 ◎人間文化出發 金貳圓 送料十二錢

一條忠衛著 ◎人格主義社會觀 金貳圓 送料十二錢

好評

上田恭輔著

生殖器崇拜教の話

袖珍上製 金六拾錢 送料金四錢

生殖器に就て古今の面白き事實傳說を述べ宗教的の意義を說けり短篇なれど頗る趣味多き書である。

東京神田區表神保町七番地

大同館發行

振替貯金口座東京八七貳



第壹卷 第五號

同性愛に關する內分泌の學理に就いて

所謂『若返り法』で我國にも有名になつたスタイナッハは、同性愛の原因を說明するにも內分泌說を應用した。彼は生殖腺（睪丸、卵巢）に就いて、生殖素たる精蟲、卵子を製出する『生殖部』Generativer Teil と第二次性徵及び性慾を喚起する『發情腺』Pubertätsdrüsen とを區別した。『生殖部』は睪丸では細精管、卵巢ではグラフ氏濾胞であり、『發情腺』は睪丸では間細胞 Zwischen Zellen（ライヂッヒ氏細胞 Leydigsche Zellen）であり、卵巢では「ルテイン細胞」或は間質腺 Luteinzellen od. interstitielle Drüsen である。處が、人間なるものは本來男女兩性の要素を兼有する半陰陽（兩性體 Hermaphroditismus）であつて、胎生時代には其の『發情腺』內に男性の細胞たるライヂッヒ氏細胞と女性の細胞たる「ルテイン」細胞

との二種を共有してゐる。併し將來男性に發育するものは、女性細胞が減少消失して男性細胞のみとなり、其の內分泌作用によつて男性固有の第二次性徵が喚起せられ、更に異性に對する性慾も喚起される。また女性に發育するものに於ては、其の『發情腺』內にある男性細胞が消失して女性細胞のみとなり、其の內分泌物の作用によつて女子固有の第二次性徵及び異性に對する性慾が惹起せられるのである。然るに若し男子にして、其の發情腺內に存する女性細胞が減少せずして依然として發育し、之がために男性細胞の萎縮する時は、男子は男子であつても、其の第二次性徵及び性慾は女性的色彩を帶びて、同性を愛するやうになり、また女子にして其の發情腺內の男性細胞が消失せずして依然留存發育すれば、其の形體及び精神共に男性的となり、從つて同性を愛するやうになると云ふのがスタイナッハの所說である。彼は此の學說を根據とし、同性愛を好む者に就いて其の生殖腺を除去し、異性愛者の睪丸、卵巢を移殖する時は、之によつて變態性慾を治癒し得べきことを唱へ、其の證左として千九百十八年リヒテンステルンが同性愛者に行つた睪丸移植の實驗成績を擧示した。

さりながら上記のスタイナッハの所說に對しては異論者が頗る多く、私もまた之を承認することと能はざる者の一人である。仍つて玆に諸學者の意見と私の卑見とを取交せて聊か叙說して見た

い。

抑々同性愛者の睪丸に往々多少の變化を認めることは固より否定すべからざる事實であつて、ヒルシユフエルドの述べた如く、細精管上皮が處々に於て萎縮し、其の間に斑點狀にライヂツヒ氏細胞の集簇せることを認むるも、併し這般の變化は畢竟『正常の變異』Varianten der Normと稱すべきものであつて、必ずしも同性愛者の睪丸に於ける特殊の變化で無く、現にステルンベルグの如きは、二人の同性愛者の睪丸を組織學的に檢査して、毫も細精管に萎縮的變化の無きこと、また間細胞即ちライヂツヒ氏細胞の全然正常なることを確證し、またベンダも精蟲の活潑に形成せらるゝこと及び間細胞の常態にして且つ其の多數なることを認めた。而してスタイナツハの言へるが如き女性細胞（ライヂツヒ氏細胞より大にして且つ類脂肪質を含有せる細胞）の毫も同性愛者の生殖腺内に看出されざることも、ヒルシユフエルド等の既に明言した處である。またベンダの說に依れば、スタイナツハの所謂女性細胞として記述したものは、其の實ラインケ氏結晶で充實せらるゝ定型的のライヂツヒ氏細胞に外ならないと言つてゐる。

同性を愛する男子の身體形質が往々女性的輪廓を帶び、所謂『女性的男子』と稱すべき體質を具へてゐるやうなことのあるのは疑ひなき事實としても、併し之を以てスタイナツハの云へるが

如くに『發情腺』內に留存發育する女性細胞の內分泌作用に歸する譯には行かない。近時ウアイルは八十人の同性愛者の身體を檢査して、其の上體の長さと下體の長さとの比例が類宦官症の狀態に類似せること（別項『先天性生殖腺發育不全』の條項を參照すべし）及び肩胛帶の幅徑と骨盤帶の幅徑との相違が、女性のそれに類似せる事實に徵して、同性愛を以てスタイナッハの唱へたやうに、內分泌の變常に起因するものであると云つたが、併し同性愛者に於て往々上記の如き身體骨格の發育の變化を認めることのあるのは、ローマイスの說述した如く、同性愛者は早期より異常非倫の快樂に耽るがため、早くから生殖腺の『生殖部』即ち細精管上皮の萎縮を來し、其の分泌する「性ホルモン」――ローマイス等は細精管上皮を以て精蟲を作るの他に「ホルモン」をも分泌する細胞と認めてゐる――の減少するに由來するものであらう。（別項『先天性生殖腺發育不全』の條下參照）

それから同性愛者の睾丸を摘出し、其の代りに異性愛者の睾丸を移植すれば、顚倒性慾が治癒して異性を愛するやうになると云ふことは、リヒテンステルンの實驗例の報告もあるが、併しこれは全く暗示の影響に外ならない。何となれば睾丸を移植するとも、早晚萎縮變性に陷り、從つて性ホルモンの內分泌が停止して了ふからである。之に就いて茲に引用すべき價値ある實例は、

チーチエー・シユライベルの報告である。同氏は一人の同性愛者に就いて兩側の睾丸を除去し、十四歳の少年より取つた睾丸を移植した處、其の後、本人の言ふ處に依れば、同性愛が消失して異性を愛するやうになつたさうであるが、併し其の移植した睾丸の組織を檢査した處、全然萎縮變性に陷れることを認めた。此の所見に徵して、シユライベルはスタイナッハの説を根本的に否定した。またストラーベルは六人の同性愛者に睾丸を移植したが、其の成績はいつも陰性であつて、何等の影響をも認めなかつた。其の他、クロイテルも同性愛者に異性愛者の睾丸を移植したが、其の睾丸は變性壞死に陷つて、少しも効果なきことを確證し、リヒテンステルンの實驗した如き事實を認めなかつた。此の如き事實に徵すれば、睾丸の移植によつて同性愛が治癒し異性を愛慕するやうになると云ふスタイナッハの所説は、學理上何等の根據も無く、睾丸移植後往々顚倒性慾が無くなつて、異性に對する愛情の起ることのあるのは、畢竟暗示的影響に起因するのである。

是を要するに同性愛の原因を以て、生殖腺の内分泌異常に歸せんとするスタイナッハの説は全然承認し得られない。殊に其の『發情腺』に於ける男性及び女性細胞に關する所説の全く誤謬にして取るに足らざることは、既にスチーヴエ、ローン、シユミンケ、ローマイス、ベンダ、モル等の指摘した處である。私等の見る處を以てするも、同性愛は單純なる生物學的説明によつて解釋し得らるゝもので無く、主として心理的方面より其の本性を闡明すべきものであると信ずる。

先天性生殖腺發育不全

生殖腺（男子に於ては睾丸、女子に於ては卵巣）は生殖素たる精蟲、卵子を製造する許りで無く、所謂「性ホルモン」Geschlechtshormon を分泌して、之を全身血液中に送入し、爾他の生殖機關の發育を促進し、且つ男女固有の形質、即ち第二次性徴を喚起する特殊の内分泌機關である。されば先天性に生殖腺の發育不完全なる者に於ては、從つて生殖機關の發育も不良であり、また第二次性徴も著明に現はれない。而して男女を通じて生殖腺發育不全の者に認めらるゝ特徴は、其の身長の大なること及び上體（頭頂より恥骨縫合の上端に至る）と下體（恥骨縫合の下端より足蹠に至る）との釣合の變化することである。普通の男子では上體と下體との長さの比例は100：100. 普通の女子では 100：96 あるが、先天性生殖腺發育不全者では下體の長さが著しく增加し、其のため上體と下體との比例は 100：125 に變化するやうになる。（男女を通じて）此の如く下體の發育顯著となり、從つて身長の大となるのは如何なる理由に基くかと云ふに、元來、生殖腺は骨格の發育成長を促進する腦下垂體、甲狀腺、胸腺の内分泌作用を抑制する機能をも有つてゐる

故、先天性に生殖腺の發育が不完全なる者に於ては、這般の抑制作用を逞うし得られないがため、腦下垂體等の機能が偏勝し、骨格の發育成長が促進せらるゝが故に、身長高くなり、且つ下體の長さが上體の長さに比例して大きくなるのである。

上記の如く、生殖腺の發育不完全なる者は、其の身長高く、且つ上體と下體との比例の變化する外に、第二次性徵著明ならず、男子に於ては體毛は甚だ少く或は全く缺如し、音聲は高くして鋭く、喉頭は隆起せず、睪丸は甚だ小にして榛實大に過ぎざることが多い。女子に於ては乳房發育せず、外陰部は小兒的狀態に留つてゐる。而して月經は來潮せず或は甚だ遲く現はれ、且つ不規則にして其の分量も少い。男子に於ては精蟲の形成せらるゝこと無く、たゞ攝護腺分泌液が少量に形成せらるゝに過ぎない。されど性慾に至つては必ずしも缺如すること無く、微弱ながらも存在するが普通である。現にグッゲンハイメルの如きは、十四年間も結婚生活を營み、不完全ながらも性交を行つた者を見たこともある。

近時アルッール・ワイルが『獨逸醫事週報』千九百二十二年度第六號の紙上に公にした『性慾と內分泌』A. Weil, Geschlechtstrieb und innere Sekretion, Deut. med. Woch. Nr. 6. 1922. なる論文中に揭載した實驗例は、先天性生殖腺發育不全症の徵候を知悉する上に於て大に參考に

なるから、左に之を抄譯して見よう。

一、A・P（女性）千八百九十八年生誕、兩親は健全、第二子、同胞五人、生後三年にして始めて步行することが出來た。五歲より十四歲まで小學校に學び成績は佳良であつた。爾後、農業勞働に從事、體格强固、筋力旺盛、思春期に入つたことを自覺せず。二十三歲に至つて始めて月經があつた。併し僅かに血液の數滴を出すに過ぎない。

身體を精驗するに身長高く、筋肉の發育著明なれども、女性固有の第二次性徵は著しからず、乳房及び大陰唇の發育弱く、小陰唇は可なり能く發育すれども、陰核は小さく、膣は盲端に終り、子宮及び卵巢を觸れない。身長百七十五仙迷、上體の長さ七十九仙迷、下體の長さ九十六仙迷（上體と下體との比例 100：121）、性慾缺乏し、異性に對して全く無頓着である。併し智力は其の敎育及び境遇より見れば能く發育してゐる。

二、S・K（男性）千八百八十七年生誕、兩親は神經質、生れて虛弱であつたが、周到なる看護によつて生長することを得、小學校に入つて後も成績善かつたのに、十二歲の頃より其の性質が他の男童と異れることを自覺するに至つた。即ち男童のする遊戲を好まず、いつも引込み勝ちで、少しも活潑らしい處が無く、且つ同年の男兒に反して性的感覺も發育しなかつた。

思春期に入つたことを知らず、音聲も變化せず、また鬚髭も發生せず、二十八歳までは一度も性的要求の起つたことも無く、從つて異性に接觸することも無かつたが、兩親の勸告によつて己むを得ず結婚した。併し精神的に妻を愛するのみであつた。但し結婚後一ヶ年は、微弱ながらも性慾興奮し、二三回性交を行つたことがあつたが、併し精液が早く射出して、完全に性交を遂行することが出來なかつた。其の後、性慾は再び沈衰したので、妻に對する同情の念から、陽勢恢復のために種々の醫治を受けたが、其の効果が見えないので、遂にワイルの診を請ふに至つたのである。

身體を精査するに、身長高くして皮下脂肪に富み、殊に乳房、股部には脂肪最も多く、皮膚軟弱にして天鵞絨に觸るゝが如く、體毛發生せず、たゞ陰部に軟き恥毛を見るに過ぎない。喉頭は隆起せず、音聲は恰も兒童の聲の如く、睾丸は僅か豌豆大にして其の質硬固である。身長百七十六仙迷、上體の長さ八十三仙迷、下體の長さ九十三仙迷、上體と下體との比例 100：112)、性慾は缺乏するも、たゞ其の妻に對する顧慮から、結婚後一ヶ年内に存在した微弱の陽勢を恢復したく希望せるに過ぎない。智力は能く發育し、義父の業務を繼承して熱心に活動してゐる。

以上の二例に就いて生殖腺の發育不全と性慾との關係を觀るに、女性の例に於ては、全く性慾が缺損し、男性の例に於ては、思春期後長き年月を經ても未だ性慾が發動せず、結婚後一年內には微弱ながらも性慾が起つたものゝ、併しまた軈て消失して了つた。されば生殖腺の內分泌と性慾との間に親密なる關係の存することは上記の二例に徵しても明かである。さりながら性慾は他の本能や意識と同しく、大腦の機能に基くものであるから、生殖腺と直接必至の關係あるもので無く、たゞ其の內分泌物たる「ホルモン」の作用によつて發動興奮するものである故、生殖腺の發育不全者と雖も、性慾其者は常に必ずしも缺乏するに限らず、時としては其の明かに存在することを證明し得らるゝものも尠く無い。近時角尾晋氏が『中外醫事新報』に發表せられた報告を見るも『異性に對する好愛の念生じ、之に次いで性慾發生するに至れり。然れども常人と異る所は其の力甚だ弱くして抑壓すること極めて容易なるにあり。勃起は起り自慰的行爲もまた行はれたれども、精液は快感を感ずるに拘はらず出でたること無しとある。

男子に於ける生殖腺即ち睪丸の先天性發育不全及び之に起因する全身の變化を稱して『類宦官症』Eunuchoidismus と云ふ。宦官とは支那の宮庭に使役された去勢者のことであるが、近世の歐洲に於ても、宗敎上の迷信より睪丸を除去する一種の宗派、所謂「スコプチエン」派 Sekte der

Skopzien があつて、露國及び羅馬尼に多數の信徒を有つてゐる。之に就いてタンドレル及びペリカンの調査した成績に依れば、小兒時代に去勢した男子に現はるゝ身體上の變化には二種の型式がある。其の第一型は上下兩肢甚だ長くして身長高く、一定の體部、例へば陰阜、下腹部には脂肪量增加するも、第二型のものに比すれば比較的に瘦せ形の方である。第二型は身體の脂肪織著しく增殖して甚だしく肥滿するのが特徴であつて、下肢上肢も普通人に比すれば長いが、併し第一型に於けるが如くに顯著でない。而して第一型及び第二型に通有せる特殊の全身變化は、身體の活力に乏しく、顏面の皮膚は黃色を帶び、早くより數多の皺襞を生じて老人の如き外貌を呈し、頭髮及び眉毛は善く發育すれども、鬚髭は發生しない。但し高齡に達したものに於ては發生することもあるが、それさへたゞ口角部と頤部とに限られてゐる。腋毛陰毛も少く、軀幹四肢の體毛は全く缺如し、喉頭は發育突隆せず、從つて音聲も依然小兒的であり、また陰莖の發育も不完全で短小である。

上記の如き去勢者の全身變化は、先天性に生殖腺の發育不完全なるものに於ても認められるから、之を類宦官症——適譯は寧ろ類去勢者症——と稱するのである。而して女子に於ては、小兒時代に卵巢を取除いた例は殆ど見當らぬ故、身體上に現はるゝ變化の有樣を小兒時代より觀察す

ることが出來ない。併し思春期以後に、卵巢の疾病等に因つて卵巢を摘出することは可なり多いから、之によつて身體上に現はるゝ變化を研究することは容易である。それは月經の廢絕、子宮の萎縮の他に、音聲が太くなつて濁調を帶び、四肢軀幹に於ける體毛の數が多くなり、また上唇に髭鬚が少し許り生じて來る。而して性慾に至つては男女共に沈衰することもあれば、また依然存在することもある。小兒時代に去勢された男子は槪して性慾微弱なるか、或は缺損するものであるが、思春期後に至つて睪丸、卵巢を摘出された者に、性慾の消失するが如きことは決して無い。

非自然的性交に因る姙娠

性交時に於ける女子の快感と姙娠との間に一定の關係ありとの說は、夙に往昔より多くの學者間に唱へられ、太古の名醫ソラヌスの如きも『食慾なく或は嫌つて食したる食物の消化せられざるが如く、性交に對する快樂と意向との無ければ、精液を攝取すること能はず、從つて姙娠すること能はず』Wie die Speise, welche ohne Appetit oder mit Widerwillen genossen wird, nicht verdaut wird, so kann auch der Samen nicht aufgenommen werden und die Schwangerschaft herbeiführen, wenn Lust und Neigung zum Koitus fehlt と云つた。之を近世醫家の實驗に徵するも、交接時に快感を覺えざる婦人には概して不姙者が多い。例へばダンカンの說に依れば、百九十一人の不姙婦の中、三十九人は性慾を缺如し、六十二人は性交の快を感せざる者なりしと云ひ、キッシュは六十九人の不姙婦の中、其の三十八%は快感の缺乏せる者なりしことを記した。世俗の間でも、夫に對して冷淡不忠實なる女子が多年姙娠せざるにも拘はらず、姦通によつて始めて姙娠するが如きことのあるのは、屢々吾人の聞知する處で、また永い年月の間一度も子を擧

げたこと無き婦人が、其の夫と離別して新たに他に嫁した後、始めて妊娠するやうなことのあるのも、別に珍らしい話でない。希臘太古の大學者アリストテレースも夙に此の如き事實に注目したことがある。

女性に於ける快感の缺乏、所謂「チスパロイニー」Dyspareunie が何故に前記の如く妊娠を來すこと甚だ稀なるかと云ふに、それは性交時に於ける女子の快感は反射性に子宮の收縮下降を伴ひ、其の再び擴張するに當つて膣内に射出されたる精液を吸搾すること恰も壓搾された護謨球の再び弛緩する時、水分を其の内に吸收するのと同じく且つ快感と共に子宮頸部より「アルカリ」性の粘液を多量に分泌して、精蟲の運動を益々活潑ならしめ、子宮内に進入し易からしむるがためである。さればチオボルドの如きは、性的に興奮する婦人のみが妊娠し、然らざる者は毫も妊娠することと無しとまで、極端の説を述べた位である。

此の如く快感時の子宮狀態は妊娠の可能を容易ならしむるものであるが、併し他の一面に於ては、時として快感なくとも妊娠することがある。それは强姦せられた女子が往々妊娠することに徴しても明かである。また女子が非常に酩酊して、人事を覺えざる程に意識を失つた際にも往々妊娠することのあるのは、ホフマンの法醫學書中に引用したシユミツト年報の記事を見ても明か

である。

されど前記の如き事實よりも猶ほ一層興味のあるのは、正常の性交を遂げず、單に膣外に射精したゞけで姙娠する者が往々在ることで、即ち先天性或は後天性の原因によつて膣口及び膣腔が殆ど閉塞して、到底正常の交接を許さゞる女子に於ても、膣外に射出された精液中の精蟲が、自己の活潑なる運動によつて膣内を上行して、内部生殖機關内に進入し、以て受精せしむる事實である。之に關する若干の實例を左に擧げて見よう。

ハヌシユケは生來兩側の大陰唇殆ど全部癒着して、其の間に僅かに針尖大の微孔を殘した一女子の姙娠せるを見た。

スカンツオニーは妙齢の一女子に於て、其の膣孔が硬固緊張せる處女膜で閉鎖せられ、たゞ其の中央部に粟粒大の微孔を留めて、漸く普通の魚骨消息子を通ずるに過ぎない程なるにも拘はらず、姙娠四ケ月の徴候を呈せることを發見した。

ホルトンは膣が閉鎖して微孔をも認めざる者の姙娠せるのを見た。そこで膣口部を精細に檢査した處、硬固なる處女膜が緊張して全く之を閉鎖し、膣粘膜に移行する下部の稍中央部に當つて類赤色を帶びた粘液の附着せるを認めたので之を除去した處、始めて一の小圓孔を發見することが

出來た。

ブラウンは到底正常の性交を許すこと能はざる處女膜閉鎖の二例に於て、孰れも姙娠せることを發見した。其の中の一例は膣口なく、膣は常態の尿道の下端に開口してゐた。他の一例は處女膜が殆ど閉鎖して、僅かに菲薄なる消息子を通過するに足るべき微孔を認むるに過ぎなかつた。

フエーリングの實驗した三十二歳の女子は、初産の際膀胱膣瘻を生じ、數回手術を受けた結果、遂に膣閉鎖を來し、僅かに微細の消息子を通ずるに過ぎざる微孔によつて膣から尿を排泄してゐたが、それにも拘はらず姙娠した。

レオポルドは全然交接不能なる二人の女子の姙娠したことを報告した。其の中の一人は三年前結婚したが、處女膜の大部分閉鎖して、膣口が著しく狹隘なるがため、正常の性交を行ふこと不可能なるにも拘はらず姙娠し、他の一人は十八歳の女子で、膣痙症のために交接不能となり、處女膜は猶ほ健存したが、姙娠することが出來た。

ブライスキーは二十三歳の初姙婦に於て、膣の中央部と下三分の一との間が盲嚢狀となつて閉鎖し、其の嚢壁に帽針頭大の微孔の殘存せるを見た。

セキシングルは卵巣嚢腫と診斷せられた一少女を精檢し、姙娠第三十乃至三十二週なることを

確證したが、其の處女膜は全く健存し、膣もまた處女たるの特徴を呈し、漸く指を挿入し得らるるに過ぎなかつた。

我國では嘗て金澤の山田鎌次氏は交接不能なる後天性膣狹窄患者に於て、妊娠六ヶ月の徴候を呈した者を報告し、近時東京の佐藤美實氏は二十四歳の初姙婦に於て、處女膜が殆ど全く閉鎖し、其の上部に一箇の微孔を殘せることを認めた。

上記の如く到底正常の性交を遂行すること不可能なる女性に於ても、猶ほ往々妊娠することを見れば、妊娠に最も必要なるものは、内部生殖機關内に向つて活潑に進入する精蟲其者の運動なることが明かである。此の點に就いては既にロットも説いた處で、其の説に依れば、精蟲は毛細管の强流内をも克く通過し、「デックグラス」（覆蓋硝子）の長徑十八密迷の距離をも、二三分にして通過し、また其の運動を促進する液體内に於ては、非常に細微なる空隙、例へば動物膜と雖も之を通過するとのことである。されば膣口及び膣の殆ど閉鎖した者でも、何處かに微小の孔があれば、たとひ性交を營まずとも、膣外の射精によつて妊娠し得る譯である。

醫學上より觀たる獨身生活の利害（中）

（二）

男子の生殖元たる精液は、尿、糞便の如くに屢々排泄すべきもので無い。吾人は健康を維持するがために一定時日間に糞尿を排出するの要あれども、獨り精液に至つては決して有害なる代謝性產物に非ず、其の中には生殖素たる精蟲の他に、全身の筋肉、神經系の機能を鼓舞する一種有力の物質を含有することは、生理學的實驗に徵して殆ど疑ひなき處である。往時、佛國の醫學者ブラウンセカールは、幼若動物の睪丸より採取した液汁を注射して全身の筋力を旺盛にし活氣を增加し、また身體の榮養を亢進することを認め、此の如き有力なる作用を營む物質に對して、「スペルマチン」Spermatin といふ名稱を與へた。然るに多くの學者はブラウンセカールの說を信ぜず、睪丸越幾斯の注射によつて上記の如き現象の起るのは、「スペルマチン」其者の効力に因るに非ずして、暗示に基く精神作用に他ならざるものなりと看做した。さりながらツオート及びプレーグルの生理學的實驗に依るに、睪丸越幾斯が特に神經系及び筋肉の機能を增進する作用ある

ことは明かであつて、此の事實は有名なる衛生學者グルーベルも之を認めてゐる。其の說に依れば睪丸越幾斯或は精液を動物及び人間に注射するに、筋肉及び運動神經の興奮力は增進して疲勞すること少く、また疲勞するとも速かに恢復すると云つてゐる。此の如き事實は古代の勇士劍客等が、性慾を抑制して身體の强壯を圖り、活動力を涵養した實際上の事實に裏書きするものである。人の知るが如く、希臘羅馬の太古時代に於ける勇士が、其の體力活氣を維持養成せんがために、勉めて婦女子に接するを避け性慾を抑制したことは史上顯著なる事實である。今日に於ても、英國の競技運動家、獵者等は、二十五歳までは童貞生活を嚴守して、筋力體格を强健ならしむるに勉め、また獨逸に於ても、競技運動家就中、漕手の如きは性交を避ける慣習になつてゐる。カーペンターが『青年の生活間、性慾抑制の時期を延長すれば、其の身體の發育期をも延長せしむ。若し青年にして早くより肉的性的行爲に慣るゝが如きことあらんか、身體及び精神の發育は抑制せらるべし』Die Verlängerung der Periode der Enthaltsamkeit im Leben des Jünglings bedeutet auch die Verl ngerung der Periode seines Wachstums. Sinnliche und sexuelle Gewohnheiten, in früher Jugend geübt, bedeuten ein gehemmtes Wachstum, sowohl auf physischen wie auf geistigem Gebiete. と云つたのは慥かに肯綮に中れる言である。

抑々精液が身體の元氣活力と一定の關係を有することは、夙に支那古代の學者も認めた處で、遜眞人の說にも『男子四十歲以後、血氣漸く衰ふるを以て、精液を漏らさずして唯交接すべし』とある。思ふに性慾を抑制する場合に於ては、精液の一部分は血液中に吸收せらるゝもので、エキスネルは精嚢より血液中に入るやうに思惟したが、近時ローマイスの說に依れば、副睾丸の錐體部より吸收せられるらしい。而して此の精液成分の吸收が身體に對して良好に作用し、筋肉及び神經系の機能を鼓舞することは、前記の事實に徵して殆ど疑ひなき處である。また近年世に喧傳せられたスタイナッハ氏の『若返り法』即ち睾丸と副睾丸との間に於て、輸精管を結紮することによつて、一時的に食慾の增進、毛髮の新生、性慾の發揚、新陳代謝亢進等が起つて、所謂若返り現象の現はれるのは、畢竟、輸精管結紮のために睾丸の細精管內に精液が鬱滯して上皮細胞の崩壞を伴ひ、其の鬱滯した精液及び細精管上皮の崩壞產物が、血液中に吸收せらるゝが爲めであることは、ローマイス等の說く處である。但し睾丸と副睾丸との間に於て輸精管を結紮するがため、通常の場合の如くに副睾丸が精液成分を吸收すること能はざるに因り、睾丸の間質に存する間細胞が代償性に吸收作用を營むやうになるので、即ち輸精管結紮後、間細胞の腫大するのは、要するに間細胞が副睾丸に代つて吸收作用を營むより起る處の代償肥大であらう。

以上論述した處に依つて明かなるが如く、性慾の抑制は決して有害なるもので無く、寧ろ良好の影響を及ぼすものである。大生理學者ハルレルは自體の經驗に徵して、嚴に性慾を抑制する時は愛慾の念は速かに消失し、身心著しく爽快となるを覺え、また筋力の增進を感ずることを說き、バルツアックは靑年の學生に對して、童貞、節制、勤勉の三者が成功の基礎なることを敎へた。然るに世の醫家の中には、久しく性交を廢する時は遂に陰萎を來すに至ると說く者もある。例へばハンモンドは羅馬舊敎の僧侶の如き禁慾生活をなす者に屢々陰萎の起ることを述べ、またシユレンク・ノツチングも、年齡十五歲の頃より性慾の窘迫を感じ、其の後兄の勸告に從つて五年間性慾を抑制した一男子が其の後再び女子に接したが、陰萎に陷つたことを發見した一例を報告したことがある。さりながら此の如き實例は決して屢々認めらるゝもので無く、可なり久しき年月に亙つて女色を絕つても、猶は依然として勃起機能の存する者も尠く無い。フユールブリンゲルは十六年間全く性交を廢した一男子に就いて、毫も勃起機能の衰へざりしことを見た。

さりながら前號に於ても述べた如く、性慾抑制の身心に害なきことは、生來健全なる男子に於てのみ見る處であつて、神經病性素質を有する者、或は放縱の生活をなして性的興奮性の亢進せる者に於ては、全く別問題である。但し性慾の强盛なる者でも、其の身心が元來健全にして理性

に富み、克巳心に長せる者ならば、たとひ性交を廢してもたゞ輕微の違和を感ずるに留り、何等有害なる影響を受くるもので無い。されば外界の刺戟誘惑を避くるに勉め、精神を學問の研究或は自己の職業に傾注し、且つ性慾を發動し易き酒類の飲用を禁じて、秩序あり規律ある生活を送るならば、性慾の窘迫に苦しめらるゝことも無く、從つて身心に障碍を來す虞も無い。佛國の學者マルタン・ド・コーは數學の研究を以て、强烈なる性慾を抑制するに最も有効なる方法であると云つた。之に反して不健全なる文學書を讀み、美味の肉食に飽き、酒類を濫用するが如き者は、性慾が發揚興奮し易く、之を强いて抑制する時は、レーウエンフエルドの記した如く、遺精、精系及び睪丸に於ける一種不快の感覺、精神抑鬱、性的過敏等を來し、若し生來神經病性素質を有し或は以前不檢束なる放縱生活をなした者ならば、クラフト・エビングの述べた如く、重症の神經性疾患乃至精神病を發するの虞がある。

既婚の男子に於ても、旅行或は妻女の疾病のために一時禁慾を餘儀なくせらるゝ時は、精神の抑鬱、精系及び睪丸に於ける壓重疼痛の感覺等を覺ゆることがある。併し此の如き症狀は、神經衰弱症のものに認むることが多く、且つ一時性に發するに過ぎないから、別に意に介するに足らない。

女性陰毛の生理

陰毛は第二次性徴の一であつて、生殖腺が成熟し、性「ホルモン」の内分泌の始まると共に發生すること、腋毛、鬚髭等と同じであるが、併し他の毛髮とは其の狀態及び性質を異にしてゐる。女子は思春期に達するに先だち、既に陰部の處々に軟弱なる小毛を發生してゐるが、次いで思春期に達した後は、次第に濃厚となる陰毛を生じて來る。而して其の發育は先づ陰阜の中央部及び大陰唇の邊緣より始まるが常である。最初に發生する陰毛は多くは鉛直であつて捲縮すること少きも、既に十七八歳以後となれば、殆ど常に屈曲捲縮し、或は螺旋狀、或は輪狀に轉回する。而して其の陰毛は陰阜の中央部に向ふに從つて次第に濃厚强剛となり、之に反して陰阜の周邊に赴くに從つて稀薄となり薄弱となる。

毛髮の中、最も强剛なるは鬚髭であつて、其の直徑は〇・一四乃至〇・一五密迷であるが、之に次ぐは女子の陰毛で、其の直徑は同じく〇・一五密迷である。（男子の陰毛は〇・一一密迷）但し男子のに比すれば通常短きも、其の直徑は此の如く遙かに大であり且つ强剛なることは、夙にパッフの始めて認めた處である。而して其の長徑に至つては個人的に甚だしき差異ある

も、平均長徑は殆ど二乃至五仙迷であつて、其の強く捲縮せるものは九乃至十仙迷の長さに達するものもある。されどまた異常の長さを有するものもあつて、ヂャーンの如きは、一婦人に於て其の陰毛の頭髪よりも長く、膝の下方にまで達したことを見、バウリニーは羅馬の一女子に就いて其の陰毛が殆ど膝にまで達し、鬘を製作するために商人の買ふ處となつた一例を記し、またバルトリンは背部に於て編み合はすべき程の異常に長い陰毛を有せる者を見た。

女子陰毛の排列狀態は男子のに比して大に異つてゐる。男子に於ては陰部より下腹部に向つて上行し、臍部に達して上方に尖頂を有する三角形の狀態に排列し、また一方には肛門部にまで及ぶものであるが、女子に於ては多くは陰阜に限局し、外方は僅かに大陰唇、下方は會陰の中央部に達するに過ぎない。併し時としては男子に於けるが如き排列狀態を呈するものもある。ローテは北獨逸の女子に於て大約四%、ロムブロソーは伊太利の女子に於て五%、ペアは丁麻克の賣笑婦三千人の中、其の一・六%に之を見た。またシュルチエーは百名の婦人中、五人に就いて男子に於けるが如く臍部に達せるものを見た。其の他、往々陰毛が側方に擴がり、鼠蹊部及び大腿上部に及び、または腸骨棘に達するが如きものもある。

陰毛の色は頭髪の色に一致することが多い。されど必ずしも之に限つたことは無く、エッゲルの検査した千人の女子中、二百三十九人は黒き眼、三百三十三人は黒色の頭髪、三百二十九人は黒色の陰毛を有したが、之に反して七百六十一人は淡色の眼、六百六十七人は淡色の頭髪、

六百七十一人は淡色の陰毛を有つてゐた。されば黑き頭髪を有する者の中にも、其の陰毛の色の淡きものゝ在ることが分る。ローチは北獨逸の婦人千人に就いて檢査したが、其の陰毛は主として暗茶褐色であつた。而して赤き頭髪の女は從つて其の陰毛も赤く、黑き髪の女に於ては其の三分の二は黑色、三分の一は褐色の陰毛を有つてゐた。また猶太の女は主として褐色の陰毛である。

　女子の陰毛は腋毛と一定の比例的關係を有し腋毛の多い者は從つて陰毛も多い。また眉毛の強く發生する者に於ても同樣である。併し頭髪とは一定の關係が無い。ベアーは陰毛少き女子百四十四人の中、其の七十二人は頭髪の濃厚なるを見た。また陰毛が全く缺如し、或は殆ど之を有せざる者を殆ど女子の三%に於て認めた。

　女子陰毛の密度もまた個人に從つて種々である。ベアーは之を形容して、或は扁平にして捲縮せる芝草の如く、或は密生して高く茂れる藪の如きものありと云つた。プロッス・バルテルスの説に依れば、ビスマルク半島の婦人は陰毛甚だ多く密生し、之を以て自己の手を拭ふ手巾に代用する者さへあると云ふことである。而して女子の陰毛は他の毛髪に比して白色に變ずること最も遲いもので、此の事實は夙にアリストテレースも知つてゐた。またその菲薄となることも遲く、老人に至れば頭髪は既に著しく脱落すれども、陰毛は依然として脱落しない。

　陰毛は内部生殖機關の發育と密接の關係を有し、幼年時代に於て卵巣を摘出された者は決して陰毛を發生しない。卵巣の發育不完全なる者に於てもまた同樣である。プラントは子宮及び

卵巣の發育不完全なる一處女に就いて頭髮の長く發育せるにも拘はらず、陰毛及び腋毛が毫も發生しなかつたことを見た。此の如く陰毛は生殖機關の發育と一定の關係があるから、陰毛の多き者は、從つて內部生殖機關の發育も完全なると共に、性慾もまた強きことを唱ふる學者もある。ミッハエル・スコットは頭髮及び陰毛の粗剛にして、且つ捲縮せる女子は性慾強しといひ、ルーボは陰毛の密度、色、及び捲縮の狀態は性慾の強弱を判定すべき尺度なりといひ、マルチノーは生殖機關の發育愈々完全なるに從つて、陰毛も愈々多く發生するものであると記し、タルヂユは色情の濃厚なる女子に陰毛の多きことを說き、ベアーは二千二百人の賣笑婦を檢査して、其の陰毛の著しく密生した者の多數を發見したが、此の如き者は色情の念甚だ盛んであるといつた。其の他モラグリアも性慾の強き女子、就中賣笑婦を檢して陰毛の密生せるを認め、ロンブロソーもまた同一の成績を收めた。

されど私共の觀る處を以てすれば、陰毛の發生發育が、生殖腺の發育成熟と一定の關係あることは明白であつても、併し陰毛の多寡を以て性慾の強弱を推定する尺度となすことは出來ない。それは實際上の事實が證明してゐる。陰毛が缺如し、或は其の寡少なるものにして、性慾に濃厚なる者も決して尠くない。江戸時代の文化文政の頃、三代目阪東三津五郎の妻お傳は「かわらけお傳」と呼ばれて、陰毛の缺如した女性にも拘はらず、甚だしい淫婦で、數十人の情夫をこしらへ、世間に醜名を流したことは隱れもなき事實である。元來性慾は生殖腺の內分泌物によつて發揚興奮するものであるけれど

も、併し性慾其者は腦の官能の一であつて、生殖腺と直接必至の關係あるもので無い。此の事實は夙にガルの論じた處であるが、之を諸醫學者の實驗に徵しても、先天性に生殖腺が缺如するにも拘はらず、性慾が存在しまた甚だしく發揚して、淫縱なる性的生活を送つた婦人の往々あることも明白なる事實であつて、コルマン、パールス等は此の如き女性に就いて記述したことがある。然らば即ち單に陰毛の多寡によつて、性慾の强弱を推定せんとするが如きは偏見と謂はざるを得ない。

老婦の姙娠

此程信州の一讀者より六月一日發行の「信濃時事新聞」掲載「七十六歳の老婆が姙娠した」といふ記事の切拔を送られ、此樣な事例は實際あるものかさ問ひ合はされたから、玆に其の記事を轉載して私の意見を述べることにした。

松本市巾上町邊に住居せる俗稱あさと云ふ婆さんは性來の色情狂で、去んぬる年夫に死なれたが、其後度々伜の樣な內緣の夫を持ち自分は跳豆豆賣を渡世として居る。其服裝が頗る振つて居て、頭には赤い括りを掛け白粉を眞白につけ、若い娘のやうに赤いゆもじをさげては、熱かいお豆と云うて、毎日々々市中を廻つて居る。其婆さんが現に廿六歳になる內緣の夫を持つてゐるが、近頃姙娠して近く分娩するさ云ふので、近所界隈の評判となつて居るが、而も七十六歳で初產であるとの事である。

果して事實であるか否かは分らないが、之を事實さしても私等より觀れば別に奇とするに足らぬ。

抑々女子は四十五歳乃至五十歳にして月經が停止し、生殖

能力を失ふのが普通であるが、併し五十歳以後になつても、猶ほ依然として月經の來潮する者も稀でない。ベイゲルは七十歳、ボアモンは七十二歳、ガルチエンは七十五歳、サラチンは九十五歳、ブランカードは百六歳に至る迄、猶ほ月經の通じた女子があつたことを世に公にした。併し此等の報告は悉く信ずることが出來ない。蓋しその月經と認めてゐたものは、眞に週期性に反覆する子宮の生理的出血に非ずして、高老者に發生する子宮動脈硬化症に基く出血や、或は子宮頸部によく生ずる靜脈擴張の破裂に因る出血や、或は其の他の原因より生ずる病理的出血を月經と誤認した者もあるからで、現にスカンツオニーは六十一歳に至る迄月經があつたといふ者を解剖した處が、其の卵巢は既に萎縮して緻密なる瘢痕組織に變化し、毫も黄體の痕跡を認むることが出來なかつたが、子宮頸部の上部に豌豆大許りの二箇の茸腫が生じてゐて、それから出血したことが分つた。併し他の一方に於て、僅かに五十歳以後に至つても猶ほ月經が通じてゐたものと看做すべき實例も稀有でない。其の中にもタイルトは六十一歳、タルチーは六十五歳、マイエルは六十四歳、ベイゲルは七十二歳、エムメツトは七十歳に至る迄月經があつた者を報告した。既に此の如き者ある以上また六七十歳になつても姙娠する者あることも怪しむに足らない。ハルレルは六十三歳、及び七十歳の老婦の子を生んだのを見、ブリオンは七十二歳にして流産した者を記述した。また「江戸繁昌記」の著者寺門靜軒は七十歳にして男兒を分娩した者あつたことを記し、また「好生緒言」にも「江戸本郷元坊、商某妻、年七十産男、此天保四年癸巳之事也」とある。また「獨娯抄」には天明七年四月、信濃水谷村の農夫德右衛門年百四十七、その妻百三十五歳にして女兒を産んだことが記してある。



「サロメ」とザヂスムス

虐待性淫亂症即ち「ザヂスムス」を材料にした創作には Barbey d' Aurevilly の Diaboliques や、Huyman の Là bas や Eulenburg の Ritter Blaubart 等もあるが、殊に Oscar Wild の Salome は我が國人にも知られ、一時新劇によつて殆ど到る處に公演されたこともあるから、私は茲に「サロメ」を撰んで、「ザヂスムス」の一班を說明することにした。

「サロメ」の一篇は全體を通じてバトカの所謂『戰慄すべき感情の悲劇』Die schaurige Gefühltragödie である。千八百九十二年、オスカー・ワイルドの手に成つた創作で、一代の名女優サラ・ベルナールが始めて之を公演せんとした時、淫猥なるの故を以て其の筋から興行を禁止された。然るに其の後三年を經て、獨逸のドレスデンに於てストラウスが始めて之を上演して以來、大に世評を博し、遂に歐洲各國に演せられるやうになつた。戲曲の大意は――旣に知つて居る讀者も多からうが――サロメとは猶太王ヘロドの妃ヘロヂアスの前の夫たる王との間に生れた妙齡の美姫で、ヘロド王とナーラボス大尉二人より戀ひせられてゐる。處がヘロド王が羅馬皇帝よりの使者を饗應する席上に於て、サロメは端なくも豫言者ヨカナンの『野の

百合花の如くに白き』肌膚『黒い葡萄のやうに』黒い頭髮『猩々緋のやうに眞赤な』口唇に見惚れて熱烈なる愛情を喚起し、進んで接吻せんとする。併し豫言者は彼女を罵り辱めて之を拒絶する。ナーラボス大尉は自身の戀の到底成る見込なきを知つて自殺する。處が、ヘロド王は豫ねてより彼女に人知れず戀に焦れてゐるので、其の歡心を求むるために、起つて舞はんことを勸める。そこで、サロメは其の舞ふ報酬として何なりとも自分の望むものを與へると云ふ誓約を王に爲さしめた後、一曲の舞を奏し、王に對して豫言者ヨカナンの首を斬つて、之を銀盤に載せ下賜せられんことを請ふ。王は大に驚き、いろ〳〵說きすかして、其の請求を撤去せしめるやうに苦心するも、彼女はどうしても聞き入れないので、王は已むを得ず、誓約の言を重んじ、副手をしてヨカナンの首を斬らしめ、鮮血に滲んだ生首を銀盤に載せて彼女に與へる。サロメはいかにも嬉しげに微笑を湛へて、ヨカナンの生首に接し、其の眞紅の唇に接吻する。この刹那、王は嫉妬のあまり思慮分別を忘れて、兵士に命じ婿を以て彼女を壓殺せしめると云ふのが戲曲「サロメ」の大意であつて、いづれも戀のために非業の死を遂ぐるといふ血腥い悲劇である。

私は玆に於てか女主人公サロメに就いて一言しなければならない。彼女が王に請うて豫言者ヨカナンの生首を迫るのは、其の熱烈なる愛情を拒絕したヨカナンに對する復讐心にも出たことであるが、併しそれよりも彼に接吻して其の燃ゆるが如き情熱を滿足せしめんとする强烈の性慾が、主として之を爲さしめたのである。彼女

はヨカナンの肉體の美に憧憬して、殆ど抑制することの出來ない熱情から、ヨカナンを殺して之を死骸にして迄も犯さねば止まぬ程の女性である。そこに「ザヂスムス」「ルストモルド」(殺人淫樂)の氣分が明白に現はれてゐるのである。

自己の戀ひ慕へる異性の身體を傷つけ、毒々しい鮮血の淋漓として流れ出づる有樣を見て、層一層熱情が激發し、快美の感を覺ゆるのが「ザヂスムス」であり、更に一歩を進めて其の相手の生命を絕ち、泉のやうに迸り出づる血潮を吸ひ、或は血腥き內臟を喰つたりして、充分に熱情を漏らすのが「ルストモルド」である。這般の殘酷なる性慾倒錯は、旣に多數の法醫學者及び精神病學者等によつて實驗せられた。サロメの病的行動は固より作者オスカー・ワイルドの空想によつて描かれたものであるが、併し異性を虐遇して絕大の快樂を感ずる女性のあることは疑ふべからざる事實である。エリスが其の著『性感』Geschlechtsgefühl の中に記した「ヒステリー」性のR・D夫人(二十五歲)の如きは慥かに其の一實例である。此の婦人は自身なり異性なりの身體を傷つけ、多量の血液の泉の如く湧き出づる凄じい有樣を見る時、いつも强烈なる性的興奮を來した。彼女は屢々其の心中に戀ひ慕へる男子の面影を描き、其の血液を吸吸するを想像して、殆ど名狀すべからざる絕大の快感を貪つた。クラフト・エビングもまた此の種の人間に就いての實例を多く記載したが、其の中にも二十五歲の神經質なる一男子は、自己が戀慕した女子の流血するの狀を見て、其の情熱を充たさんとし、其の姪に當る二人の女と

一人の下婢とを傷つけんとしたことがあり、或は心の中に異性の流血する有樣を想像して快感を飽かしめたことがあり、或は敵兵となつて一市を襲ひ、そこに住める女子を苦しめ、また殺害する狀況を想像したこともあつた。

「サロメ」の戲曲も肉體と血液とを骨子としたザヂスムス的戲曲である。愛人を殺害した上にも、其の鮮血に滲んだ生首に接吻して、燃ゆるが如き性慾を滿足する病的女性をヒロインとした官能的作物である。之を醫學上より見れば多少興趣が無いではないが、藝術上の作品として果してどれだけ美的價値があるであらうか。

維納の劇評家ブルクハルドが此の戲曲を以て『屍姦の悲劇』Tragodie der Leichenschändung と評したのは蓋し當然である。作者ォスカー・ワイルド其人はデカタン的な病的な人間で、同性の愛に陷り非倫の醜行を爲したため獄裡の人となり、冷峻なる流離落魄の生活を送らねばならぬやうな敗殘の身の上となつたことは今更茲に說く迄もないが、此樣な文士の手によつて其の病的程度の一層顯著にして且つ殘酷なる「ザヂスムス」の女性を描寫し、所謂『屍姦の悲劇』が創作されたのは蓋し偶然で無いやうに思はれる。

膣孔閉鎖

吾邦の古史に徵するに、今を去ること千有餘年前の往昔に於て、膣孔閉鎖を手術した者がある。時は一條天皇の御宇で、之を手術したのは和氣秀成である。「續古事談」に曰く、「醫師采女正盛親がもとへ、十七八許りなる女來て、前の穴なし、如何にすべきと云ひければ、之を見て力及ばずと云ひければ、泣く〳〵歸りにけり。後に和氣秀成といふ醫師之を聞きて、其の女を呼び、針の刀にて皮を刺し切りたりければ、世の常の人のやうになりにけり。稀有のことなり。」と。思ふに當時では稀有のことであつたであらう。

英國宮廷腐敗史の一節

——ヘンリー第八世と黴毒——

英國の近世史中、同國宮廷の風儀の甚だしく亂れて、腐敗墮落を極めたこと最も著しかつたのは、實にヘンリー第八世の時代である。王は放縱淫蕩を恣にし、在位中六回迄も王后を換へ、しかも其の中二人を死刑に處した。而して王の不倫行爲中、その最も甚だしいのは、カザリン王后を廢してボレインを娶つたことである。ボレインは王が嘗て或貴族の妻と姦通して生ませた實子であるから、父子相姦の非行を犯したものである。此の如く背倫淫逸なるヘンリー八世は、千五百四十七年、五十六歲にして崩御し、その病症は下肢の不治潰瘍に併發した水腫病と傳へられてゐるが、併し王は嘗て黴毒に罹つた疑がある。王の時代は黴毒が歐洲に汎く蔓延して猖獗を極め、歐洲各國の帝王、侯伯、僧侶等の中にも之に罹つた者多かつたが、淫蕩なるヘンリー八世もまた之に洩れなかつたやうである。王が同病に罹つた疑ひのあることは、夙にカーリー (Currie, Edinburgh medical journal, 1888-89) の論じた處で、王が多くの婦人に生ませた子供の大部分は早產死產に終つた。カザリン王后の生んだ王子中、生長したのは第五番目

のマリア王女だけで、第一番目は分娩後直ちに死亡し、第四番目は月滿たずして早產した。またアンナ・ボレイン王后の腹よりは、エリサベス王女が成長したゞけで、其の後二回姙娠したが、一回は早產に終り、他の一回は死兒を生んだ。ボレインの後に娶つたセイムア后はエドアード第六世を生んだ後、產褥中に死んだ。その後に娶つた三人の王后は、いづれも子が無かつた。此の如くいづれの王后も流產早產死產に終つたこと多く、また子の宿らなかつた事實に徵すれば、王が黴毒に罹つた疑の起るのも當然である。また幸ひに生長した王子エドアード及びマリアも、其の頭蓋はいづれも幅廣くして前頭が突出したのみならず、生來虛弱であつたことに徵しても、遺傳黴毒の疑がある。併し、クラインウエヒテル（Kleinwächter, Wiener medizinische Presse. 1891）は此說に反して、王の黴毒に感染しなかつたことを論じた。その說に依れば、黴毒の遺傳は長子より次子、次子より末子と次第に減じて來るものであるのに、ヘンリー八世の王子に於ては然らず、現にエリサベス女王の如きは別に王の末子でも無く、早產または流產した同胞の間に挾まれてゐるにも拘はらず、至極健全であつて、遂に王位に上つたでは無いかと云ふのである。しかし史家の論ずるが如く、エリサベスは決して王の實子でなく、ボレイン王后が王の眼を偸んで姦通した情夫との間に出來た子であるとすれば、エリサベスが健全であつたのも當然のことで、クラインウエヒテルの異論も全然取るに足らぬことになる。



日本の古文學と「性」(一)

(一)『伊勢物語』に於ける同性愛と同胞の戀

伊勢物語は、人の知るが如く、主として在原業平の戀物語を記載したものであるが、其の中同性愛と同胞の戀を記せるものに各一項ある。

昔男、いとうるはしき友ありけり。今時去らず逢ひ思ひけるを、他の國へいきけるを、いとあはれと思ひて別れけり。月日經ておこせる文に、あさましう對面せで月日の經にけること、忘れやしし玉ひけん、と痛く思ひわびてなん侍る。世の中の人の心は、目かるれば忘れぬべきものにこそあんめれ、といへりければ詠みてやる。

めかるともおもほえなくに忘らるゝ
時しなけば面かげに立つ

といへるは同性愛なることが明かである。但し其の相手の誰であつたかは判然しないが、空海の弟眞雅僧都が業平を慕つて『思ひいづる常盤の山の岩つゝじ言はねばこそあれ戀ひしきものを』(古今集戀歌の中にあり)と詠んだことは、『消閑雜記』等にも見えて人の知る處であるが、右の一文に於ける相手の果して眞雅であつたか、或は他の男子であつたかは考ふるに由がない。

昔男、妹のいとをかしげなるが、琴彈きけるを見て、

うらわかみねよげに見ゆる若草を
人の結ばんことをしぞ思ふ

返し

初草のなど珍らしき言の葉ぞ
うらなく物を思ひけるかな

といへるは兄妹間の戀である。但し其の妹といへるは異腹の妹であつたに違ひない。平安朝時代の頃までは異腹の兄妹相戀ひ相契りて非倫の行とも思はなかつた。參議小野篁が其の妹を戀ひしたのも其の一例である。『玉葉集』に篁兄妹間に贈答した戀歌が載つてある。

中に行く芳野の川はあせなゝん
妹脊の山をこえて見つべく

返し

妹脊山かげだに見えてやみぬべく
芳野の川は濁れとぞ思ふ

（二）陰毛を詠んだ古歌

在原業平の東國に下りて陸奥に到り八十島といへる處で宿つた時、此の地で死んだといふ小野小町の髑髏の目の穴より、一本生ひ出た薄の風に靡きて『秋風の吹くにつけてもあなめ〳〵』と歌の上句を詠み出づるを聞き、其の下の句をつけて『をのとは言はじ薄生ひにけり』と詠んだことが『無名秘抄』にも見えて人の知る處であるが、此の歌が女陰を詠んだものなることは、既に古人も說いた處で、髑髏の目の穴を膣に見立て、それより生ひ出た薄を陰毛に聯想したものであらう。されどそれよりも具象的に陰毛を詠んだものは、『堤中納言物語』の中に見える。

かは蟲にまぎるゝ前の毛の末に

あたるばかりの人は無きかな

といへる和歌である。『かは蟲』とは即ち毛蟲のことで、陰毛を之に譬へて詠んだのである。

（三）僧侶の詠んだ男色の和歌

『萬葉集』中にある大伴家持と藤原久須麿との間に贈答せられた和歌は、契仲の『萬葉代匠記』に家持が久須麿の美少年なるに思ひをかけて和歌を贈答したのであると記してあるが、併し果して男色の關係が成立したか否かは判然しない。併し平安朝時代に至つては、女犯を禁じられた僧侶社會に美童を愛するの風甚だ盛んとなり、美童に綿々の熱情を寄せた僧侶の男色歌が頗る多い。其の中より若干を抄出して、平安朝時代に於ける變態性慾の一班を示して見よう。

思ひいづる常盤の山の岩つゝじ
言はねばこそあれ戀ひしきものを
（眞雅——古今集）

あまた見し豐の明りのもろ人の
君だも物をおもはするかな
（寛祐——拾遺集）

たのめしを待つに日數の過ぎぬれば
玉の緒弱み絶えぬべきかな
（慶意——後拾遺集）

待つ人の大空過ぐる月ならば
ぬるゝ袂に影は見てまし
（永緣——金葉集）

かげ見えぬ君は雨夜の月なれや
出でゝも人に知られざりけり
（覺雅——詞花集）

悲しさを是れよりげにや思はまし
かねて慣らはぬ別れなりせば
（靜嚴——千載集）

世を厭ふはしと思ひしかよひ路は
あやなく人を戀ひわたるかな
（仁昭——同）

蓮葉女考

輕佻浮華なる女を世俗に蓮葉者、蓮葉娘と稱するのは、「世事百談」に記するが如く、蓮葉女より出た語である。併し「蓮葉女（はすはめ）」なるものは元來江戸時代に於ける私娼の一で、延寶の頃から正德時代にかけ、大阪京都の問屋に抱へられ、旅客の枕席に侍した賣笑婦であつた。西鶴の「好色一代女」に「上間屋下間屋、數を知らず、客馳走のため、蓮葉女と云ふものを拵へ置きぬ。これは食炊女（かしたき）の見よげなるが、下に薄綿の小袖、上に紺染の無紋に黑き大幅帶、赤前垂、吹鬢の京こうがい、伽羅の油にかためて、細緒の雪蹈。延（のべ）の鼻紙を見せかけ、その身持ち、それとは隱れなく隨分面の皮厚くて人中を畏れず、尻すゑてのちよこ／＼あるき、ぴらしやらするが故に此名をつけぬ。物の宜しからぬ蓮の葉物と云ふ心なり云々」とある。而して蓮葉女なる名稱の由來に就いては、「皇都午睡」に「竹の皮なき田舍にては、諸品を蓮の葉にて包み、裏にてくゝる、下品なるを云ふなり」とあるに徵して知られる。彼等の如何に下品にして且つ摺れからしの女であつたかは「好色一代女」に「あれは問屋方に蓮葉と申して、眉目大形なるを、東國西國の客の寢所さらすため抱へて、おのが心まかせの男狂ひ、小宿を替へて逢ふこと、いたづらの晝寢に限らず、出歩くことも親方の手前を耻ぢず、姙めば苦もなく墮す。衣類は人に貰ひ、はした金もあるに任せて手に持たず。正月の着物は夏秋を知らず賣りて、壽夢きり酒にかへ、三人寄れば大笑ひして高麗橋を渡ることを忘れ、佛神に詣でけるにも置綿ばら緒の雪蹈の音高く、道すがらの一口ばなしにも人の耳をこすりて云々」とあるを見ても、その一班を窺ひ得られる。右の文中「高麗橋を渡ることを忘れ」とある一句は、當時大阪の釣鐘町あたりに問屋が多く、之に抱へられた蓮葉女が船場邊に遊びに行つて、抱へ主の家に歸ることを忘れたことを云つたものである。

蓮葉女はその始めは大阪の問屋にのみ在つたが、次いで京都及び北陸邊の問屋にも之を置くことゝなつた。「日本永代藏」の越前敦賀の大問屋彌三右衛門の條下に「京がゝりの伊達女を二十人抱へて、これに朝多の給仕をさせ、寢間をさらせ云々」とあり、また同じく北國阪田町の鎧屋といふ大問屋のことを記した中に「都にて蓮葉女といふを、所の言葉にて杓さいへる女三十六七人、下に絹物、上に木綿の立じまを着て云々」とある。

乳房と生殖機關

乳房と女性生殖機關との間には密接の關係があつて、乳房の刺戟例へば其の吸吮によつて反射的に子宮の收縮、バルトリン氏腺の分泌を惹起し性的快感を催うすが如きことは、平素人の實驗する卑近の事實に徵しても、兩者の關係の密接なることが判る。フルンの說に依れば、母が其の哺乳する子供を愛するのも、乳房の吸吮に因つて起る所の快感もまた與つて力あることを記し、またフッツオーの經驗に徵するに、多くの哺乳動物に於ては、授乳期中は母が子を愛するの情甚だ切なるも、既に授乳を終れば、全く愛情を失ふに至るものであるといつた。而して此の如き事實がまた野蠻民族に於ても認めらるゝことはバスチアン等も記述した處である。是に由つて之を見れば、乳房に於ける觸感と性慾發動との間に一種の關係のあることは明かであつて、乳房と生殖機關とは生理上親密の關係あるのみならず、多くの學者は乳房を以て女性生殖機關の一と看做してゐる位である。

ヘルマン及びストルペルの動物に就いての實驗に徵するに、産兒に乳房を吸吮せしめて授乳する間は、其の反射的刺戟によつて分娩後の子宮は次第に縮小して遂に舊の容積に復するも、授乳せざれば決して子宮の收縮すること無く、

醫家の實驗する處に依るも、分娩の後、其の子に授乳せざる婦人は其の子宮の退縮すること甚だ不完全である。此の如く乳房の吸吮的刺戟は反射的に子宮の收縮を促進する故、若し婦人が再び姙娠した後と雖も、猶ほ授乳を繼續する時は、子宮を收縮して流產を來すことがある。

　此の如き事實に徵すれば、乳房が神經の媒介によつて子宮と連絡せることは明かである。さりながら子宮より乳房に向つて反射的刺戟を與ふることに就いては未だ確固たる證明がない。性交の際、乳房の尖端が收縮して硬固となり、またブッシュの報告した如く、往々乳汁が分泌するやうなこともあるが、此等の現象は決して子宮より乳房に及ぼす處の刺戟の結果では無く、畢竟、性交時、全身の血行旺盛となり、身體の興奮性の一時亢進するがためである。

乳房の尖頂に位する乳頭は神經と血管とに富み、吸吮或は壓擦等により、或は精神の感動によつて、其の滑平筋收縮して硬固となり、且つ勃起するものである。而して之によつて受けた知覺神經の刺戟は、脊髓を介して生殖機關に傳搬し、以て反射的に子宮を收縮せしむると共に一種の快感を誘起する。母が其の生兒に對する愛情の起源が、乳房の吸吮に因る反射的快感の發生にあるべきことは科學者の認むる處で、之を動物界に於ける實驗に依るも、前述の如く母子間に親密の關係のあるのはたゞ授乳期間に過ぎない。これ畢竟、快感を覺ゆるがため、自然に其の授乳する兒を愛する情の誘發せらるゝに由るのであつて、現にエリスの如き學者は、牝牛が其の乳汁を搾出さるゝ際、屢々性的興奮を來し、粘液の分泌を起すことを見た。

乳房の發育が生殖機關の發育と其の歩武を同じうすることは、益々兩者の間に密接の關係あることを證するものである。生殖機關の未だ成熟せざる少女の乳房は、男子に於けるものと殆ど異る處はないが、年齡漸く長じて思春期に向ふに從ひ、生殖機關の發育成熟を告ぐると共に、乳房も腫大して女性乳房の定型を示すやうになる。而して幼時卵巢を除去されたもの或は先天性に生殖機關の發育不完全なるものは、其の乳房もまた發育せずして依然として小兒時代の狀態に留つてゐる。また妊娠後、時を經ると共に乳房の容積增大し、分娩後には乳汁を分泌する等、一として乳房と生殖機關との關係の密接なることを明示するに非ざるは無い。

されば往時の學者は、子宮は乳房に向つて特殊の反射的刺戟を與へ、其の發育なり、乳汁分泌なりを催起するものゝやうに思つてゐた。併し此の如き說は全然謬見であつて、子宮から特に乳房に及ぼすが如き刺戟の存在を考ふることは出來ない。リッベルトは動物に就いて其の乳房を除去し、以て周圍の神經との關係を絕つた後、其の乳房を耳の皮下に移植した處、分娩後能く乳汁を分泌したことを實驗し、ミロノウは二頭の羊に就き、其の分娩前、乳房に分布せる神經を切斷したが、分娩後依然として通常の如く乳汁を分泌することを見た。此等の實驗は、乳房の分泌機能に對して子宮の神經性刺戟の關係なきことを明示するものである。然らば乳房が思春期に至つて腫大するのは如何なる理由かと云ふに、それは卵巢の血液に送入する內分泌物（「ホルモン」）の作用に外ならない。それ故、先天性に卵巢の發育不全なるものは、從つて乳房も發育することは無いのである。而して妊娠中には卵巢の機能一時停止するも、子宮が腫大

し且つ乳房の容積も増大するのは、ハルバンの説くが如く、妊娠の結果として子宮内に生ずる胎盤の上皮細胞より、一種の化學的物質、即ち「ホルモン」を生じ、それが血液中に送入せられて、子宮及び乳房に作用し其の發育を促進するがためである。而して分娩と共に胎盤の出た後は、最早や上記の「ホルモン」は形成せられざるがため、腫大せる子宮は自ら退行變性を始めて次第に縮小し、また乳房の増殖せる腺細胞も脂肪變性を來して、乳汁を形成分泌するやうになるのである。されば乳汁の分泌は胎盤が母體を去つた後始めて起るのであつて、胎兒其者は乳汁の形成に對して何等影響を及ぼすもので無い。それは次の如き事實に依つて斷言することが出來る。即ち胎兒が既に子宮内に於て死亡し、加之、數週間も子宮に遺存するが如き場合に於ても、矢張り分娩後二日頃から乳汁の分泌が始まつて來る。而して此の場合に於て、胎兒其者は既に死亡するも、胎盤は依然として其の生活力を持續し、從つて其の内分泌機能を營爲せることが判る。されば乳汁の分泌は胎兒の分娩と共に發現するものに非ずして、胎盤の驅出後に始めて起ることが明かである。また葡萄狀鬼胎 Blasenmole の分娩後にもまた同じく多量に乳汁の分泌することも、胎兒の分娩と乳汁分泌との間に何等の關係なきことを證明するものである。人の知るが如く、葡萄狀鬼胎とは、胎盤脈絡膜上皮が過度に増殖して水泡様變性をなし、胎兒其者は死亡して全く吸收せらるゝものであるにも拘はらず、鬼胎の分娩後にも矢張り通常の如くに乳汁の分泌が起るのである。また子宮の脈絡膜上皮腫に於ても、これが除去された後、乳汁分泌の始めて起つた實例もある。是等の事實に徴すれば、乳汁分泌は胎盤の内分泌作用を失つた後、即ち胎盤が母體から出で去つた後、始めて起ることが愈々明かである。

男子同性愛の一實例

去る七月十三日の日附で、Ｔ・Ｏ生なる匿名の人から、私宛左記の如き書信を送附して來た。之を讀むと、其の人は同性愛者であつて、其の性慾の變態を切實に痛感して、私の同情を求めた悲痛の私信である。

時下不順の候益々御健勝の段大賀申し上げます。就いては先月より先生御發行の雜誌を拜見いたして居りますので、此の自分の變態な戀に苦しむ「辛らさ」を或は此の方面としては有り觸れた事かも知れませんが書き綴つて、理解深き先生に打ち明けて、せめてもの心やりとしたいと思ひます。

自分は廿七歳の青年です。生理的に何の畸形も自分としては認めません。某專門學校を卒業後、妻を親達の意見に盲從して娶りました者です。已にこの事だけで現在煩つて居る事はとても望のない事なのですが、それを諦め得ない不幸なものです。

自分は一人前の男であり乍ら、年長の同性を慕つて行く女性的な男なのです。妻はあれ共世の中の男性が妻を愛する程な熱烈な愛も注がれず、味氣ない家庭の所有者です。さうして道行く男が美人を振り返ると同じく、男らしい男性に道で電車で逢つた場合には振り返らずには居られません。それはもしその男性と視線が合へば處女の樣に赧い顏して顏をそむける樣な意氣地なしです。苦み走つた男性的な男を見る度に交際して靡き度い、兄弟の契りを結び度い

との念が絶えず、殊に軍人（尉官位の海陸將校）のあのハキ／＼した態度とハチ切れさうな下肢の肉體と絶倫らしい精力さを想ふ時、尙士官學校時代又は軍艦生活中によくあると云ふ變態なロマンスを想像して、どんなに將校を兄に持つ憧れに悶えて居る事でせう。先年牛込加賀町に起つた參謀本部附大尉の事件なんかの時も、どんなにその小僧を羨んだか知れません。とてもあてのない事、且つ云ひ出せば自分と云ふものの人格（があるさ假定したら）は○になる事、又男として云ひ出せない程不自然すぎる事で、どうにもならない事をどうにかしようと思ふ苦しさを、先生の科學的な立場から離れて、此の不幸に生れて來た自分を憐れんで下さい。

自分は女ばかりの姉妹中の一人息子です。その爲め細胞が常の男子とは組織が違つて居るのかも知れません。又は女の中に育てられた習慣が因かも知れませんが、自分では體に先天的だと思つて居ます。小兒の時に人形を好んだ事、寺の美僧が好きだつた事、美男子の小學校の先生を慕つた事（この先生とは今も實兄の樣に親しくして居ます）もあつた位ですから……

中學時代には軍人上りの體操の教師を慕ひ、又は上級の人にからかはれるを愉快さして居ました。專門學校時代には同級生の年長者（鹿兒島の人）を慕ひつゞけて來ましたが、其間中學の時に神田の下宿で福岡の人及び長崎の神官（皇典講究所生）に云ひ寄られましたが、まだ人を慕つても性慾に根據は置き乍ら、愈々實行となれば恐ろしさに逃げ、其後警視廳の巡査（熊本縣人）に慕はれて、愈々と云ふ剎那にふと恐ろしくなり逃げましたが、今さなつて考へれば若い時代の思ひ出に……と惜しくも考へられます。鹿兒島の人さは兄弟の交りは致し乍ら、今一歩進んでは互の理性が許しませんで、今も清い交際をつゞけて居ます。がもう何も彼も望みはありません。妻を得て年は廿七の男が君を慕ふと云ひ出したら、相手の人は怒るでせう。氣狂がさ云

ふでせう。或る科學的の精神病者にはちがひありませんけれ共、せめて一度一生の思ひ出に何とかなつて見たいのが望み乍らとても及ばぬらしいので、苦しみ迷ひ乍らどうしても思ひ詮められないのです。

先生、何とかならないものでせうか。實に苦しいのです。一度の望みも叶はないとすれば、一生こんなに苦しまなければなりますまいか。女であつたら、美少年であつたらと思はない時はありません。自分と反對の惱みに苦しんでる人はないでせうか。

どんなに慕つても「不自然」の一語で男氣は鈍ります。さうして男としての人前をつくつて行かなければならない不幸な生れの人が他にもある事でせうか。

兎に角もう是れ以上書くのは止めます。申したとて愚痴ですけれど、此の方面の御造詣深き先生の御同情を仰ぎ、せめてもの慰めとして生きて行きませうと思ひ、突然にて失禮をも顧みず亂筆にて書き送ります。宜しく御判讀の程。只不自然に生れついて苦しんでる男を憐れんで戴けば充分です。

執筆を終へて

□本誌も幸ひに「三號雜誌」の運命に陷らずに、茲に第五號を刊行することが出來た。私の如き淺學寡聞なる者の單獨で執筆する本誌が、可なり相當の讀者を得て發行を繼續し得られるのは、私自身の小努力よりも、經營の衝に當らるゝ古畝氏の盡力と讀者諸氏の眷顧との致す處であるから、私は心の底より長友古畝氏及び讀者諸賢に對して深く感謝しなければならない。

□本誌は眞摯なる態度の下に、性に關する諸問題を研鑚討究し、人生界に於ける謎と神秘とを幾分なりとても解釋闡明せんがために刊行するもので、必ずしも變態性慾のみを取扱ふもので無い。されば讀者諸氏の中、性に關する問題にして意見なり感想なりを有せらるゝ士は、お互ひの研究

のため、私宛に寄稿せられたい。(但し學術的であつて、飽迄も眞面目ならんことを希望する) 有益なるものならば、本誌に掲載して其の厚意に酬ゆると共に、一般讀者に紹介する積りであるから、御遠慮なく御寄稿を願ふ。(私の住所は、攝津國伊丹町本町)

□これ迄本會宛私に寄せられた質問書の中には、學究的態度を執れる私をして、公然お答へすることの出來ない樣な卑俗極まるものもある。返信用の郵券が添附されてあるので、之を沒收することの如何にも心苦しい處から、已むを得ず返書を差出してゐたが、今後は純學術雜誌たる本誌上に公然掲載し得べき眞摯眞面目なる質問たらざる限りは、たとひ郵券が添へられてあつても、遺憾ながら回答を差控へる積りである。

□それから猶ほ附け加へて置きたいことは、私は醫者であつても病人を取扱ふ治療醫では無いことである。それ故、私に對して、生殖器病の治療等に關する質問を寄せらるゝが如きは、全くお門違ひなることを茲に聲明して置く。

□次號の本誌に掲載する「精液の女體に及ぼす影響」は、獨逸醫學者の新研究を涉獵して、能ふだけ簡潔明截に取り纏めた最新の學說である。男女兩性の肉體的關係に關する一種の謎と神秘とは、此の一篇によつて多少なりとも解決せらるべきことを信ずる。

□早晩本會より單行本として刊行する拙著「夫婦の性的生活」は、「變態心理」誌上に約半歲に亘つて掲載したものに多大の增補を施し、猶ほ附錄として、貞操問題及び産兒調節問題に關する所見を詳說して置いた。本誌の讀者諸氏は何卒一讀の榮を賜りたい。

(編輯部より) 田中香涯先生新著「夫婦の性的生活」は、愈々十月早々本會より出版の運びと成ります。其の內容の一斑は廣告欄にも掲載してありますが、此の際九月中に前金を添へてお申込の諸君には、特に定價の壹割引を以て差上げることに致します。但し割引部數に限りがありますから、其の積りで早くお申込下さい。

次號豫告

▽精液の女體に及ぼす影響

▽半陰陽に關する話

▽女子の性慾と其の種々なる變態

▽去勢(「カストラチオン」)說話

▽生殖機關の構成及官能の不調和

▽禁慾か性衞生か

▽醫學上より觀たる獨身生活の利害(下)

▽變態性慾要說(四)

創刊號內容▽發刊の辭▽性的早熟と早夙性發情▽月經の生物學的意義に關する一疑問▽割禮の遺風と認むべき日本民族の龜頭裸出▽虐待性好淫者ザード侯爵と殺生關白豐臣秀次▽江戶時代に於ける性的犯罪の刑▽男性假半陰陽者アレキシナの日記中より▽女嫌ひ▽變態性慾要說(一)

第二號內容▽マソヒスムスに關する說話▽貴婦人墮落の原因考察▽日本に於ける生殖器崇拜の起源及び成立に就いて(上)▽黴毒に傳染したるショーペンハウエル▽墮胎と墮胎專門▽變生男女の話

第三號內容▽女性の生殖機能さ犯罪(上)▽自然の防姙作用▽性慾の昇華に就いて▽日本に於ける生殖器崇拜の起源及び成立に就いて(中)▽男娼考▽男女關係の變遷▽變態性慾要說(二)

第四號內容▽女子同性愛に關する說話▽女性の生殖機能と犯罪(下)▽月經不淨觀の原因考察▽醫學上より觀たる獨身生活の利害(上)▽日本に於ける生殖器崇拜の起源及び成立に就いて(下)▽毛髮戀愛——截髻漢▽迷信と猥褻罪▽强姦の鑑定難▽變態性慾要說(三)

本誌定價表

壹部(一ヶ月分)	金參拾五錢	稅壹錢
六部(半ヶ年分)	金貳圓拾錢	稅共
拾貳部(一ヶ年分)	金四圓拾錢	稅共

注意
□御註文は總て前金御拂込のこと
□なるべく振替にて御送金のこと
□特別號は定價超過分申受のこと

本誌廣告料

表紙二、三、四面	金五拾圓
普通面一頁	金參拾五圓

大正十一年八月廿日印刷納本
大正十一年九月一日發行　第一卷第五號

編輯兼發行者　東京市外北品川御殿山七一八　中村蓊
印刷者　東京市芝區南佐久間町二ノ一四　渡邊素一
印刷所　東京市芝區南佐久間町二ノ一四　內外印刷合資會社
發行所　東京市外北品川御殿山七一八　日本精神醫學會
電話高輪一〇四三番
振替東京三一一七七番

大賣捌(東京堂、東海堂、北隆館、參文社、上田屋、至誠堂、盛春堂、共盛社、

田中香涯先生新著（四六版總布裝函入）

近刊

夫婦の性的生活

紙數二二〇頁
定價金貳圓
書留送料拾五錢

著者自序——人生享樂の第一義は家庭の圓滿にある。倫理學者及び道學先生等には之に就いて種々なる意見もあらうが、私は醫人としての立場から觀て、夫婦間に於ける性的生活の調和及び合理化をば家庭の平和圓滿の基調と認むる者であるから、這般の見解の大要を起草して曩に『變態心理』誌上に公にしたものに、多大の增訂を加へて再び世に公にすることゝ成つた。一般世人を相手にして論述したものである故、專門的學理に關する所見は成るべく控へ目となし、通俗的なることを主眼とした。幸ひに之に依つて幾分なりとも家庭の平和圓滿に資することを得ば、實に望外の光榮である。

——（目次一斑）——

第一章　緒論
第二章　結婚の意義及目的
第三章　配偶の選擇
第四章　夫婦と性慾及び愛情
第五章　夫婦間に於ける性交
第六章　夫婦と生殖能力
第七章　不姙の夫婦
第八章　産兒の調節
□　貞操問題に就いて
□　産兒調節の科學的根據

東京品川
御殿山　日本精神醫學會　振替東京三一七一七
電話高輪一〇四三番

變態心理

第十巻□九月號要目□第三號

□變質者に就いて……醫學士 森田正馬
□飛行家と空中の感覺……伊藤飛行所理事 阿部蒼天
□臨床瑣談（精神療法）……醫學博士 佐多芳久
□透明體凝視（心靈問題）……大戸徹誠
□世に誤られ易き精神病の一例（狂人研究）……佐藤政治
□傳說の怪人怪物（傳說口碑）……早大文學士 栗山信次郎
□戯曲家ハウプトマン（藝術雜話）……井東憲
□性的信仰の變態心理的興味（宗教奇談）……栗山信次郎
□動物催眠に就いて（催眠研究）……文學士 中村古峽
□卜筮の心理……山崎千象
□死者の幽靈……早大文學士 大戸徹誠

毎月一回一日發行
定價一部五十錢
郵稅壹錢
半年分稅共參圓
一年分五圓八十錢

東京品川御殿山 日本精神醫學會 振替東京三一一七七番 電話高輪一一〇四三番

變態心理合本　第壹卷

裝釘美六〇〇頁
改正定價金壹圓八十錢
送料不要

内容一斑

論說——支那に於ける靈的現象（幸田文學博士）正夢と靈夢（上野文學士）迷信と妄想（一—五）（森田醫學士）觀念は生物也（一—二）（福來文學博士）所謂心靈現象の研究法に對する吾人の希望（石川醫學博士）意識障礙と犯罪（杉江醫學士）干支と易（渡邊文學博士）印度神變術（武田早大敎授）其他

研究——頭蓋骨の興味（挿畫十二葉入）（菅原文學士）フロイド精神分析法の起源（久保文學士）習慣性犯罪者に就いて（佐藤政治）二重人格の少年（一—二）（中村文學士）自働現象の話（一—二）（小熊文學士）痛覺就中主觀的痛覺に就て（永井醫學博士）迷信としての犯罪者の脫糞（寺田文學士）心の繪圖（挿畫十九葉入）（菅原文學士）混亂せる夢の性質（小熊文學士）禪の悟りに就て（入谷文學士）アドラーの補償說と神經病（久保文學士）其他

雜錄——骼盯者の變態心理（佐多千葉醫學士）植物の心理（松島理學士）輪廻轉生に關する傳說（一—二）（三枝十一）植物の感情（松島理學士）最近の歐米催眠術界（小熊文學士）變態心理學上より見たるオルレアンの少女（佐多千葉醫學士）最近歐米の精神治療界（小熊文學士）少年犯罪者の殖民地（ドストエフスキ）周圍の變化と動物の體色（挿畫二葉入）（谷津博士）人の心を狂はせる植物（松島理學士）兒童の變態心理に就て（高島平三郎）潛在意識（自署入）（シャストリ）支那人の特性に就て（堀田延千代）相貌に由る性格鑑別法（一—二）（小西學士）生贄と人身御供の傳說（三枝十一）敎育心理實驗（村上文學士、錯誤より出でたる悲劇（中村文學士）其他

人間的證券——汽車只乘の巧い少年（宇佐美學士）歸國すると惡心の出る男（宇佐美學士）彼等の一家（一—二）（沖野牧師）二狂人（中村文學士）余の見たる鬼權（宮島資夫）余の偽らざる告白（流々生）小笠原に送られた少年（宇佐美學士）其他

其外每號掲載されたるもの——變態心理日誌、近代の珍書圖表考料、最近の新聞雜誌拔萃等

東京品川
御殿山

日本精神醫學會

振替東京三一一七番
電話高輪一〇四三番

變態心理合本第二卷

裝釘美五五〇頁
定價金壹圓六十錢
送料不要

内容一斑

論説——宗教より見たる物心關係(福田留斧)迷信と妄想(毎號連載)(森田醫學士) 印度神變術(毎號連載)(武田早大教授) 犯罪と感化救濟事業(小河法學博士) 不良少年發生の原因(坂口警部) 浮浪少年と犯罪(勝水教誨師) 變態心理學研究に對する所感(倉橋文學士)

研究——囚人の歌(勝水教誨師) 妖怪研究(伊東工學博士) 不良少年の身體並に精神(杉江醫學士) 嗜好性恐喝少年犯の一例(山崎法學士) 統計上より見たる犯罪少年(黒田小田原分監長) ごろつきの心理(賀川豐彦) 强迫觀念(佐多千葉醫學士) 馬に關する空想(伊東工學博士) 酒亂の心理(三宅醫學博士) 幽顯思想の變遷(柳田法學士) 群衆の指導者に就いて(寺田文學士) 强迫觀念の心因(向井章) 法醫學上より見たる病的衝動(安東禾村) 少年受刑者の夢(菊原哲公) 電氣娘の現象(小熊文學士) 性慾衝動と精神生活(北野博美)

紹介——妄想と疾病(向井章) 狂氣の心理(中村文學士) 精神醫としての基督(向井章) 精神薄弱と强迫觀念(葛西文學士)

雜錄——念寫實驗記(中桐早大教授) 蟻の家族制度(矢野理學士) 相貌に由る性格鑑別法(小西早大文學士) 十種の人格を持てる女(ドクトル・ウイルスン) 生靈の傳説(三枝十一) 不良少年の感化(留岡家庭學校長) ジョン氏讀心術合評(森田醫學士・大川定次郎・中村文學士) 僞法と堀才吉君(島地東洋大學教授) 斷食中の精神狀態(村井弦齋) 支那人に對する日本小學兒童の感想(堀田延千代) 髑髏保存の遺風(三枝十一) 其他

人間的證券——彼の僞らざる告白(流々生) 癡兒に添へたる遺髮(市場學而郎) 在監不良少年の通信(市場學而郎) 彼が流轉の跡(流々生) 僕の恐怖(和田生) 狂人の手記、電氣病容態書

其他——變態心理日誌、最近の新聞雜誌から、讀者欄等、趣味津々たる多くの記事に滿てり

東京品川御殿山
日本精神醫學會
振替東京三一一七番
電話高輪一〇四三番

變態心理學講話集

装釘美菊版三三〇頁
口繪寫眞二葉入
定價壹圓四十錢
送料八錢

好評嘖々——再版出來!!

（本書內容）

變態心理學槪論 文學士 中村古峽

變態心理學に對する一般の誤解—常態と變態との區別—變態心理學の研究範圍—變態心理と潜在意識—變態心理現象の區分—一時的變態心理現象—持續的變態心理現象—變態心理學の任務及び貢獻

精神病の槪念 醫學士 森田正馬

緒言—心身の關係—精神障礙—症狀的方面より見たる觀察—原因的方面より見たる觀察—經過、豫後方面より見たる觀察—治療的方面より見たる觀察—疾病の型、性質、[本態、種類—精神病の研究法—精神病學の應用範圍—附錄臨床講義—變質性精神異常者—早發性痴呆

犯罪と迷信 文學士 寺田精一

序言—迷信の行はれる範圍—迷信家—犯罪者と迷信—犯罪と關係しての迷信—犯罪の原因としての迷信—犯罪行爲遂行の爲の迷信—犯罪の發覺を防ぐ迷信—犯罪者の日常生活と迷信

不良少年の精神分析 文學士 久保良英

はしがき—心的軋轢—幻影に由る心的軋轢—强迫觀念に由る心的軋轢—容易に分析される軋轢と分析の困難なる軋轢—兩親其他に關係した軋轢—竊盜に終れる心的軋轢—放浪に終れる心的軋轢—他の惡癖に終れる心的軋轢—結論

變態心理と近代文藝 文學士 生田長江

變態といふ語の意義—近代文藝に對する誤解—變態心理と近代文藝との關係

歐洲大戰の心理的側面觀 文學士 上野陽一

平和論者の夢—不可思議に堪へぬ大戰の勃發—ザッキンソン氏の大戰原因論—文明人の發生的觀察—文明の解放—結論

愛の還俗 文學士 菅原教造

戀愛の聖化—聖者の性的惡鬪—禁慾の齎らす變態現象—破戒僧尼の群—操の帶—自由戀愛の歌—愛の裁判と愛の法律—愛の共產主義—自由戀愛と禁慾主義—解放—表現—裸體畫の出現—自由戀愛の主張—徽毒の恐怖—色情藝術の發生—宗敎畫の色情化—色情藝術の推移—ルーベンス、フラマンの色情藝術—レンブラント、和蘭の色情藝術—工藝品としての色情藝術

東京品川御殿山 日本精神醫學會 振替東京三一七一七番 電話高輪一〇四三番

變態性慾第壹卷第五號　大正十一年四月廿六日第三種郵便物認可　大正十一年九月一日發行（每月一回一日發行）

定價　金參拾五錢

性之問題研究の最高級雜誌

大正十一年四月廿六日第三種郵便物認可
大正十一年十月一日發行（每月一回一日發行）

變態性慾

田中香涯執筆

十月號

目次

□精液の女體に及ぼす影響……（二四七）
□女子に於ける性慾と其の變態……（二五九）
□醫學上より観たる獨身生活の利害（下）……（二六七）
□生殖機關の構成及び官能の不調和……（二七三）
□去勢說話……（二八二）
□眞言立川流の性慾哲學（寄書）……（二八九）
□日本の古文學と「性」（二）……（二九一）

東京　日本精神醫學會　發行

我が學界破天荒の試擧!!

科目は何れも精神科學の精華
講師は悉く斯界第一流の權威

變態心理學講義錄

全部完結

四ヶ月卒業
總紙數二千二百頁

▽變態心理講義　文學士　中村古峽氏

▽精神療法講義　醫學士　森田正馬氏

▽心靈學講義　文學士　小熊虎之助氏

▽犯罪心理講義　文學士　寺田精一氏

▽群衆心理講義　文學士　葛西又次郎氏

▽催眠術講義　文學士　中村古峽氏

▽臨床催眠術講義　大阪實驗心理研究所主幹　向井章氏

▽變態性慾講義　性之研究主幹　北野博美氏

▼入會者には諸種の特典あり。詳細規定幷見本入用者は往復葉書にて問合せありたし。

申込所　東京品川御殿山　振替東京[illegible][illegible]五〇[illegible][illegible]番　日本變態心理學會



精液の女體に及ぼす影響

(一)

往時カーペンターは性交によつて男女兩性間に物質的作用と反應とが起り、相互ひに其の體質に變化を來すことを說いた。其の說に依れば、精蟲は女子の體內に進入して女體全部に影響し、男子もまた女子より極微の細胞成分を吸收するものであらう、斯くして男女は性交によつて互ひに其の生氣を交換し、常に双方の體內に一種の新生命の惹起せらるべきものであると云つた。此の如き所說は固よりカーペンターの臆想であつて、殊に男子が女子より極微成分を吸收して生氣を得ると云ふが如きは、何等科學的根據の無き想像說に過ぎぬが、併し女子が其の生殖機關より吸收せられた精液物質によつて其の身體に影響を受くると云ふことは、近年來科學的に證明せられた事實である。

私は今茲に精液の女體に及ぼす影響を論述するに先だち、說明の便宜上豫じめ女性生殖機關內に於ける精蟲の運命に就いて少し許り叙述しなければならぬ。

(二)

抑々一回の性交に於て射出せらるる精液の分量は、個人の年齡、身體の大小、睪丸の性質、性交の頻度等に從つて固より一定しないが、ウルッマンの說に依れば、普通の男子に於ける一回の射精量は平均十乃至十五瓦であつて、其の中には實に幾億の精蟲が活潑なる運動を營んでゐる。併し、其の中、女子の生殖素たる卵子內に進入抱合して生殖の目的を達するものはただ僅かに一個々精蟲のみで、他の無數の精蟲は女性生殖機關內に於て早晚死滅するものである。從來諸學者は、精蟲の大多數は酸性反應を呈せる粘液で掩はるゝ膣內に於ては早く死滅するも、之に反してアルカリ性反應を呈せる粘液を分泌する子宮、輪卵管內に達した精蟲は、一日乃至二三週、時としては一ヶ月を經過するも、猶ほ依然として其の運動力及び生殖能力を保持するものゝやうに思つてゐた。併し近年に至りヘーネの行つた檢索の結果に徵すれば、精蟲は膣內に於ては一時間乃至四時間で酸性の膣粘液のため速に殺滅せられ、また子宮內に進入したものでも其の大多數は既に一日乃至二日の中に死滅し、ただ僅か二三のものが稍永く四日或はそれ以上生存するに過ぎな

い。人間に於て性交後三日以上も運動を繼續する精蟲を見るが如きは極めて少數である。輸卵管に於ても、其の關係は子宮に於けると同樣であつて、健全なる輸卵管の內に於ては、二十四時間乃至四十八時間にして大部分の精蟲は死滅して了ふ。されば、生活せる婦人の健全なる輸卵管內には、未だ嘗て運動を持續せる精蟲の發見されたことが無い。但しビルヒ・ヒルシュフエルドは一女子の屍體を解剖して、偶然其の輸卵管內に生活せる精蟲を看出したことがあり、またデウルセンは手術によつて除去した慢性炎症に罹患せる輸卵管內に於て生活せる精蟲を認めたことがあるが、併し此の二例は、一は屍體の輸卵管、一は病變せる輸卵管內に於ける精蟲の發見であつて、生殖機關の健全なる生存女子に於ける關係とは全く相異つてゐる。ヘーネの說に依れば、精蟲の健全なる輸卵管內に滯在する時間は、いかに永くとも三日或は以上を越ゆることが無い。

　上記の如く女性生殖機關內に進入せる精蟲の大多數が暫時日中に死滅するは、蓋し三種の原因に基づくのである。即ち一は膣內にある酸性の粘液によつて殺滅せられ、二は子宮及び輸卵管の粘膜を掩へる顫毛上皮細胞が常に下方に向つて運動するがため、精蟲の中、其の運動力の弱きものは、此の顫毛運動のために下方に壓排せられ、子宮外に驅出されて膣粘液のために殺滅せられるのである。三は女性生殖機關の粘膜面より絕えず游出する白血球が、啻に死亡せる精蟲のみな

らず、また生活せる精蟲をも攝取して之を喰盡することである。試みに家兎、「モルモット」に就いて、其の子宮內に精液を注入して檢査して見ると、大多數の精蟲は旣に二十四時間乃至四十八時間にして死滅し、其の一部分は白血球のために喰盡されて了ふ。

此の如く、女性生殖機關內に射出された精蟲は、膣粘液の殺滅作用、子宮及び輸卵管粘膜の顫毛上皮の運動、及び女性生殖機關粘膜面に游走し來れる白血球の喰盡作用とによつて、其の大部分は撲滅せらるゝものであるから、精蟲は決して女性生殖機關に於ける好客として受容せらるゝものでは無いのである。然らば前記の如く死滅の運命に陷つた精蟲乃至精液物質は如何なる轉歸を取るかと云ふに、それは子宮及び輸卵管の粘膜より吸收せられて女體の血液中に入り込み、女子の身心兩方面に種々の影響を及ぼすことである。

(三)

性交後、精液成分が女性生殖機關より吸收せられて全身血液中に入ることは、墺國維納の醫學者ワルドスタイン及びエクレルの始めて生物學的に證明した處で、卽ち性交後早きは數時間、遲くとも二十四時間後には、女性の血液中に精蟲に對する特殊の防禦酸酵素の發現することを確證した。試みに性交を行はしめた雌兎より、其の血淸を取つて睾丸越幾斯に作用せしむれば、其

の睾丸を組織せる造精細胞の蛋白質は分解して「ペプトン」乃至「アミノ」酸に變化して溶解する。是れ畢竟性交後女體の血液中に精蟲成分の吸收されたがため、之に對する防禦反應として、精蟲成分を溶解すべき特殊の醱酵素が女體内に形成されたことを證示せる生物學的現象であつて、這般の現象を假に稱して性交反應 Koitusreaktion と云ふのである。

啻に自然の性交のみならず、また人爲的に精蟲を直接に血管内に注射した場合に於ても、其の女體の血液中に、精蟲を溶解する一種の化學的物質、所謂『精液毒』Spermatoxin の發生することは、夙にメチニコッフ、ランドスタイネル、ヅンバルの實驗的に證明した處であるが、其の後、サヴイニー、カスタノー、ヴエネマは、睾丸越幾斯を雌性動物の皮下或は腹腔内に反覆注入すれば其の全身血液中に精蟲に對抗する物質の發生する結果、反覆性交を行つても一時不妊となることを證明し、殊に近年チットレルが精細に行つた動物試驗に依れば、新鮮なる精液を雌性動物の血液中に注射すると、其の血液中には直ちに精蟲を凝集して其の運動を停止する物質の發現するがため、再三反覆して精液を注射すれば遂に雌を不妊たらしめ、時としては四ヶ月に亙つて其の姙孕力を抑止することが出來る。

以上說述せる生物學上の實驗研究に依つて、精蟲成分の女體の血液中に吸收せらるゝこと、及

び之に對する防禦性物質が女體内に形成せらるゝ事實に徵すれば、性交が女子にとつては決して一時的のもので無く、身心の兩方面に隱微なる影響を及ぼすべきことが容易に推定し得られる。

抑々女子が初回の性交後、啻に其の肉體のみならず、精神的方面にも著しき變化を來すことは古來往々人の說く處であるが、近年に至つて有名なる神經病學者フランクル・ホッホワルトも這般の事實に論及し『女子は性交を始めて後、暫時日にして其の肉體及び精神の强く變化することは確實である』„Es ist sicher, dass sich das Weib schon kurze Zeit nach dem Beginn des geschlechtlichen Verkehrs stark in physischer und psychischer Hinsicht verändert" と云つた。もとより是れには生殖機關の活動に起因する性「ホルモン」の內分泌及び他の內分泌腺との相互關係の增進も與つて力あるに相違なからうが、併しまた之と同時に女體の血液中に吸收せられた精液成分の作用も隱約の衝動と變化とを女體に與へるに違ひない。それは左記の如き事實に徵しても明かである。

(四)

生來生殖機關の發育不完全なる女性が、結婚後始めて其の生殖機關の解剖的に生理的に機能が昂進して一定度まで成熟することや、從つて今までの月經不潮或は月經困難の自然に治癒するこ

とのあるのは周知の事實であつて、フォーグドが近時述べた如く、其の原因は女體の血液中に吸收せられた精液蛋白が恐らくは女性生殖機關に對する成長刺戟として作用するからであらう。また妙齡の女子に往々發生する特殊の全身貧血病所謂萎黄病が、結婚によつて始めて自然に治癒することは夙にノールデンの認めた處であるが、ロザンもまた萎黄病が結婚後自ら消失すること多きを經驗した。若しネーゲリの云つた如く、女性生殖腺の機能の沈衰が造血機關に影響して萎黄病を惹起するものなりとせば、血液中に吸收された精液蛋白の作用によつて女性生殖腺の沈衰せる機能が皷舞亢進せられ、以て萎黄病の治癒に就くべきものと認むべきである。

此の如く、女體の血液中に進入せる精液蛋白が女性の生殖機關の機能を促進することの明白なる以上は、之によつて女性の生殖腺と密接の關係ある他の內分泌腺の機能をも間接に皷舞し、更に益々身心の兩方面に影響を及ぼすべきことを考察し得られる。其の中にも特に吾人の注目を惹くのは甲狀腺である。羅馬の古代に於ては、女子が始めて性交を行つた後には甲狀腺の容積を增加し、其のため頸圍の增大することを信じて頸圍の大さを測定し、之によつて處女なるか否かを推定する風習があつた。此樣な風習が今猶ほ伊太利にも行はれてゐることはウインケルマンの記述した處である。思ふに性交を始めた後女子の甲狀腺の腫脹するのは、血液中に吸收された精液成

分が女性生殖腺たる卵巣に作用して其の内分泌を促進するがため、卵巣と密接の關係を有する甲狀腺にも影響を及ぼすに由るのではあるまいか。

抑々人間の精神生活狀態が、あらゆる內分泌腺の機能の平衡に起因することは、近年來主として佛國の學者レヴイ・ロートジルド、獨逸の學者ミュンツェル等によつて唱說せられ、若し內分泌腺の機能に障碍の起る時は、從つて精神作用にも變化が起ることが認められて來た。健康なる人間に於ても感情の反應が種々であつて、其の氣質を異にすることは、一或は他の內分泌腺の機能が特に强いからである。其の中にも殊に甲狀腺は、其の機能が亢盛し易く、感情を興奮せしむるもので『感情腺』Glande d' emotion と云ふが如き名稱が賦與せられた程である。而して甲狀腺の機能亢進より起る所のバゼドウ氏病患者に於て、感情生活が興奮發揚し易く、思想行爲が突發的となり、非常に饒舌となつて躁暴性色彩を帶び且つ性慾が亢進することは、フランクル・ホツホワルトの記述した如くである。元來、女子が健全なるものに於ても感情に强く且つ容易に其の動搖興奮を來し易いのは、其の甲狀腺が男子に於けるものに比して大きく、從つて其の內分泌物の分量が多いからであらう。而して女子が初回の性交後より、其の精神生活に著しき變化を來し、感情が濃厚となつて熱烈の度を加ふるやうになる原因は、心理的要約あるの他、前記の如く

甲狀腺が腫脹して、其の内分泌機能の增盛することもまた之に關與するに相違ない。這般の見地より觀察すれば『逢ひ見ての後のこゝろにくらぶれば昔は物を思はざりけり』といへる古歌の心も、其の然る所以の理由の一面を肯定し得られる。あはれ、君の一夜の情によつて、百年の命をも捨つるばかりの戀仲となり、世に仇し名を流す女性の尠くないのも思へば恠しむに足らない。

(五)

上記の如く女體の血液中に吸收された精液蛋白は、女性生殖機關の機能を鼓舞し、延いて身體及び精神の兩方面に尠からざる影響を及ぼすものであるが、また他の一面に於ては、既に述べた如く、女體の血液内には吸收された精蟲蛋白に對して特殊の防禦醱酵素が發現する。即ち性交によつて自然に精蟲蛋白が血液内に吸收せられ、或は人爲的に睾丸越幾斯若しくは精液の皮下、腹腔及び血管内注射によつて、雌獸が一時的不妊となり、所謂『精液免疫』Spermaimmunität の成立する事實は、人間に於ける不妊症の原因の一部を說明し得べきものである。

人の知るが如く、夫婦共に其の生殖機關に何等の異常故障も無く、また交情の密なるにも拘はらず、一人の子供さへ無き不妊の夫婦が世に尠くない。然るに若し此樣な夫婦が一時別居した後、再び同棲すると、始めて姙娠するが如きことのあるのは、如何なる理由かと云ふに、それは畢竟

情交の濃厚なるがために頻繁に性交を行ふ結果として、女體內には絶えず精蟲蛋白に對する防禦酵素即ち抗體が發生し、精蟲を殺滅するがため不姙となつたので、若し一時別居すると、其の間に血液中に存在する抗體が減少消失するにより、再び同棲すると始めて姙娠することが出來るやうになるのである。

初回の性交によつては屢々姙娠するも、之に反して爾後の性交が同一の要約の下に行はれても姙娠し難いことは、近年まで其の理由が不明であつたが、上記の『精液免疫』の事實に徴すれば、其の決して偶然に非ざることが分る。之を牧畜家の經驗に觀るも第一回の交尾によつて姙娠するのが普通である。また月經後に姙娠すること多き事實に就いては、從來は機械的に之を說明し或は卵子の新鮮なるがために受精し易いためであるやうに思つてゐたが、『精液免疫』の新知見上から觀れば、月經のために女體內に存在する抗體が排出さるゝがため、精液免疫性の減退するに由ることも其の一原因たるに違ひない。また所謂『戰爭姙娠』Kriegsschwangerschaft といつて、戰場より一時歸休を命ぜられて鄕里に歸つた兵士が、其の妻女なり情婦なりを姙娠せしめて子を擧ぐることの多いのも、要するに男子が出征して家庭を離れ性交を行はないがため、其の相手の女子に抗精蟲體が發生しなかつたためである。また賣笑婦の姙娠することの頗る稀なのは、頻繁過度

の性交のため、其の血液中に抗精蟲體が絶間なく發生して、精液免疫がいつも成立してゐるからである。

頻繁の性交が女體にも有害なる影響を與へ、生活力の減退、體重の減少を來すが如きことのあるのは、畢竟精液蛋白が夥多に女體内に輸入されて、所謂『蛋白性惡液質』Proteinogene Kachexie を惹起する結果である。此の事實に就いては、チットレルも動物試驗によつて證明した處で、即ち雌兎に雄兎の精液を數ヶ月も連續して血液中に注入すると、其の雌兎は次第に痩削して體重の五分の一を失ひ、加之、惡液狀態に陷り、生殖腺は萎縮して、其の機能が廢絶するに至るものである。それから、猶ほ姙娠中に於ける過度の性交が姙娠嘔吐(惡阻)、子癇を誘發する一原因となることは、近時マイエル及びフォーグトの主唱する處で、姙娠中性交を廢せしむると、惡阻の豫防治癒し得らるゝこと、また戰爭中子癇を發する婦人の甚だ稀有なることは上說を裏書きするものである。

(六)

以上說述せるが如く、女性の身體が男性生殖素たる精液の作用影響を受くること顯著なる事實を觀れば、女性は全然受動的 passiv のものであり、從つて男子に其の肉體を許すことは即ち男子

に征服せらるゝ所以なることが明かである。されば、結婚後の婦人は性的被征服者と稱すべきものので、決して征服者たる男子と對比せらるべきもので無い。

現代の新婦人は男女の平等を主張し、男子と同一の地位權利を獲得することに努めてゐる。さりながら女子が未だ男子と性的に結合せざる間、即ち純然たる獨身生活を送り、貞操を嚴守する間のみは男子に對立することは出來るにしても、既に一度其の肉體を男子に許した後は其の相手の如何を問はず、女子の身心は全く男子のために征服せられて了ふ。此の如き見地より論ずれば、男の戀は島崎藤村氏の詠じたやうに『旅にすて行くなさけ』でも、女子の方にあつては、たとひ一度の契りでも、相手の男子のために征服せられ、其の身心に顯著なる衝動と影響とを受けるのである。女子の貞操問題を論ずるものは此の如き事實にも着目しなければならない。男女の對等、兩性間に於ける貞操の同一を主唱する新婦人は『精液の女體に及ぼす影響』に就いて如何に感ずるか、抽象的な法理論の見地より觀るならば男女は平等であり、從つて其の貞操も同等に取扱はるべきものであらう。併し實驗實證に立脚せる生物學上より見れば、性的關係に於ても男女は決して同等で無く、また其の貞操に對しても決して同一視することは出來ないのである。

女子に於ける性慾と其の變態

(一)

女子の性慾が男子に於けるよりも弱きか或は强きかと云ふ問題は、古來醫學者間に議論のある處で、女子の性的生活を究むるがためには、先づ第一に這般の問題を解決しなければならぬ。仍つて玆に女子性慾の强弱に關する諸學者の意見及び異論を列擧して、如何に其の區々に岐るゝかを示し、次いで私の所見を述べ、更に一歩を進めて女子に於ける性慾の變態に就き系統的に論述したいと思ふ。

醫聖ヒッポクラテースの書いたものと傳唱されてゐる『生殖の商議』Traktat von der Zeugung の中に、男子は女子よりも性交を嗜むといふことが記載されてある。此の如き考察は一般に容認せられなかつたが、併し十八世紀の終期頃までは、醫學者は各自綿密なる注意を以て之を論究した。十六世紀の末葉、ラウレンチウスは其の著『人體解剖史』Laurentius, Historia anatomia humani corporis に於て、その久しく考究した結果に徵し、男子は女子よりも性慾が强く且つ性交

の快を享樂すること大なるものであると記した。然るに前世紀の中葉に至つて、アクトンが世に公にした『生殖機關の官能及び障碍』Acton, Functions and Disorders of the reproductive organs なる論文には、全く前者と反對に、英國に於ける敎育ある女子があらゆる性的事項に就いて絶對的に知る處なきことを記し、『多數の女子は性慾によつて甚だしく心を惱ますことは無いと私は言明せんと欲する。あらゆる女子が性慾を有すとの說は實に女子を侮辱するものである』と述べ、また同じく前世紀の中葉に出たレースの『生殖論』Ress, Generation には『性交の際膣及び內部生殖機關より粘液の現出することは固より疑ひが無い。併しそれはたゞ好色淫蕩の女子のみに見るものである』と云ひ、また骨相學者として世に名高いガールも、男子の性慾は女子よりも遙かに强く且つ之を抑壓することの困難なることを說いた。ラチボルスキーはあらゆる女子の三分の二はたゞ男子に接觸を許すに過ぎないと云ひ、ローソン・テートは女子に於ては男子よりも其の性慾の發育は遙かに弱しと記し、ロムブロソー及びフエルレロは、女子の性的知覺は他のあらゆる知覺と同じく完全でないこと、女子は天性色情に冷淡なることを說き、フエーリングは妙齡の女子に於て男子と同樣に早くから性慾の發現するといふが如き說は全く誤謬なりと斥け、若し年若き處女の愛情の中に性的要素が含まれてゐたとせば、それは恐らくは病的なりと云ひ、あ

らゆる女子の半分は性的に興奮せざるものであると言明した。クラフト・エビングも女子は男子の如くに性慾の滿足を要求すること少く、且つ生來色情の弱きことを說き、ウインドシヤイトは通常の女子、就中、上流社會の婦人に於ては、其の性慾は決して先天性のもので無く、後天的に獲るに過ぎない。若し性慾が先天性に存し或は其の自ら發現するものは、それは僅かに異常變態である。女子は結婚する迄は性的本能を有つてゐないから、之を滿足すべき機會なくとも何等差支へは無いと述べ、モルも男子の色情は女子に比して遙かに强大なりといひ、ネツケーは女子は其の生殖機關に分布する知覺神經の數は多きも、肉慾に至つては概して男子よりも少しと唱へ、レーウエンフエルドは普通妙齡の處女にあつては絕對的に性的感覺を知らず、從つて性的要求の存せざること、また既に異性に接して性交を解した婦人と雖も、絕對的に性交に冷淡なるもの尠からざることを記した。さりながらフユールブリンゲルの言つた如き獨逸に於ける既婚婦人の大多數が性的に無感覺なりとの說には、容易に贊成することが出來ないと附け加へた。アドラの說に依れば、女子は性交の際、快感の高頂即ち「オルガスムス」に達することは、男子よりも分量的に且つ性質的に著しく超えてゐるが、併し性慾滿足の要求に至つては男子に比して遙かに少く、且つそれには可なり强い刺戟を要するものである。されば男子が女子の愛慾を喚起するには一種

の機巧的熟練を要すると云つた。

以上は、女子に於ける性慾の男子に比して弱きことを述べた諸學者の意見であるが、之に反して女子の性慾が男子よりも强しとする說も決して尠く無い。既に十七世紀時代の初葉に於て、プラッツアノーは女子の生殖機關は、刺戟を受くる面積が大であるから、性交の際、女子は男子よりも多く享樂し得るもので、若し女子にして性交の快を感じなかつたならば、妊娠、分娩の苦痛危險を冒してまで男子に身を許す筈はないと云ひ、ホルニウスは女子が男子よりも大なる性的快樂を有することを古人の詩に徵して考證したことがある。ライオンは女子に於ける性的快樂のデリケートで且つ持久性なること、また其の乳房の感覺銳敏にして子宮と交感することを說き、ユーベルトは女子生殖機關の解剖的構造が、男子に比してより大なる快感を與ふることを唱へた。またグットチエイトは露國に於ける多年開業醫としての經驗に基づき、露國に於ける處女は、その次第に强くなる性的快感の要求に對し、二十二歲乃至二十三歲の年頃以上までは最早や耐へ忍ぶこと能はず、若しそれが自然に滿足されざる時は人爲的方法を以て滿足すると云ひ、女子の性慾が男子よりも弱しといふが如きは全く僞說であると說いた。またヴエドラーのスカンヂナヴィアに於ける經驗に依れば、女子に於ける性的活動は男子よりも强しといひ、またエクランドの瑞

に於ける所見に徵し、同國に於ける產兒の二十三乃至三十%が私生兒なること、また女子の男子よりも甚だ好色なることを記し、女子が男子を誘惑すること多き事實をも語つた。エレン・ケーの如き女性思想家もまた、女子が控へ目なるに拘はらず實際上、男子に比して情的慾望の强きことを認めてゐる。ダンカンは女子に於て性的要求及び快感が强烈にして且つ屢々亢盛することを認め、健康にして且つ節制ある女子に於ても、色情及び性的享樂の發起すること尠からざるを說き、コッスマンは女子の性交に冷淡なりといへる說を以て空想なりとし、ブロッホは女子が性的に冷淡のやうに見えるのは、畢竟假面的であつて、それは保守的道德の因襲的制裁により、或は男子が女子の情慾を發揚せしむべき機巧に拙劣なるがためなりといひ、女子の性的知覺は固より男子と異る處あれども、其の作用に至つては少くとも同大であると云つた。シニバルッスは女子は其の初めに於てこそ冷淡にして、性慾の發動すること容易ならざれども、次第に情火が熱し來つて恰も冷やかであつた鐵の灼熱するのと同樣の狀態となると云ひ、マンド・ウイユも女子の性慾は容易に醒起するものでないが、併し一旦その潛伏せる性慾が醒覺し始むる時は、男子に比して甚だ强くなり且つ永久に持續すると云つた。

（二）

以上擧げるが如く、女子性慾の强弱に就いては、醫學者の見る處二種に分れてゐるが、私等の見る處を以てすれば、先天的に性慾を缺如せる女子は別問題とし、普通の女子に性慾の微弱なることは、未だ異性に接せざる妙齡の處女に於てのみ見る所で、既に性交の情を解し且つ靑春の時代を經過した女子に於ては、キッシュの述べた如く、性慾は漸く發揚興奮してその衝動的に起るに至ること殆ど男子と異る處は無い。蓋し女子が性慾に乏しいやうに見えるのは、その天性、慣習、及び社會的境遇に基づく所甚だ多く、其の天性が温和であつて且つ家庭に居ること多く、從つて外界の誘惑刺戟に接する機會の少いのと、また固有の羞恥心と恐怖心とのために容易に異性の接觸を許さないのと、その他、姙娠分娩なる自然の制裁あつて放縱なる性的行動を抑制し、且つ社會的には貞操を强いらるゝがため、外觀上、女子は恰も性慾の微弱なるが如くに見えるのである。之に加ふるに女子に於ける性的興奮は月經に伴うて周期的に發起するのが普通であつて、男子に於けるが如くに始終連續的に之を來すもので無い。イワン・ブロッホの云つた如く、男子に於ては單純なる方法によつて容易に性慾が發動するものであるが、女子に於ては其の生殖機關の構成複雜にして、性的興奮及びその滿足を來すことが簡易でなく、それには屢々外部の刺戟を要するものである。

上記の如き種々の原因があるから、女子は男子に比して遙かに性慾の薄いものゝやうに見えるのである。若し女子にして固有の羞恥感情が消失し、自制心が缺如したもの、例へば精神病に罹つた者に於ては、その性慾は赤裸々に暴露せられ、更に著しく亢進發揚するがある。フォーレルは狂女に於ては狂男よりも性慾の發現することの遙かに多きことを云つた。躁病に罹つた男子に於ては性慾の著明に發現すること屢々なれども、女子の躁病には毎常認められ、また女子の精神病進行性麻痺に罹る時、特に性慾の亢進することはバクテー及びコリンの述べた處である。その他、發狂した女子に色情に關する行動を見ること多きも、クレー・ショーの記述した處で、ポールは精神病に罹つた女性に於て特に色情に關する幻覺を認むること、及び麻醉劑を與へた場合に女子に色情的行動及び幻覺を見ることの男子よりも遙かに多きことを記した。彼の史上に見ゆる女傑なる者が性慾を縱にし、その甚だしきものに至つては淫婦と看做して可なる者さへあるのは、蓋し其の肉體的勢力の盛んなるのみならず、その精神狀態もまた男性的色彩を帶び、羞恥恐怖の感情に乏しく、また貞操を遵守するの要もないから、其の欲する處を縱にし得られるからである。私等の見る處を以てすれば、羞恥の情の强き女子は小心貞操の淑女なるべく、性慾と羞恥心との調和平衡した女子は、男子の鐵腸を溶融する嬌艶の女子なるべく、羞恥の情全く缺如せる者は即

ち唾棄すべき淫婦悍婦である。

私等は上記の事實より見て、女子の性慾が男子よりも遙かに弱いものと看做すことは出來ない。思ふに從來多數の學者が女子が性慾に乏しきものゝやうに說いたのは、主として妙齡の處女或は貞操道德を嚴守する上流婦人に就いて觀察した結果でなからうか。社會的道德の制裁を意とせざる女傑毒婦または無敎育なる下流社會の女子に至つては、自然の本能を赤裸々に暴露し、その色を好むの甚だしき遙かに男子を凌駕する者もある。古來毒婦と呼ばれた者の大多數は同時に淫婦であつて、貞操の觀念に缺如し、意馬心猿の狂ふに委せて數多の男子と情を通じた。また女性の生殖機關には、陰核、膣、子宮膣部等、性交刺戟の接觸面大であり、且つ膣、子宮、輸卵管の反射的收縮運動が一齊に起るものであるから、快感の程度は慥かに男子に比して大なるべき筈である。されば女子が一旦性交の快を解するや、爾來情慾が盛んとなり、且つその衝動的に起るに至ることは固より自明の理である。但し女子の天性、習慣、道德上の制裁が女子をして其の性慾の發揚暴露を抑制するがため、外觀上男子に比して其の性慾の弱きやうに見ゆるに過ぎないのである。（以下次號）

醫學上より觀たる獨身生活の利害(下)

(三)

以上は男子に就いて論じたものであるが、これよりは女子に就いて少しく述べて見よう。女子に於ける性慾抑制の結果に就いては啻に醫學者のみならず、哲學者中にも既に論じたものもある。希臘太古の哲學者プラトーの說は之を今日より觀れば荒唐無稽を極めたものであるが、試みに之を紹述すると、プラトーの考へでは女子の體内に存する子宮は一種の動物であつて、姙娠を要求するものであるから、若し女子が思春期に達した後、此の要求を果すこと能はざる時には、子宮は怒つて動き出し、身體内を逍遙して、遂に氣道を閉塞し、呼吸を妨げ、生命を危險ならしむるものであると云つた。實に滑稽突梯の說であるが、併し中世紀時代に至る迄、性慾抑制のために子宮が身體内を逍遙するとの考へは、一部の學者及び俗人の間に信せられてゐた。其の後に至つて二三の學者は、女子が性慾を抑壓する時は女性精液が子宮内に於て欝滯し、遂に腐敗して全身を毒するに至るとの說を唱へ、女子に多き「ヒステリー」は全く此の如き原因より起ることを信

じた。併し解剖及び生理の學が進んで、女子には精液の分泌なきことが明白となつてより、上記の如き所説は自然世に忘られて了つたが、しかし制慾其者が女子に於ける神經系に障碍を及ぼして「ヒステリー」を惹起すとの説は、近世に至るまでも猶ほ世俗及び一部の醫學者間に信ぜられてゐた。蓋し「ヒステリー」が思春期の前後に起ること多きは統計上殆ど否定し難い處で、佛國の醫家ブリケが、四百二十六人の「ヒステリー」患者に就いて調査した處に依るに、十五歳から二十歳までの間に於て同病に罹ること最も多く、二十歳より二十五歳に至るまでは次第に同病を患ふる者の減少する割合であるが、併しブリケの考へでは、思春期に「ヒステリー」の發することと多きは決して生殖機關の影響に由るもので無く、全く寧ろ此の時期に於て發起する精神的變化に由來するものであるとした。レーウエンフエルドも「ヒステリー」と性慾との間に特に著しき關係なきことを認めた。

抑々女子の性慾が顯著に發現するやうになるのは男子に比して遙かに遲く、二十五六歳より三十歳前後の頃に至つて始めて肉的衝動が旺盛となり、性的要求の顯著となるのが常である。我國の俗諺にも『二十後家は立つが、三十後家は立たず』といふが如く、二十代の前半期頃までは、たとひ異性に接しても、性慾其者は未だ强くないが、三十歳前後の頃に至つて漸く性慾が强盛と

なり、之を充實滿足せんとする動向の熾烈となるがため、既に一たび異性に接して快感を覺えた以上は、之を要求するの念愈々切なるの結果、三十後家はその貞操を全うすること能はざるものが多いのである。フォーレルは女子に於て色情の最も強くなるは三十歳より四十歳までの間なりと云ひ、ダンカンは多くの女子が性的生活の頂點に達する時期を以て三十歳より三十四歳までの間となし、ニストレームは女子は三十歳近くに至つて始めて性慾の充分なる滿足を求むるものであると云つた。

されば女子に於ては、よしや思春期に達し、また二十歳前後の年頃に至つても、性慾を抑制するに困難を感ずること無く、外部の誘惑なき以上は、純潔なる處女として世に處することが出來る譯である。併し三十歳前後に至れば、前述の如く性慾が强盛となり、之を充實せんとする衝動要求が著しく起るやうになるから、此の時期こそ實に女子にとつて一大危機と云はざるを得ない。克己心强く、自制力大なる者ならばいざ知らず、感情に動かされ易き一般の女性が、果して此の時期に達するも、純潔なる處女生活を持續し得べきや否やは大なる疑問である。併し茲に注意すべきことは、女子に於ては男子に比するに、性慾の微弱なる者遙かに多いことで、エッフエルッの如きは、女子百人の中、一人は性交に冷淡なるものであると云つた。またオイレンブルグは身

心の健全にして、而も性慾の缺乏せる女性に對して『精神的性的小兒症』Psychosexualer Infantilismus といへる名稱を賦與した。蓋し身體及び生殖機關の發育は普通なるも、獨り性慾のみが精神的に小兒なるの意である。されば此の如き女子に於ては、其の全生涯を通じて純潔なる獨身生活を送り得られる。思ふに一生獨身を守り貞淑の女性として世に賞讃せらるゝ婦人の中には、先天性に性慾が微弱にして、自然に獨身生活を全うし得らるゝ者も尠く無からう。さりながら一般の女子に於ては、前記の如く三十歲前後の年頃に至つて性慾が旺盛となつて來るから、强いて之を抑制するの困難なることは固より言を竢たない。殊に生來神經質性の女子は屢々性慾が早くより發動し且つ興奮し易いものであるから、若し之を滿足することを能はざる場合には、非自然的方法により或は破倫の行爲に出づることが多い。よしや一身の事情、境遇等のため强いて獨身生活を送るにしても、性慾を强いて抑制することは果して心身に害なきか、フロイド、ガッテルは女子がその性慾抑制のために神經性疾患が起つて苦悶狀態に陷ることを說き、ボールス、ハドレーは全身羸瘦、神經痛、「ヒステリー」、月經不正等の起ることを述べ、オイレンブルグは强迫性精神障碍、鬱憂病、「ヒステリー」等が性慾抑制の結果として起ることを說いた。されど他の一面に於ては年旣に靑春時代を去つても猶は良緣なく、爲めに前途に不安を感じ一身の寂寞を感ずる女

性が、憂愁苦悶のために神經性疾患を惹起することも多く、必ずしも性慾抑制の結果と看做すことも出來ないが、併し生來神經質にして感情に强き女性にあつては、性慾の禁壓が身心に有害の結果を齎すことは明かで、就中、不健全なる交際社會及び演劇等に出入し、或は卑猥なる文學書を耽讀する女性の如きは、性慾抑制の結果として遂に神經精神病性の狀態を發し、色情過敏に陷ることの多きは自明の理である。

是を要するに、身心共に健全にして未だ異性に接せざる妙齡の女子にあつては、性慾の抑制は別に有害でなく、克く之に堪へ得れども、既に年齡三十歲前後に達し、而も生來神經質の者或は既に異性に接觸して性慾滿足の味を解した者にあつては、獨身生活の頗る危險なることを認めねばならぬ。また妙齡の處女と雖も、神經質性にして性慾の發揚興奮し易き者は、性慾抑制の結果として身心の障碍を來すことが尠くないのである。

生殖機關の構成及び官能の不調和

下等の動物には、雌雄兩性の生殖機關を兼有し、所謂兩性體(半陰陽)と稱すべきものが頗る多い。併し高等動物に至れば雌雄の別截然として別れ、而して人間に至つては男女の區別愈々明瞭となる。而して雌雄男女を識別する主要の標徵は其の生殖機關であつて、卽ち、男性は睪丸、精囊、輸精管を具へ、女性は卵巢、輸卵管、子宮を有し、以て生殖素の製造排出を營んでゐる。されど仔細に男女の生殖機關を精驗すれば男子にして猶ほ女性の生殖機關の痕跡を存し、また女子にして猶ほ男性の生殖機關の痕跡を有つてゐる。是れ實に人間の遠祖たる動物が兩性體であつた證徵であつて、男女の別旣に明白となつた人間に於ても、依然として他性の生殖機關の跡を留め、堂々たる有髯の男子にして、猶ほ女性生殖器たる子宮、輸卵管の痕跡を有するが如きは何となく滑稽の感がある。這般の不完機關たる他性生殖器の痕跡は、ウエーベル氏機關、ローゼン・ミユルレル氏機關と稱せられ、何等の官能をも營むことは無いが、時として之より全身の健康生活に有害の影響を及ぼす腫瘍を發生することがある。男子に於ては、其の身體内に遺存する子宮の痕跡、卽ちウエーベル氏機關が過度に發育して男性子宮を形成し、一種

異常の兩性體を生ずることがあり、また女子に於ても、男性生殖機關の痕跡と看做すべき副卵巢が病的に發育して腫瘍を生ずることがある。其の腫瘍の多くは良性であるが、併し時としては惡性に轉ずることもある。

上述の如く、人間に於ても猶ほ依然として其の遠祖動物の兩性體であつた性質を遺傳せられ他性の生殖機關の痕跡を留むるが如きは、人間の未だ完全に進化せざることを具體的に證明するものである。さりながら他の一面に於ては、他の高等動物に認むること能はざる一種の性的機關を有つてゐる。此の機關たるや、特に人間に於てのみ存在するもので、類人猿に於ても之を認むることは出來ない。それは何かと云ふに處女膜である。

處女膜は人の知るが如く、膣口を圍擁せる輪狀或は半月狀の粘膜皺襞で、既に胎生第十九週の頃より發生する。而して之が人間に於てのみ存在することは生物學上注目すべき一事實と謂はなければならない。ビショッフは類人猿に就いて處女膜が全く存在せざることを證明し、デニケルは「ゴリラ」の胎兒及び幼兒に於ても處女膜を認めざりしことを述べ、ウィーデルスハイムは猿類に處女膜の無きことを明言した。是に由つて之を觀れば、處女膜は祖先動物より遺傳されたものに非ずして、人間に至つて始めて發生せる新機關たることが明かである。されど其の効用目的に至つては、ウィーデルスハイムの云つた如く、毫も明白で無い。但し社會的及び家族的生活に於ては、處女膜は純潔無垢なる處女の標徴として認められ、道德上の方面に多大の意義を有すれども、處女膜其者の生理的價値

に至つては茫乎として殆ど判らない。處女膜は人間には全く無要の一機關であつて、其の未だ破綻せずに膣口を圍擁する間は交接を妨ぐるも一旦破瓜して其の萎縮した後は、毫も交接行爲を障害しない。處女膜が比較的鞏固にして抵抗力強き時は、交接の際屢々外陰部の裂傷を來し また其の血管に富めるものに於ては多大の出血を來し、其のため往々死亡するに至るが如き不幸の轉歸を取ることもある。されば處女膜が人間に無用なるのみならず、また有害なることは明白であるのに、何の要あつて人間のみに存在するのであるか。是れ實に吾人の説明に最も困難を感ずる所以である。

メチニコツフの說に依れば、人間が動物より別れた最初の時期にあつては、生殖機關の未だ充分に發育せざる少年時代より、既に性的行爲を營んだものであるらしい。されば這般狀態の下に於ては、處女膜が存在するとも毫も性交に障碍を與ふること無く、却つて性交の快感を助長し、また處女膜の破裂することなくして次第に延展するやうになつたものであらうと云ひ、此の臆說を證明せんがために、現時猶ほ生存せる蠻族の實例を引證し、幼少の年齢頃より既に性的行爲を營むことを列擧した。例へば印度に於ては、男子は七乃至十歲、女子は四乃至六歲（レールの報告）或は八歲（バイエルラインの報告）にして既に結婚する慣習があり、結婚式を擧げた後は花嫁は其の實家に歸り、二三年の後月經を通ずるに至つて始めて新郞と同棲する。これはバルテルス・プロッスの著『女子』の中に記述せる處である。またレールは印度に於て、父と其の息子とが同一の學校に學ぶことは屢々

見る處であると云つたが、此の如き事實に徵しても如何に結婚が最も早く行はるゝかを知り得られる。またマダガスカルに於ては十七世紀の初代の頃には男子は十乃至十二歳にして結婚し、新ギネアに於ては十四乃至十五歳にして結婚する。此の如く未開野蠻の人間に於て甚だしき早婚の行はるゝ事實を見れば、原始時代の人間に於ても、之と同樣に年少男女間に早婚の風習の一般に行はれたことが想察される。されば此の如き時代に於ては、處女膜の存在は生殖行爲をなす上に於て甚だ必要であつた。現代の人間に於ても性交によつて處女膜が必ずしも破綻するものに非ざることは、實際上人の知る處であつて、ブダンの報告に依れば、第一回の分娩經過中の婦人に於て猶ほ處女膜を有する者十七%を認め、また初產婦の七十七名中、十三人は猶ほ無疵の處女膜を有つてゐた。想ふに原人時代に於ては、女子の處女膜は容易に破綻すること無く、依然無疵の狀態に於て妊娠分娩をも爲し得たものであらう。これを要するに甚だしき早婚の風の行はれた原始時代に於ては、特に女性の膣口を狹隘ならしむる自然の必要上、處女膜の存在を要したものと想像すべく、文化の發達に從つて早婚の風殆ど其の跡を絕つに至つた結果は、今や處女膜は無要無意義の一機關として殘存し、單に一回の性交によつても、直ちに破綻するが如き運命に陷るに至つたのであらうとはメチニコッフの所說であるが、牽强附會に近き說明であつて、容易に信ずることが出來ない。兎に角、處女膜なる性的機關は、生理學及び生物學上より見れば謎の機關である。

　女性に來る處の生理的出血、即ち月經もまた

特に人間に於てのみ見る一現象である。固より他の高等動物、就中猿類に於ては月經に類似する現象を認むるも、併し其の徴候としては、主として外陰部の腫脹及び血液に貧しき粘液を排出するにある。類人猿に於ても同様の現象を來すことはエールレス、ヘルメス等の實驗した處で、ハルトマンの記する處に依れば、外陰部が發赤腫脹し、月經期以外の際には殆ど見るべからざる如く大陰唇が著しく腫脹し、小陰唇及び陰核もまた大となると云ふ。さりながら、婦人の月經期に際しては、外陰部の腫脹するが如きことは殆ど無く、ただ血液を流出するのみである。是に由つて之を見れば、月經は實に人間特有の生理的現象と稱すべきものである。而して人間に於て月經なる子宮出血の起つたのは、メチニコッフの想定するが如く、恐らくは原人時代より始まつたものであらう。蓋し人獸の區別漸く明かとなつた未開蒙昧の原人に於ては、前述の如く結婚は頗る早期に行はれ、女子は未だ月經を通せざるに先だつて妊娠したやうに思はれる。これは決して一片の空想では無く、現代に生存せる蠻人の慣習を觀るに、月經の未だ來潮せざるに結婚しまたは妊娠することも尠く無い。ローデの報告に依れば印度の女子は五乃至八歳にして結婚する者があり、其の未だ生殖機關の成熟せざる以前に於て夫を有つが如き慣習がある。ペルシアに於ても、また月經の未だ通せざる幼女時代に早婚するが如き地方がある。ロブソンの說に依るに、シリアに於ては女子は思春期以前即ち十歳頃より結婚すといひ、シャイルは西部亞弗利加のアッシリア地方に於ては思春期を待たずして結婚する風習があるといつ

た。アブパヂーはヌビアに旅行した際、男子は幼女を購買し、其の月經を通ずる前から之と同棲するの風あることを見た。而して未だ幼年の女子にして、月經の未だ來潮せざるにも拘はらず妊娠し得ることは、既に諸家の實驗上疑ひ無き事實で、ポラックの如きは、ペルシアに於て其の經驗した這般の實例を蒐集して世に報告したことがある。歐洲に於ても、ラカマノッフは露國に於て十四歳の一少女が未だ一回も月經を通せざるに分娩したことを報告し、アールフエルドは八人の子供を有する一婦人にして、未だ嘗て月經を見なかつたものを實驗した。思ふに原人時代に於ては早婚の風行はれたるが故に、未だ月經なき幼女にして妊娠分娩した者も多かつたに違ひない。然るに一旦人間が原始時代より次第に進化向上してより以來は、自然の勢として妊娠を制限し、結婚の時期を遲くする必要を感ずるやうになつた。人間に月經が始めて發生したのは、恐らくは此樣な事情と何等かの關係があるのでは無からうか。之を動物に徵するに、彼の猿類に於て月經に類似する現象を來すは、たゞ人爲的生存要件の下に生活せる猿に於てのみ見る處で、殊に動物園に於て他より分離され、其の生涯を檻の內に送る雌猿に於て見る處である。是に由つて之を觀れば、月經は異常の生活現象と稱すべきもので、殊に月經時に當り、局所及び全身に多大の影響を及ぼし、神經症狀及び精神の異常等を喚起するが如き、到底之を以て生理生活に於ける常態の現象と看做すことが出來ない。

　月經に次いで異常奇怪なる性的現象は分娩時に於ける陣痛である。分娩の如き生理的機轉に

して多大の苦痛を伴ふは、實に奇異なる現象と謂はざるを得ない。固より動物に於ても分娩の際苦惱するもの尠からざれども、而も人間の如くに甚だしき苦痛を訴ふるものに至つては未だ嘗て見ざる處である。また吾人の酸鼻に堪へざる事實は、妙齡の少女が分娩間及び分娩後、特に死亡すること多き事實で、ハンゼマンの報告に依れば、アピシニアに於ては分娩した女子の死亡數は實に三十%に達するとのことである。これ同地方に於ては、身體の發育未だ完成を告げざるに、早婚するが故なりと稱せられてゐる。また英國有名の婦人科醫ダンカンの說に依れば二十歲以下の女子は分娩のために死亡することが多い。吾人は此の如き事實を見て、人間の生殖機關の官能の甚だ不調和なるを思はざるを得ない。女子が思春期に達するや、月經が起つて卵巢の成熟せることを示し、性交姙娠の機能茲に備はるも、而も全身の發育に至つては未だ完結を告げず、爲めに思春期に入つて直ちに姙娠するものは、分娩の際著しき苦惱障碍を受け、非命の死を遂ぐるの不幸に終るものが多いのである。生殖機關の成熟と全身の發育との相調和せざること何ぞ此の如き！

生殖機關の成熟と全身の發育との間に著しき不調和のあるが如く、性慾に對してもまた同樣の不調和がある。抑々生殖機關の目的は、生殖素たる精蟲と卵子とを結合せしめて新個體を生殖するにある。而して此の目的を遂ぐるには性慾の發現を要するもので、男女相愛し異性相牽引するは、要するに性慾の發動に外ならない。然るに人間に就いて仔細に觀察するに、性慾と生殖機關の發育との間に著しき不調和がある。

夫れ戀愛と性的感覺とは人間に於て始めて見る處であるが、而も其の發現するのは生殖機關の成熟するより遙か以前である。ラムデールは既に十八世紀時代に於て、未だ生殖機關の發育せざる童兒が、異性に對して屢々戀愛の情を起すことある事實を說いたが、此の如きことは古來有名なる人士に於て比較的多く認められる。例へば、ダンテは九歲、カノバは五歲、バイロンは七歲にして異性を戀ひ初めた。未だ生殖素の製出されざる幼少時代に於て、性慾が夙に發現することは實に奇異なる一現象である。クルシユマン、フユールブリンゲル等は、五歲以下の小兒にして性慾の存在せるものを見た。されば未だ生殖行爲をなすこと能はざる兒童にして、早くから手淫を行ひ之に耽る者の多いのも、また怪しむに足らない。實にチツソーの云つた如く、少年間に行はるゝ手淫の惡癖は、畢竟生殖機關の發育を待たずして、性慾が早くより發現する人性の不調和の然らしむる處である。

男子に於て其の生殖素たる精蟲の發生するに至るのは、思春期に入り愛情及び性的興奮性の發現するの後にある。而も其の生殖機關が成熟して精蟲を製造する時期に達しても、全身は未だ完全に發育せず、殊に文明國の男子に於ては此の時期に入つても、個人乃至社會的經濟上、直ちに結婚することが出來ない。歐洲に於ては男子の生殖機關の成熟するのは十四乃至十五六歲の間であるが、併し結婚する時期に至つては遙かに遲く、之を統計に徵するに、英國の男子は平均二十五歲九ヶ月、佛國に於ては二十八歲四ヶ月、和蘭に於ては二十九歲一ヶ月に至つて始めて結婚するの割合になつてゐる。此の如く

文明人に於ける結婚年齡が平均二十五歲以後なることは、社會經濟の趨勢の然らしむる處なるも、また他の一面に於ては、男子に於ける身體の發育成熟は二十四五歲に至つて始めて完成するものであるから、之より以前に於て結婚するは身體に有害の影響を及ぼすことゝなる。是れ實に生殖機關の發育と全身發育との間に不調和の存するがためである。

人間が老境に至れば、精力は自ら減退する。之を一般の事實に徵するに、男子にして精力の衰ふるのは六七十歲の頃からであるが、然るに生殖素たる精蟲は此の如き老人に於ても猶ほ依然として造出される。パフロフは九十四歲の老人に於ても猶ほ精蟲の多量に存在するを證明しデユは六十四歲より七十歲までの老人の六十四%に於て、七十歲より八十歲までの老人の四十五%に於て、八十歲より九十歲までの老人の二十六%に於て精蟲の存在を認めた。併し高老者に於ては其の陽勢既に衰へ、性的行爲を營むこと能はざるが故に、精蟲が猶ほ依然として生殖機關中に形成せらるゝも、生殖の目的を達することが出來ない。されど性慾と性的要求とは高老に至るも猶ほ繼續するものであるから、其のため精神上の苦悶を招き、時としては非自然の方法によつて性慾を滿足するに至るやうな結果になる。是れまた生殖機關と性慾との間に於ける不調和の然らしむる處である。

生殖機關の不調和はまた男女兩性間に於ける關係に於ても之を認むることが出來る。抑々男子に於て其の性慾が發現するは女子に於けるよりも遙かに早きを常とし、大抵十五六歲の年少時代よりして、性慾が發揚興奮し性的要求が旺

盛となるものであるが、女子に於ては此の如く早くより性慾が發現すること無く、其の性的興奮を來し異性に對する肉的要求の著明となるのは、男子に比して遙かに遲きが普通である。ニストレームは女子の性的要求を感ずるに至るのは、三十歳近き頃より始まるといひ、アドレルは三十歳に及んで第三回の分娩をなした後、始めて性的滿足の感覺の起つた一婦人を見、フオーレルは女子の性的要求の强盛となる時期は三十歳より四十歳までの間なりといひ、ナビエは女子は二十八歳乃至三十歳に至る迄は猶ほ處女的の狀態に留まるを得るも、此の年齡に達すれば始めて性的要求が發育するに至るといひ、ダンカンは婦人の多くは三十歳より四十歳の間に至つて性的生活の頂點に達すといつた。此の如く男女兩性間に於て性的要求の現はるゝ時期に著しい差異がある故、女子が其の性的要求の高頂に達した時は、即ち男子の生殖機能の減衰を始めんとするの時であつて、之がため夫婦間の愛情を殺いで、家庭の圓滿を缺きまた屢々姦通の如き罪惡が犯され、或は同性愛の如き非自然の行爲が演ぜらるゝに至ることがある。

以上說き來れるが如く、生殖機關の發育及び官能の不調和の甚だしきを顧みれば、人間の性慾が屢々異常の倒錯に陷り、これがため身を破り名を汚し、延いて社會の秩序を亂すに至る所以の理を容易に解釋し得られる。

（編輯部より）前號揭載「男子同性愛の一實例」の筆者J・O氏に御相談申しあげたいことがあります。至急御住所御姓名を本會まで直接お知らせ下さい。絕對秘密を嚴守致しますから。

去勢說話

（一）

去勢 Kastration とは睪丸を除去することである。支那に於ては夙に太古時代より行はれたもので、恐らくは有史以前五千餘年前より、三苗及び東夷西夷に行はれた蠻俗に起源せるものである。その證據は『尙書の呂刑』に『苗民、制以ㇾ刑、惟作二五虐之刑一、曰ㇾ法、殺二戮無辜一、始淫爲二劓、刵、椓、黥一』と見え（椓は即ち去勢のこと）また『周禮』の秋官同刑の註に『今東夷西夷以二墨劓一、爲ㇾ俗、宮者、大夫則割二其勢一』とあるを見ても明かで、要するに有史以前に於ける支那蠻族の風習であつたのが、漢民族に傳はり、犯人に對する刑罰に應用することになつて死刑に次ぐの重刑となすに至つた。漢時代に屢々行はれた『宮刑』といふのが即ち是れである。その目的は犯罪者を廢人にするにあるので、無論今日の遺傳法則のことなどは夢にも知らなかつたのであるが、惡人の種を斷絶する希望から冥々裡に行ふことになつたものらしく思はれる蓋し惡人を絶つには、第一、死刑、第二は宮刑（去勢）を以て最も有効とするから、從つて去勢が死刑に次いで重刑と看做された所以も容易に理解される。さりながら血族を重んじ貴族を貴び名門を尙ぶ支那に於ては、貴族に限つて子孫

を絶つべき宮刑を加へず『公族無宮刑』と定めた。而して宮刑は唐時代に至つて廢止になつたが、併し之より遙か以前より后宮の宮女間に斡旋する廷臣には、去勢者所謂宦官を用ゆる規定になり、且つ宦官が朝廷内に勢力を得て政治を私するほどの權威を占むるに至つたがため、最早や去勢者を擯斥せず、却つて之を羨むやうな狀態に立ち至つた結果、自然に宮刑の刑罰たるの效能を失ひ、遂に廢止に歸したのであらうと思はれる。

之を要するに、支那では最初去勢を以て五刑の一とし、死刑に次ぐ重刑としてゐたが、后宮三千の美姬を擁する皇帝や大官等は、その宮廷に去勢せる男子を置くの便宜あるを感じ、之を採用すること多くなつたがため、民間には其の需要に應ずべく兒童時代より去勢して宦官を志願するやうな傾向となり去勢者を多く出だすが如き結果となつた。此の如き習俗は啻に支那ばかりで無く、古代のバビロンにも行はれ、去勢の男子に婦人を掌らしめたが、此の東洋の異俗は遂に羅馬にも侵入するやうになつた。

（二）

此の如く刑罰の目的と、一夫多妻の俗より閹豎を宮中に置く制度とから起つた去勢の風が、羅馬に入つてよりは更に其の方面を轉じて基督敎に入り、肉慾を斷ち獨身を尊ぶ基督敎徒間に行はるゝやうになつた。

肉に死して靈に生きるを主眼とする原始基督敎の思想は、今日猶は世に弘まれる羅馬敎、希臘敎に於て明かに之を認むることが出來る。殊にその自然の本能的要求を抑制禁厭して、性慾の充實と滿足とを罪惡視する極端なる禁慾主義

の精神を押し詰むれば、去勢を實行する者を踵出せしめたのも蓋し當然の結果と看做さねばならない。既に基督の在世時代から天國を求めんがために去勢した者のあつたことは、『馬太傳』第十九章に『天國のために自らなれる寺人あり之を受け納ることを得るものは受け納るべし』とあるを見ても明かである。『寺人』とは即ち睾丸を摘除した者の謂ひで、獨逸譯の「バイブル」には Etliche Verschnitten とあるが、此の一節に徴しても天國を求むるものが去勢した場合には、之を是認したことが判る。而して基督の使徒たるパウロの如きは、『哥林多前書』第七章に於て、『男は女に觸れざるを善しとす』といひ、ただ『淫行を免れんがために人各々その妻を有ち、女も各々其の夫を有つべし』と說いた程であるから、原始基督教の行はれた時代に於ては、その教徒中に禁慾のため自ら進んで睾丸を除去しまたは强迫的に他人に對して之を行ふ者も多かつた。大法師オリギネスは自ら去勢を實行し、その法弟たるヴアレリウスは始めて『去勢宗』Sekte der Kastriesten を開いた。所謂『ヴアレリウス』派と稱するものがこれである。

此の如くにして去勢者が續々踵出したので、遂に羅馬の皇帝コンスタンチン、ヂユスチマンの如きは勅令を以て他人の睾丸を摘除する者を嚴罰し、殺人罪に問ふに至つた。併し熱烈なる基督教信徒が自ら去勢を行ふことは公認せられ地方長官に去勢の願書を提出して其の許可を受くれば、その目的を達することが出來たのである。

（三）

近世時代に於て再び去勢宗の起つたのは、十

八世紀の中葉頃で、その開祖は露國の熱心なる基督敎徒コンドラチー・スセリワノッフと云ひ、其の宗派を稱して「スコプツェン」派 Sekte der Skopzen と云ふのである。露國政府は幾度も之を禁壓したに拘はらず、宗徒は次第に增加して露國及び羅馬尼には多數の宗徒を見るやうになつた。彼等は自ら稱して『白き鳩』Weisse Tauben といひ、睾丸を摘除する者もあれば、陰莖をも斷つ者もあり、また女子に於ては乳房及び小陰唇を截り取り、また卵巢をも摘除する者さへある。而してこの「スコプツェン」派の信徒の仲間入りをする者のある場合には、必ずや多數の信徒が相集つて聖餐式を擧げることになつてゐる。其の儀式は頗る殘忍を極めたもので、男子ならば、多くの信者の面前に於て其の陰部を切斷せられ、儀式に列した信者は、その切斷された陰部を皿に盛つて喰ひ盡し、女子ならば、乳房や陰唇を切り取つて同じく皿に盛り一同が之を食するのである。而して食後には狂氣じみた舞踊が初まり、それが何時しか躁亂となつて儀式を終るのである。

去勢には四種の別がある。一は眞正の去勢、「エヒテー、カストラチー」Echte Kastrati で、兩側の睾丸及び陰莖を除去せるもの、二は「スパドネス」Spadones といひ、たゞ睾丸のみを除去したもので、最も屢々世に認められる。三は「トリビエー」Thlibiae といひ、睾丸を去らずして之を挫滅せしめたもの、四は「トラシエー」Thlasiae といひ、單に輸精管を切斷したものである。其の中にも睾丸と共に陰莖をも取り去つたものは、情事を行ふこと能はず、また性慾も沈衰する結果、他の方面に快樂を求めるやうに

なる。シユラーデルの記した處に依れば、「スコプッエン」派信徒の多數は兩替業を營み、金儲けを樂みにして甚だ貪慾であるさうである。(Mann und Weib, Band I.)

近世の基督教は去勢を行ふことを罪惡と認めてゐるが、併し前記の如く原始基督教に於ては之を容認してゐたので、その流れを汲める希臘教の信者中には「スコプッエン」派の如きものを開き、方今に於ても東歐地方には可なり多くの信徒がある。之がため歐洲の醫學者は、此の如き者に就いて去勢に基因する身體上の變化を精細に研究するの機會と便宜とを得ることが出來たのである。

吾國には支那の如くに宮刑の行はれたこと無く、また宗教的迷信より去勢を行つた者も無い。但し僧侶にして、女犯の罪を犯した者に對しては、その陰莖を截り取つたことがあつた。それは法然上人の門弟なる住蓮、安樂が念佛に事寄せ貴賤の女子及び人妻を姦したので、後鳥羽院の逆鱗に觸れ搦め捕はれて切羅(陰莖切斷)の刑に處せられたことである。『皇帝紀抄』に『近日件門弟等充二滿世間一、寄二事於念佛一、密二通貴賤並人妻、可レ然人々女一、不レ拘二制法一、日新之間、搦二取上人等、或被二切羅一或被二禁其身一云々』とある。

（四）

露國の「スコプッエン」派の信者に就いて、タンドレル・グロッスが親しく研究した處に依れば、彼等去勢者の身體の變化には二種の型式がある。第一型は上下兩肢共に甚だ長くして身長大に、一定の體部、例へば下腹、陰阜には脂肪織の增加を認めるが、併し第二型のものに比すれ

ば比較的に瘦形の方である。第二型に於ては身體の脂肪織著しく增殖して甚だしく肥滿せるが特徵で、上下兩肢は普通人に比すれば長いけれども、併し第一型に於けるが如くに著しくは無い。而して第一及び第二型のものに共通せる特殊の全身變化は、身體の活力に乏しく、步行緩漫で、顏面の皮膚は黃色を帶び、早くから數多の皺襞を生じて老人の如き外貌を呈し、頭髮及び眉毛は善く發育すれども鬚髭は發生しない。但し高齡に達せる者に於ては多少發生することもあるが、それさへ口角部と頤部とに限られてゐる。腋毛陰毛も少く、軀幹四肢の體毛は全く缺如し、喉頭は普通の男子のやうに發育隆起せず、從つて音聲も依然小兒的であり、陰莖の發育も不完全で短小である。

さりながら性慾に至つては必ずしも消失するもので無く、また幼年時代に去勢せる者に於ても、性慾の缺乏せざることはタンドレルの認めた處である。またペリカンの說に依るも、思春期に去勢した者は猶ほ性慾を有し、身體既に成熟せる後に去勢した者に於ては、其の性慾は殆ど變ることが無い。此樣な事實は嘗て支那に於ける佛國公使館附の醫師マリノンによつても認められ、少年時代に去勢せられた支那人が必ずしも其の性慾消失せずして婦人社會に出入し、性慾を滿足する者のあることが報告された。また同じく佛國の醫家マリーも小兒時代に去勢した埃及の一男子が、外觀上女子の如き體質なるにも拘はらず、劇しき性的興奮に惱み、未知の女王と相觸れて快感を覺えると云ふ一種の妄想を抱けることを記した。其の他、ギナールの說に依るに、去勢後も猶ほ久しく性慾が存續し、

外界の刺戟によつて著しく發揚興奮する者がある。また韓國に於ける去勢者に就いて、小山善氏の實驗せられた處に徵するも、彼等の中には私かに妻妾を蓄へ、その富裕なる者は蓄妾數人に及ぶ者もある。而して彼等の妾を弄するや、徹宵連夜歇むこと無く、また性交中屢々妾を毆打し、或は顏面手足を咬嚙するが如き暴行をなすことがあり、且つ嫉妬の情、常人に比して概して甚だしいと云ふことである。

されば去勢すればとて性慾が必ずしも減退消失するに限らない。固より幼兒時代に去勢された者は概して性慾の發育が微弱で、支那に於ては十歳以前に去勢した男子は絕對的に清淨無垢なる生活を送り得らるゝやうに信ぜられ、また黑奴の去勢するスタムブルに於ては、陽勢を能ふだけ早く亡くするために幼兒時代に去勢を實行する風習もあるが、併し小兒期に去勢したればとて、必ずしも性慾の缺乏を來さゞることは前述の事實に徵しても明かである。

近年に至つては優種學上の見地より常習性犯罪、白痴、精神薄弱、癲癇、酒精中毒等の惡質遺傳を防遏するがため、此等の者に去勢を行ふ處もある。米國に於て之を始めて實施したのはインヂアナ州であるが、歐洲に於て第一に此の方法を犯罪者及び精神病者に施したのは實に瑞西であつた。睪丸、卵巢を摘出する手術は實際上容易で無いから、男子に於ては精系の切斷、女子に於ては輸卵管を切除することになつてゐる。米國では二十四箇の州に於て犯罪者及び狂者に去勢法を施す法律が設けられてある。併し外科的手術を施して精系を切斷し、輸卵管を切除することは、身體を傷つけるから、更に新法

を工夫してレントゲン光線放射法を採用することゝなつた。蓋し生殖腺はレントゲン光線によつて容易に其の實質細胞が破壊せられ、受胎能力を失ふからである。併し性慾と性交能力とに至つては決して著しく變化することは無い。

眞言立川流の性慾哲學

栃木縣　福崎親

本紙第壹卷第四號「日本に於ける生殖器崇拜の起源及成立に就いて」の論文中、眞言宗に於ける宇宙觀を金剛界と胎藏界との二部に分ち、之れを理智の二者を以つて代表し更に男女の兩性に配し、遂に性交を以て即身成佛の象徴とする理旨が縷述されてあつた。これは所謂立川流の教義であつて、一つに邪流として南山義學の大成者宥快や寶性院快成のために一大鐵槌を加へられたものであるが、當時は洪水の氾濫するが如き勢を以つて、世の思想界を風靡したのであつた。今自分は少しく所謂立川流の教旨とその作法の一端を簡單に披瀝して、かくも爛俗淫靡の風が一種の信仰となつて民衆を支配したことを世に紹介し、合せて變態性慾と宗教を研究する者の參考にしたいと思ふ。

抑々この立川流の教義が何時の頃より萠芽を出したかと云ふに、凡そ七八百年前蓮念と云ふ人武藏國立川で陰陽師に眞言法を修得せしめてより始まつてゐるらしい。

この宗に於ける教義の內容を記述した「受法用心集」は、越前の國に生れた心定齋硏房が三十七年間あらゆる正邪混亂の明匠に隨身して修得したものであつた。その「用心集」に記するところに依ると、女犯は眞言一宗の肝心即身成佛の至極であつて、もし女犯をへだつる念をなさば成佛の道は遠かるべし。肉食は諸佛菩薩の內證利生方便の玄底である。もし肉食を嫌ふ心あらば生さ死を出る門に迷ふであらう。されば淨不淨をも嫌ふことなく、女犯肉食をも擇ぶことなく、一切の法はみな淸淨であつて速に即身成佛すべき旨を說いたものである。勿論眞言の一派の如く見なされてゐるが、眞言と云へば、大哲空海の開教になるものであるが、空海は決してかくの如き變態的信仰は毫も說かなかつた。これは全く蓮念を始め三寶院の勝覺によつて密教の思想に巧みに陰陽道を混和した思想であつて勝覺の胞弟仁寬によつて盛んに喧傳されたのであつた。初め仁寬は後三條天皇の子輔仁親王の護持僧であつたが、途に反謀のため伊豆に流罪の身となつたのであるが、之れと同時に大阪天王寺別當の任にあつた眞弘の下に眞慶あつて、大にこの思想の風靡につとめ、其の後漸く盛となつて、後醍醐天皇の時

に京都東寺文觀なるものあつて本經儀軌を僞造してこの思想の普及をはかつた。然るに德川時代に至つて是等一味の門徒崇信の教義に對して、前掲宥快は「寶鏡抄」快成は「邪正異解集」を著して挑戰したのである。かくて鍼誡を加へられ、破斥を加へられた立川流の宗教的作法を一瞥して、その宗格の大體を窺めよう。今は原文のまゝを擧げておく

「この法を修行して大悉地を得んと思はゞ本尊を建立せよ女人の吉相のことは今註する能はず。其のミソャと云ふは髑髏なり。此を取るに十種の不同あり。一には智者、二には行者、三には國王、四には將軍、五には大臣、六には長者、七には父母、八には母、九に千頂、十に法界なり。此十種の中に八種は知り易し。千頂と云ふは千人の髑髏頂上を取り集めてこまかに末してまろめて本尊を作るなり。(略中)本尊を作るに三種の不同あり。一には大頭、二には小頭、三には月輪形也。大頭は本髑髏をはたらかさずしてをとがいを造り、舌を造り、齒をつくりて骨の上に麥染にてこくそをかひて生身のしゝむらの樣によくみにくき所なく、したちを造り定むべし。其の上をよきうるしにてよく〳〵ぬりて箱の中に納め置き、かたらひをける好相の女人〇〇して其の〇〇〇をこの髑髏に〇〇すること百二十度〇〇かさむべし。(中略)如是押重ね書き重ぬること、略分は五重、中分は十三重、廣分は百二十重なり。猶を押して曼荼羅をかくことも皆男女〇〇の〇〇もてすべし。(中略)如是造り立つる間人のかよはぬ西道場を構へて種々美物酒をとゝのへて細工は〇〇と〇〇の外は人を不入。愁ふる心なくして、たのしみ遊んで正月の三日の如く祝ひて音をも振舞ふもたやすからず造るべし。(中略)既に作らば女の〇〇に〇〇絹にて九帖の袈裟を作つてつゝむべし」云々と。七八年の長日月を要して修養し、その行儀作法悉く男女關係を一貫してゐることは注目に値ひする。且つ彼等が即身成佛の極致とする男女關係の本尊をば、髑髏を男女の〇〇より〇〇して成し得る髑髏本尊に求むる思想は、變態信仰上興味ある研究對象とせねばなるまい。

大成者仁寛を祖とする立川流の教義を現代性慾學、或は宗教學上より觀れば、一概に古往の如く邪教あつかひとして督脱する理由はあるまい。單に人生々成の理法解決を密教教義上に求めんとして、その妙味を男女關係にのみ尋求し去つたことは、餘りにその狹儀なるを歎ずるのであるが更にこれを美化し淨化して人生至極の妙諦を獲得し得る方法について考察せんか、これ現代に仁寛を活かすものであつて、又斯學に眞摯なるものと云へよう。聊か「生殖器崇拜の起源及び成立」なる論文を見ての所感を記して蛇足とするものである。伏して田中香涯先生の寬恕を乞ふ次第である。

日本の古文學と「性」（三）

（四）瘡開（かさつび）

王朝時代の女流歌人和泉式部が『瘡開』といふを題にして、

　筆もつびゆがみて物の書かるゝは
　　これや浪花のあし手なるらん

といへる和歌を詠んだことがある。『塵添埃嚢抄』に其の由來を記して『和泉式部、無双の好色なりけるに、ゐのこの夜、御歌ありけるに、わざと心をあはせければ、瘡開といふ名を式部とりあてゝ斯く詠めり』とある。然らば『あし手』とは如何なることかと云ふに元來は「芦手」の謂ひて、歌の文字を芦の葉のやうに書くを云ふこと『北邊隨筆』にも說いてあるが、併しまた一に『惡筆』（あしで）の意にも用ゐらるゝことは『松屋筆記』に『あしでとは亂れ芦のさまに惡筆(あしで)を思ひ寄せたる名あるべし』とあるによつても分る。さて和泉式部の歌の意を考ふるに、惡筆(あくひつ)の音を隱して惡疾に寄せ、惡疾(あくしつ)の痒きを搔くよしに詠んだのである。蓋し陰門を『つび』（通鼻）といふことは『和名抄』『類聚名義抄』等にも記する處で、『筆もつびゆがみて物のかゝるゝは』と云ふは陰門曲みてと云ふ意に寄せ、書くを搔くと云ふ意に寄せたので、卽ち芦手に託して惡疾の痒きを搔くことの意味に詠んだのである。（松

屋筆記に據る)されば和泉式部が題にとつた『瘡開』は、陰門搔痒症 Pruritis vulvac のことであらう。式部の好色無双であつたのは、或は此の病のためであつたかも知れない。

〜〜〜〜〜〜〜〜

獨詩和譯

ロレライ　　ハイネ

いかなる故か分かれども
悲しかりけり我がこゝろ
世々に傳へしそのかみの
むかし語りの忘られで

風ひやゝかにたそがれて
流れしづけきライン河
さすや夕日の影うけて
ひかり輝く山のみね

黄金のかざり眼もはゆく
梳る髮も黄金なす
はしき少女のあやしくも
かなたの岩にたゝづめる

黄金の小櫛手に取りて
こがれの髮をけづりつゝ
うたへる歌のしらべには
くしき力のこもるかな

くだす小舟の船人は
物かなしくもおもほえて
岩ほの立つもうち忘れ
山のかたのみ仰ぐなり

はては小舟も船人も
波のうちにや沈むらん
あやしや歌のちからにて
かゝるわざ爲すロレライは　（香涯）

次號豫告

▽幼兒に於ける性的行爲に就いて
（フロイドの所說を駁す）
▽苦悶と性的興奮
▽女子に於ける快感の缺乏
▽日本の古文學と「性」(三)
▽女子に於ける性慾と其の變態（承前）
▽半陰陽に關する說話
▽男子同性愛の心理に就いて（寄書）
▽變態性慾要說(四)

創刊號內容▽發刊の辭▽性的早熟と早夙性發情▽月經の生物學的意義に關する一疑問▽割禮の遺風と認むべき日本民族の龜頭裸出▽虐待性好淫者ザード侯爵と殺生關白豐臣秀次▽江戶時代に於ける性的犯罪の利▽男性假半陰陽者アレキシナの日記中より▽女嫌ひ▽變態性慾要說(一)

第二號內容▽マゾヒスムスに關する說話▽賣婦人墮落の原因考察▽日本に於ける生殖器崇拜の起源及び成立に就いて(上)▽黴毒に傳染したるショーペンハウエル▽墮胎と墮胎專門▽變生男女の話

第三號內容▽女性の生殖機能と犯罪(上)▽自然の防姙作用▽性慾の昇華に就いて▽日本に於ける生殖器崇拜の起源及び成立に就いて(中)▽男娼考▽男女關係の變遷▽變態性慾要說(二)

第四號內容▽女子同性愛に關する說話▽女性の生殖機能と犯罪(下)▽月經不淨觀の原因考察▽醫學上より觀たる獨身生活の利害(上)▽日本に於ける生殖器崇拜の起源及び成立に就いて(下)▽毛髮戀愛――截髮漢▽迷信と猥褻罪▽强姦の鑑定難▽變態性慾要說(三)

第五號內容▽同性愛に關する內分泌の學理に就いて▽先天性生殖腺發育不全▽非自然的性交に因る姙娠▽醫學上より觀たる獨身生活の利害(中)▽女性陰毛の生理▽「サロメ」とザヂスムス▽英國宮廷腐敗史の一節▽日本の古文學と「性」▽乳房と生殖機關▽男子同性愛の一實例

本誌定價表

壹部（一ヶ月分）	金參拾五錢	税壹錢
六部（半ヶ年分）	金貳圓拾錢	税共
拾貳部（一ヶ年分）	金四圓拾錢	税共

注意
□御註文は總て前金御拂込のこと
□なるべく振替にて御送金のこと
□特別號は定價超過分申受のこと

本誌廣告料

表紙二、三、四面	金五拾圓
普通面一頁	金參拾五圓

大正十一年九月廿日印刷納本
大正十一年十月一日發行第一卷第六號

編輯兼發行者　東京市外北品川御殿山七一八　中村古峽
印刷者　東京市芝區南佐久間町二ノ一四　渡邊素一
印刷所　東京市芝區南佐久間町二ノ一四　內外印刷合資會社
發行所　東京市外北品川御殿山七一八　日本精神醫學會
〔電話高輪一〇四三番〕
〔振替東京三一一七七番〕

大賣捌（東京堂、東海堂、北隆館、參文社、上田屋、至誠堂、盛春堂、共盛社）

第十巻 □ 十月號要目 □ 第四號

變態心理

每月一回一日發行
定價一部五十錢
郵稅壹錢
半年分稅共參圓
一年分五圓八十錢

□動脈硬變に由る神經衰弱及麻痺性癡呆……醫學博士 佐多芳久
□心理上より見たる夏期轉地修養隊　東洋大學講師 下澤瑞世
□天才の起源【天才研究】……マイヤーズ
□感受性の外部投射【心靈問題】……早大文學士 大戸徹誠
□性的信仰の變態心理的興味【宗教叢談】……栗山信次郎
□兄弟を殺した狂大學生【狂人研究】……谷村喜市
□捨兒に秋の風如何に【社會觀察】……瘦馬生
□ドストイフスキーの神聖病【藝術雜話】……井東憲
□傳說の怪人怪物【傳說口碑】……栗山信次郎
□注意の動搖と固定【催眠研究】……文學士 中村古峽
□精神分析的に見たる人類の鬪爭本能……マツカーディ
□僧あつて僧たらず【時評】……KS生

東京品川御殿山 日本精神醫學會
振替東京三一一七番
電話高輪一〇四三番

日本變態心理叢書

變態心理主幹 中村古峽監修

變態心理編輯部著

四六判美裝 二七〇頁 送料十七錢

定價壹圓八十錢

第一編

少年不良化の徑路と教育

好評嘖々再版

本書は、幾多の少年の不良化し、遂には恐るべき犯罪をもなすに至る徑路を觀察し、その如何なる原因に依るかを社會的家庭的、敎育的の種々なる缺陷に究め、更に思想的の遠因をも尋ね、社會的に著名なる數多の實例を引用して、心理的に懇切平易なる說明を加へたるもの。以て國民敎育の徹底に資すべく、世の敎育家、家庭父兄及社會問題研究家の一讀を望む

内容一斑

- 不良少年の問題
- 恐るべき不良少明の犯罪
- 不良少年の種類と團體
- 不良少年を生む環境
- 不良少年の遺傳と素質
- 不良少年の感化救濟
- 家庭敎育と不良少年
- 思想問題としての不良少年

東京品川御殿山
日本精神醫學會
振替東京三一一七七番
電話高輪一〇四三番

日本變態心理叢書

第二編

變態心理主幹 文學士 中村古峽新著

自殺及情死の研究

四六判美裝 三五〇頁 送料十七錢

愈二々發賣 定價貳圓參拾錢

著者は變態心理の研究家として世に喧傳せらるるが、啻に個人變態心理のみならず、社會變態心理現象にも多年注目する所あり、その第一着手として自殺及情死なる現象に對する觀察を公にするに至れり。本書は、この現代社會の病患たる現象に對して、先づ統計學及醫學上より觀察し、歐米幷に日本の諸大家の學說を紹介し、更に何人も及ばざる獨特の立脚地に立ちて、自殺者の心理を研究し、その思想問題としての價値及道德的責任にまでも論及せるものなり。而かも世の專門書の如く乾燥無味に墮せず、說明は平易に、科學的冷靜と文學的熱情とを以てし、引例豐富に興味深く讀了せん事を期したり。敢て警世憂國の士の一讀を切望す。

東京品川 御殿山 日本精神醫學會 振替東京三一一七七番 電話高輪一〇四三番

哲學的冥想を加味したる新心理觀察!!

文學士 寺田精一先生新著

惑溺と禁慾

（精巧寫眞版三十餘枚入）

總紙數約五〇〇頁

定價金貳圓八拾錢

送料金拾貳錢

—（目 次 一 斑）—

一、惑溺と殘忍
一、はしがき——二、自己の生存——三、惑溺——四、信仰——五、犧牲——六、宗教的自殺——七、惡魔拂ひ——八、宗教的歡樂——九、戀愛と苦痛——一〇、愛の戯れ——一一、愛の爆發——一二、愛の憎み——一三、虐げの强請——一四、結末

二、禁慾と殘忍
一、はしがき——二、空腹——三、貞操帶——四、縫合——五、去勢——六、醜化——七、傷害——八、苦行——九、誹謗——一〇、人肉聖餐——一一、宗教裁判——一二、鞭韃宗——一三、結末

三、人類の慘虐性
一、見世と殘忍——二、突際と慘虐——三、男女と慘虐——四、嫉妬と慘虐——五、復仇と慘虐——六、憎惡と慘虐——七、冒險慾滿足——八、群衆と慘虐——九、障と慘虐——一〇、革新と慘虐——一一、慘虐の變態

四、食と便と性
一、はしがき——二、惡親と會食——三、會食の恐怖——四、所有の不安——五、儀禮と食事——六、親和と略奪——七、排泄の警戒——八、便事の羞恥——九、便所の恐怖——一〇、處女の赤面——一一、會食の秘密——一二、獲得の誇示——一三、許容と解放——一四、闇黑放蕩——一五、結末

五、香に對する執着と憧憬
一、はしがき——二、香氣の愛惜——三、性的の刺激——四、執着の對象——五、性慾的憧憬——六、性慾的耽溺——七、宗教的氣分——八、創作の氣分——九、耽美の享樂——一〇、臭氣の恐怖

六、香と化粧
一、夏季と臭氣——二、臭氣と貿慾——三、性的の意味——四、身體の臭氣——五、文化と香料——六、民族と香料——七、芳香に惑溺——八、魅惑性の力——九、化粧の芳香

七、文身の興味
一、文身と日本——二、肉體の變形——三、文化と文身——四、衣服と裸體——五、階級の文身——六、染色の文身——七、刺色の文身——八、傳說と文身——九、社會的標識——一〇、迷信と文身——一一、孤獨の遊戯——一二、性的の衝動——一三、記憶と記念——一四、國家の奇巧——一五、虛榮と文身——一六、威嚇的意味——一七、文身が財產——一八、文身技工家——一九、結晶と藝術——二〇、文身競覽會——二一、境遇と理想——二二、罪人の文身——二三、刑罰と文身

八、熱さと激越性
一、はしがき——二、吾々と熱さ——三、性の慾求——四、性の犯罪——五、傷害罪——六、殺人——七、自殺——八、同盟罷工——九、熱さと刺戟

九、闇黑の力
一、惑溺と闇黑——二、不安の減少——三、靈魂の喪失——四、敢行心昂進——五、罪惡と闇黑——六、お祭と夜間——七、享樂に耽溺——八、宗教的氣分——九、幽靈の出現——一〇、白晝の畏怖

十、綽名と其の滑稽味
一、はしがき——二、命名と綽名——三、作成の動機——四、命名の對象——五、奇妙な形容——六、嘲弄の寄與——七、省略の巧妙——八、綽名と用意——九、結果

東京品川御殿山 日本精神醫學會 振替東京三一一一七 電話高輪一〇四三番



幼兒に於ける『自己發情』に就いて（上）

幼兒に於ては未だ其の生殖機關が發育成熟せず、また精液、卵子が製造排出されないにも拘はらず、往々性的興奮乃至滿足に類似する現象を呈することがある。但しそれは自己の身體の一定部位、例へば陰部、口唇、乳房、臀部、肛門、耳等の機械的刺戟、即ち摸觸、摩擦等によつて起る處の快感であつて、其の際屢々心地よげなる身體的の動作を伴ふものである。エリスは這般の現象を稱して『自己發情』Auto-Erotismusと云つた。蓋し幼兒が自身の體部を自ら刺戟することによつて、快感を覺え發情すると云ふ意義である。フロイドは幼兒に於て最も早く快感を發起する體部、所謂『發情帶』Erogene Zoneを以て口唇であるとし、かの哺乳兒が母の乳房を吸吮し、且つ温い乳汁を口にすることが、一の機械的刺戟となつて本能的に快感を覺えるものであるとし、哺乳兒の心地よげに乳汁を吸う Wonnen-

saugen てゐるのを一種の自己發情と看做した。曰く、幼兒が乳汁を飲み飽きて母の胸から離れ、頬に紅を潮し、心地よげに微笑しながら睡眠に就く有様を見た者は、それが恰も成人に於ける性的滿足の表情に類似することを言はねばならぬであらうと。„Wer ein Kind, gesättigt von der Brust zurücksinken sieht, mit gerötetem Wangen und seligem Lächeln in Schlaf verfallen, der wird sagen, dass dieses Bild auch für den Ausdruck der sexuellen Befriedigung im späteren Leben massgebend bleibt." 而して小兒科醫リンドネルもまたフロイドと同じく、哺乳兒に於ける前記の現象を以て性的現象の範圍に屬するものであると認めた。

啻に口唇ばかりで無く、他の體部、殊に知覺神經に富んだ部位の摸觸、摩擦からも發情して、所謂「哺乳兒手淫」Säuglingonanie を來すことは、フロイドの言明した處である。其の說に依れば、哺乳兒が尿及び糞便を排泄して陰部を汚すこと、また母或は看護人によつて之を拭去せらるることの爲めに快感を覺え、手淫を行ふやうになる。フロイドは之を以て殆ど如何なる小兒にも免れ得ないものであると云ひ、哺乳兒に行はれる手淫は、性的活動に對する發情帶の中、陰部を未來の首位 Das kunftige Primat とする自然の意志を知り學ぶべき生理的現象と看做した。

哺乳兒に自發的手淫の起ることは私共の見る處を以てするも固より疑ひない事實である。之に就

いては夙に小兒科醫の實驗的記述も尠く無い。千八百八十六年ヒルシユスプルングは生後第十三ケ月の女兒が手淫を行ひ、其の際、骨盤を上下し、下肢を開張し、顏面發赤し、瞳孔散大し、嘆聲を發した者があつたことを記し、フライシユマンも哺乳男兒が手淫を行ひ、其の陰莖は小指頭大までに勃起腫大し、顏面紅を潮し、眼は異樣に輝いた一實例を記述した。近年に至つても、ホイブネルは生後六ケ月の男兒が自ら兩股を以て陰莖に機械的刺戟を與へ、顏面潮紅し、全身に發汗した者があつたことを見た。またネーテルは千九百十三年世に公にした『前學齡期に於ける手淫』Die Masturbation im vorschulpflichtigen Alter といふ論文に於て、乳兒及び幼兒の手淫例二十六例を蒐集して、其の多數が健康の小兒であつたことを述べ、またフリードユングも二年間に三十五例の幼兒手淫例を實驗したことがある。

さりながら哺乳兒が母乳を吸吮することによつて快感を覺え、また自發的に手淫を行ふことは、果してフロイド及び其の門派の說くが如くに、幼兒に於ける自家發情と看做すべき性的現象であらうか。私は先づ此の事項に就いて卑見を敍說したい。

抑々哺乳兒に於ても知覺神經に富んだ口脣、陰部の如き體部の機械的刺戟によつて、一種の快感の誘起せられることは固より自明の理であるが、併し之を以て直ちに性的快感と看做すことは出來

ない。從つて之によつて起る處の身體的動作を以て、自家發情に基くものとは斷定し得られない。例へば成人に就いて之を觀るも、外耳の機械的刺戟、或は皮膚の按摩等によつて快感を催起するも、それは性的快感とは其の性質及び狀態を異にしてゐる。但し既に生殖機關が發育成熟し、性ホルモンの內分泌が始まつて、性慾が發揚興奮する思春期に至れば、異性との接觸による一定の體部、例へば口唇、舌の刺戟(接吻)、或は皮膚の刺戟(握手、抱擁等)のために發情し、また陰部の刺戟等によつて發情するけれども、哺乳兒が母乳を吸吮して心地よく樂しげなる表情運動をなすのは、恰も成人が美味の食物によつて味神經に感ずるのと同樣の快感に起因するのであつて、決して性的範圍に屬するもので無い。リンドネルは哺乳兒が啻に母乳のみならず、また自己の手指、手背、前膊、拇趾等を吸吮して快感を覺え、猶ほ此の快感を增進せんがために、同時に手淫を行ふに至ることを說いて、之を齊しく自家發情と看做し、また近年ガラントも乳兒乃至幼兒の心地よげに吸吮する時の快感が、成人に於ける性的快感と同一であることを說いたが、併し此の如き見解は、畢竟揣摩的獨斷に過ぎない。幼兒が口唇なり陰部なりの刺戟によつて快感を催起することは固より疑ひない事實であつても、それを直ちに自家發情とし性的現象とすることは、囚はれた獨斷的觀察であつて、他の體部の刺戟によつても同じく快感を發する事實に徵すれば、前記の現象を目して直ちに特殊の

性的徵候と看做すことは出來ない。この事は既にモルも論じた處である。

また乳兒に往々見る處の手淫も、全く純粹なる末梢的刺戟から起るものであつて、單に陰部の知覺神經を刺戟し、以て一種の快感を求めんとする本能的動作に外ならない。モルの說いた如く、幼兒が自體の機關を意識し初めた時は、自ら之を觸れるやうになるもので、鼻、耳、手指、足趾等の別なく、いづれも同樣に摸觸するものである。されば陰部を觸れるのも固より當然の結果であるから、之を以て性的感覺、性的衝動に基因するやうに認めるが如きは、全然其の見方を誤つたものと謂はざるを得ない。乳兒に於て往々其の陰莖が勃起するのは、畢竟、膀胱の充實に因る反射的運動に由り、或は包皮の炎症、瘙痒性發疹に起因することが多い。此の如きものを性的現象と看做すことの出來ないのは勿論である。成人に於ても所謂『朝の勃起』Morgenerektion といつて、膀胱に尿の蓄滯するがために反射的に陰莖の勃起することがある。されば乳兒に往々陰莖の勃起を認めればとて、それを直ちに性的感覺乃至衝動に起因するものと看做してはならない。

幼兒に於ける手淫は、レーウエンフエルドの說に依るに、フロイドの云つたやうに必ずしも殆ど常に哺乳兒時代より起るものでなく、八歲に至る迄は槪して稀有である。而して其の手淫を行ふ原因としては、前記の如く、包皮の炎症、瘙痒性發疹等に基因することが多く、自家發情に基づく性

的現象と看做すことの不可能なる所以は固より論を竢たない。さりながらまた此の如き外部の刺戟なくして陰莖の勃起を來す幼兒も往々ある。モルは之を說明して、生殖機關、就中、睪丸の發育が一の刺戟となつて反射的に勃起を誘發するものであると云つた。(發育刺戟 Wachstumreiz)併し此の說に對しては、レーウエンフエルドの言つた如く、幼兒に於て徐々に經過する睪丸の發育が、反射的に刺戟作用を及ぼして勃起乃至手淫を誘起するものとは信ぜられない。さりながら幼兒の中にも性慾が早期に發現して、性的行爲を演ずる者もあることは實際上疑ひない處で、例へばフエーレーの記述した如く、既に六歲の頃より同年の從妹と屢々『夫婦事』„Mann und Frau“ の遊びをなし、また之を腦裡に想像して、快感を伴ふ勃起を來したやうな幼兒もある。此の如き幼兒は蓋し精神病的體質、變質者の部類に算入すべきものである。さりながらレーウエンフエルドの說に依るに、幼兒に於て十歲以前から手淫が行はれることは僅かに十二%に過ぎず、而も其の大半は八歲の頃より始めて行はれるものである。而して其の原因は甚だ種々であるが、其の多數は遊び友達、或は奴婢の誘惑に基づき、或は陰部に局所疾患があつて瘙痒を感ずるに因り、或は木登り、滑下等の遊戲の際、陰部、會陰部に受けた壓迫によつて快感を催起するに基づくのである。フロイドが手淫は殆ど常に哺乳兒時代より始まり、之を以て一の生理的現象と稱した如きは、私共より觀れば全然事實に

適しない所説と謂はざるを得ない。

フロイドの説に依れば、口唇、陰部の他、皮膚、筋肉、尿道、肛門等の機械的刺戟からも性的興奮を來すと云ひ、皮膚に及ぼす温度的刺戟(例へば温浴)、律動的なる身體の震盪(搖籃、ブランコ等)によつて幼兒が發情すること、また脱糞、排尿が快感を催起することを説いた。併し前既に述べた如く、是等の體部の刺戟に因る快感は、よしや快感であつても、決して性的快感と同一視すべき性質のもので無い。然るに、それを大人に於ける性的快感及び性慾滿足と同じやうに看做すが如きは、揣摩臆想的獨斷であつて、イッセルリンの評した如く詩的空想と稱しても可なるものである。私共の見る所を以てすれば、所謂自己發情なるものは、思春期に達して生殖機關が發育し、之から性ホルモンが分泌せられて、性的緊張 Sexual-spannung を來す狀態とならなければ本當に起るもので無い。乳兒、幼兒が自己の口唇、陰部を始め、知覺の鋭敏なる皮膚や粘膜に自ら刺戟を與へて快感を貪るのは、單に愉快なる感じそのものを要求するのであつて、成人に於ける性的慾望及び滿足とは全く其の性質を異にしてゐるのである。生殖機關が成熟せず、性ホルモン內分泌が起らない幼兒に於ては、性的緊張なるものが無い。何となれば、性的緊張は生殖機關を中心として起るからで、即ち生殖腺より血液內に分泌する「ホルモン」の作用によつて自己發情を來し、性的緊張狀態となる

ことは、動物試驗上、交尾期にある動物より其の睪丸或は卵巢を摘出し、其の越幾斯成分を他の動物に注射すると、直ちに發情して性的緊張の狀態を呈するに至るのを見ても明かであり、またコッスマン等の認めるが如く、生殖機關の充血或は精液の鬱滯等によつて、其の部の知覺神經が刺戟せられ、反射的に腦及び脊髓の性中樞が興奮して發情するが如き事實は、思春期に至つて後始めて見る處で、幼兒に於ては決して前記の如き自己發情を認め得られない。但し變態兒童、即ち精神病的體質の者に於ては、早期に性慾が發現し、生殖機關が猶ほ成熟せずとも發情するが如き者もあるが、併し之は固より病理的現象であつて、決して一般の幼兒を律することは出來ない。要するに眞正の意味に於ての自己發情は、生殖機關が成熟し、之を中心として性的衝動が起る處の思春期に至つて始めて現はれるものである。知覺神經に富んだ一定の體部、所謂發情帶の刺戟によつて性慾が興奮發揚し、性的緊張狀態となるのは、思春期に入つてからのことで、それ迄はたとひ發情帶部が刺戟されても、それは單に愉快の感じを覺えるに過ぎないのである。さりながら早期に性慾の發現した變態幼兒にあつては、陰部、口唇、其の他の體部の刺戟によつて自己發情を來すべきことは固より言を俟たない。

フロイド等は「肛門色情」Analerotik に就いて記述し、幼兒が脫糞の際、其の糞塊の機械的刺戟に

よつて快感を覺え、之がため故意に糞便を蓄積して快感を増進せしめる傾向あることを說いた。これまた所謂自己發情と看做されてゐるものであるが、併し此の如き事實の稀有なることは、既にレーウエンフエルドの認める處である。而して往々之を見るにしても、それは神經病的素質ある幼兒であるから、決して一般的のもので無い。また糞塊の刺戟に因る肛門部の快感が、性的快感と同一視すべからざることもまた自明の理である。（未完）

女性に於ける快感の缺乏

(一)

「男子は陰門のために女子を愛する」„Der Mann liebt das Weib um der Vulva willen"と云つたギオルダノーの言は、あまりに動物的であり本能的であつて、道學先生の非難攻撃を免れまいが、併し人生の現實の上から觀れば、たとひ精神的には相結合しても、女子が性交に冷淡無頓着なるか、或はその生殖機關に異常故障あつて性交の自由と滿足とを男子に與へざる時は、いつ迄も其の戀愛關係を維持すること能はず、いつしか男子の愛情が冷却して他に新らしき異性を求むるやうになるのは、蓋し必然の歸結である。私の見る處を以てすれば、兎角夫妻間の感情融和せず、家庭の平和を缺いて男子は放蕩耽溺に流れ、女子に孤閨に呻吟してヒステリックの狀態に陷り、双方共に不快不幸の生活を送りつゝある者の中には、女子の方に性的缺陷があつて、男子の愛情を維持することを能はざるが如き者も尠くは無からうと思はれる。また他の一面に於て女子に屢々認めらるゝ姦通事件の中にも、男子に陰萎、或は早期射精等の如き性的異常があつて、女子に滿足を與ふること能は

ざるが爲めに起るが如き者も可なり多からう。されば家庭の紊亂に對して其の原因由來を究むる場合には、性的方面に關する要素をも等閑に附してはならない。道學先生や敎育家の人々が單に道德的方面より觀察して嚴酷なる批評を下すが如きは、人生の一面たる本能生活の意義を閑却せるものである。

私は今玆に女子に於ける性的快感缺乏の理論學說を說述し、それが家庭生活に及ぼす影響にも論及して世人の參考に供したい。

（二）

性交の際、女子が快感を覺ゆるのは、陰部知覺神經が刺戟せられて、一方にはその刺戟が直接に腦髓に傳達せられ、一方には腰髓に存する性中樞が反射的に興奮し、陰門、膣、子宮及び輸卵管の筋の收縮を來すに由るのである。外陰部、膣及び前庭に分布する知覺神經は、坐骨神經叢より派出する總陰部神經であつて、其の一部分は陰核に分布し、クラウスの發見した特殊の神經終器、所謂生殖神經小體に終つてゐる。陰核は最も知覺に鋭敏なる性機關であつて、之に輕易なる刺戟を與ふるも、直ちに快感を催起するものである。されば陰核の發育大なるものは、從つて其の性的興奮を來すことも强く、タイルト、シユリツヒ等は大なる陰核を有する女性は、一般に性慾の强きことを

認めた。

性交の際、陰核を始め膣の機械的刺戟を受くるや、その部に分布する末梢知覺神經の興奮は脳髄に傳はると共に、一方に於ては腰髄の性中樞を反射的に興奮せしめ、先づ陰門括約筋の收縮するがため、大陰唇の後内方にあつて前庭に開口せるバルトリン氏腺を外方より壓迫し、以てその粘液を多量に分泌せしめる。次いて、膣の蠕動性收縮を來し、子宮及び輸卵管の筋壁も收縮して粘液を夥しく搾出する。此の如く反射的に子宮、輸卵管の收縮することによつて女子は快感の高頂、即ち「オルガスムス」Orgasmus に達するのである。さりながら女子は初婚當時より必ずしも快感を覺ゆる者で無く、多くは疼痛を感ずるのみで、しかも此の疼痛感覺は、一週、二週、時としては四週に至るまで繼續することもある。されど時日を逐うて次第に通常の感覺となり、一乃至二年にして眞に快感を催起するが如き者も尠く無い。キッシュの説に依れば、初婚後、數週を經過した十人の中、二人のみは始めて快感を覺え、他の八人の中、四人はたゞ一種の愉快の感を覺え、更に他の二三人は半年、時としては數年に亘つて、何等快感を覺えなかつたと云ふことである。

（三）

クラフト・エビングが女性に於ける快感の强弱に就いて分析的に研究した處に依れば、第一は陰

部末梢知覺神經の刺戟の强弱及び其の持續時間の長短に關する。第二は腰髓にある性中樞の反射的興奮性の强弱に關係する。第三は精神作用の影響に關係する。相手の男子或は性交行爲に對する厭惡恥羞等の如き情緒は快感の發起を抑制する傾向がある。女子が快感の高頂に達するのは、內部生殖機關に發起する特殊の筋運動に起因するもので、其の原因は腰髓に存する性中樞の反射的興奮である。最初に起る所の反射運動は膣壁の收縮運動で、これは畢竟膣括約筋の收縮より起る現象である。次いで子宮及び輸卵管の蠕動運動が起り、其の筋壁の收縮するがために子宮頸部及び子宮體の粘膜より多量の粘液を搾出するのである。デンボーは動物に於て、膣の前上壁を刺戟した處、子宮は反射的に收縮運動を惹起し、其の位置鉛直となつて同時に膣に向つて下降し、且つ其の筋壁收縮して粘液を搾出し、次いで再び弛緩するに當り、膣內に射出された精液を吸引することを見た。此樣な現象は夙に希臘太古の碩學アリストテレースも認めた處である。人間に於てもまた同樣の現象が仔細に觀察せられた。リッツマンは性的に興奮し易き婦人に就いて其の子宮膣部を手指を以て觸れた處、子宮孔は開放して圓形となり、子宮の位置は鉛直となつて下降し、子宮膣部は硬固となるを見、ルーゼは子宮體及び底部を以て勃起機關なりと云ひ、ウエルニッヒは子宮膣部も陰莖の如く勃起することを云つた。

ヘンゼンが其の著『生殖生理』Physiologic der Zeugung に於て說いた如く、飢餓と食慾とによつて食物を攝取すると、味覺の快感、咀嚼運動、唾液分泌が自然に起るやうに、性交に於ても其の刺戟による特殊の快感、膣、子宮の收縮運動、粘液の分泌等が起り、以て快感の高頂に達するのである。而して性交の際先づ第一に起る處の陰門括約筋の收縮によつて、バルトリン氏腺より粘液の流出するのは、之によつて性交の機械的作用を圓滑ならしむるがためであり、また快感の高頂に達する場合に、子宮壁が收縮下降して其の粘液を搾出するのは、一はケーレルの說いた如く、子宮頸管內を充實する粘液塊を壓出して精液進入の路を開き、一は「アルカリー」性の粘液を分泌して豫じめ精蟲の運動を促進せしむる準備をなし、其の膣內に射出された精蟲をして容易に子宮內に進入せしむるやうにするがためである。而して快感の高頂に達した際强く收縮した子宮が再び弛緩するに當つては、恰も壓搾せられた護謨球が再び擴張して水を吸引するのと同じく、膣內に射出せられた精液を子宮內に吸ひ取ることは、啻に動物に於て然るのみならず、人間に於てもハルレル、ピショッフ、ギユンテル、シムス等の夙に認めた處である。されば快感の缺乏した女性が概して姙娠すること稀有なる理由は、上記の事實に依つて充分に說明し得られる。

(四)

女性に於ける快感の缺乏、所謂「ヂスパロイニー」Dysparcunieと性慾の缺乏 Anaesthesic sexualisとは嚴に區別しなければならぬ。性慾の缺乏は生殖機關其者には何等の異常障碍なきも、腦或は脊髓の解剖的或は機能的疾病によつて性慾が缺乏し或は全身榮養障碍、「モルヒネ」中毒、酒精中毒等の結果、性慾が沈衰消失するより起るものであるが、之に反して、性的快感の缺乏即ち「ヂスパロイニー」は、性慾が存在し、加之、强盛にして時としては異常に亢進する傾向あるにも拘はらず性交を行ふも快感を催起せざるもので、其の由つて起る原因には三種ある。

(一)女性生殖機關に於ける知覺神經の刺戟興奮性の減失　これは屢々認めらるゝ原因で、性交方法が其の宜しきを得ざること、就中、男子の陽勢の不充分なるに由ることが甚だ多い。結婚後、旣に數年乃至十數年を經過して始めて姙娠するが如き者の中には、年の進むに從つて次第に男子の陽勢が恢復し、女子に快感を發起せしむるに至つた結果に基づくものも尠くはあるまい。キッシュの擧げた次の實例の如きは蓋し之に該當するものであらう。その一は二度結婚した婦人で、先夫とは五年間、次の夫には殆ど六年間連れ添うた後始めて姙娠し、他の一人は十九歲の女子で、房事過度のために虛弱となつた四十歲の男子と結婚したが、四年後に至つて漸く夫婦の義務を全うすることを得、その後六年を經て始めて姙娠した。

(二)腰髓に於ける性中樞の反射的興奮性の滅失　「ヒステリー」、脊髓病の婦人に於ては、腰髓の性中樞の興奮性が屢々減退してゐるから、此樣な婦人は、たとひ性交を營むとも、子宮の反射的收縮運動、粘液分泌を來すことなく、從つて快感を覺ゆることが無い。哺乳動物に於ては交尾期以外の時は此の中樞の興奮性が滅失し快感を發生しないから、雌は雄の誘惑を受くるも之に應じない。

(三)精神感動　憂鬱、厭惡、羞恥等の感情は、快感の發生を困難ならしめまたは之を抑制するものである。されば自己の愛せざる男子と結婚した婦人が殆ど快感を覺ゆること無く、一人の子供をも生まずして寂しき一生を送るが如きは毫も怪しむに足らない。されど若し自己の愛する他の男子に接すれば、始めて快感を催起して姙娠するものである。此の如きものを稱して「關係的ヂスパロイニー」:Relative Dyspareunic と云ふ。伊藤傳右衞門に嫁した柳原燁子が十年間一回も姙娠したことなきに、情夫宮崎龍介の胤は直ちに之を宿した如き、蓋し此の一好例である。ハルレルが不姙の原因として夫婦間に於ける愛情の缺乏を擧げたのは、實際上の事實に適してゐる。されどたとひ其の夫を愛してゐる婦人でも、性交の際强いて其の意識を他に注ぎ、或は全く受動的位置を守つて快感の發生を抑制する時は多くは姙娠しない。

「ヂスパロイニー」を患ふ女子の徵候として容易に認めらるゝものに二種の事實がある。一は性交の際、粘液の流出しないことである。蓋し性交の際、最初に出づる粘液は、バルトリン氏腺の分泌液であつて、これは畢竟、陰門括約筋が反射的に收縮して前庭部に開口せるバルトリン腺を外方より壓迫するがため、粘液が排出せられるのである。次に出づる粘液はクラフト・エビングの言つた如く、子宮及び輸卵管から出づるもので、それは子宮、輸卵管の筋壁の蠕動的に收縮するがために排出せられるのである。されば快感の缺乏せる女性に於ては、性交を行つても、バルトリン氏腺及び子宮粘液の排出することが無い。

第二の徵候は、性交後、直ちに膣內より出射された精液の流出することである。蓋し快感を催起する女子に於ては、前記の如く膣及び陰門括約筋が反射的に收縮するものであるから、膣內に射出せられた精液は、性交後、暫くの間は膣內に保留せらるゝも、之に反して「ヂスパロイニー」の女子に於ては、陰門及び膣括約筋が收縮しないがため、膣內に射出された精液は直ちに流出するのである。

上記の如く快感の發起せざる女性に於ては、膣、子宮壁が反射的に收縮すること無きため、其の內部生殖器關に於ける性交時の充血は消失し難く、從つて性交を重ぬると共に充血の度は增進し、

遂に膣、子宮等の組織的變化を喚起し、それが更に神經中樞に影響して、所謂性的神經衰弱症 Sexuelle Neurasthenicを惹起するやうになる。クラフト・エビングの云つた如く、快感を伴はざる不完全の性交は實に女子に於ける神經病の原因となること多きものである。而してキッシュの談に依れば、「デスパロイニー」を患ふ婦人には、生殖機關に血液の鬱積する結果として、膣及び子宮粘膜の漫性炎症を誘起し、また漫性子宮實質炎、骨盤結締織炎が發生し、遂に内部生殖機關の弛緩を來し、從つて膣粘膜の感覺も甚だしく鈍麻して益々快感缺乏の度を增加するやうになる。而して其の影響は神經中樞に及び、女子の性質は「ヒポコンドリー」或は鬱憂狀態となつて、夫婦間の幸福を破壞しその家庭は陰鬱寂寞とならざるを得ない。夫の放蕩、傾產、妻の煩悶、自殺、離別等の幾多の悲劇は、實際上斯くの如き家庭に起るが多いものである。

所謂代償月經の本態

——『代償月經』なるもの無し——

月經の不潮或は月經の僅少なる女性に於ては、往々他の體部より月經と同樣に週期的に出血を來すことがある。所謂代償月經 Vikarierende Menstruation と稱せられるもので、之に關する諸學者の實驗報告は可なり尠く無い。例へばフリッケル、フライシユマン、オーベルマイエル、バイゲル等は鼻腔より出血するを見、ウオットソン、フイッセル、セーリグマン等は胃より、フランシー、オット、フオーグト等は肺臓より、ダンラップは齒齦より、ロウ、プチトーは耳より出血するを見ホイシンゲル、フオルトは肛門、膀胱、耳、乳房、胃、鼻より交代性に出血した者を見た。その他、甚だ稀有なるものとしては、バウムガルテンは聲帶及び氣道より、カーレイは甲狀腺より、ガユメイルは眼より出血するのを見たやうなこともある。ピユッヒの蒐集した實例中、胃より出血した者は三十八、乳房より出血した者は二十八、肺より出血した者は二十四、鼻より出血した者は十八人であつた。

従來よりの説明に依れば、月經時の出血は、月經期以前に於ける全身血壓の亢進を減退して、常態に復せしめるものであるから、若し月經が來潮しないか、或は其の量の僅少なる時は、之を代償せんがために、子宮以外の體部より出血を來して、血壓を調整するのであると云つてゐる。此の如き說は今日に至るも、猶ほ一般に信ぜられてゐるやうであるが、併しどうも私等の腑に落ちないのである。その理由の一として、先づ第一に擧げねばならないのは、夙にオットの證明した如く、月經前には體温、新陳代謝の亢進と共に血壓も亢進するものであるが、併し將に月經の起らんとする時、若くは遲くとも月經の初まる頃には、最早や全身の血壓は下降して、直ちに通常の血壓に復するものであるから、月經性出血其者は決して血壓を下降せしめるもので無いことが明かである。從つて月經性出血が月經前に於ける血壓亢進によつて起るもので無く、また其の血壓亢進を下降せしめるものでもない。既にさうであるとすれば、月經不潮者に於て他の體部から出血して、血壓の亢進を調節し下降せしめるがために、代償月經が起るといふが如きは譯の分らぬことになるのである。

抑々月經は卵巢黃體の內分泌作用と密接の關係を有するもので、これはハルバンの實驗的に證明した如く、黃體より分泌する特殊のホルモンが子宮粘膜に作用して、其の充血、腫脹乃至細胞增殖

を喚起し、所謂月經脫落膜を形成せしめるものであるが、然るに黄體は軈て退行變性を來し――卵巣より出た卵子が受胎しない時は――從つて其の內分泌の廢絶するがために、一旦形成せられた月經脫落膜も退化して其の表層部が剝脫し、充血した毛細血管が開放して、その血液が子宮腔內に溢出するやうになる。これが即ち月經である。されば黄體が若し退化せずして、依然其の內分泌を持續する時は、決して月經の起ることは無い。實際上卵巣が正常にして、能くその機能を營むにも拘はらず、月經の來潮せざるが如き者の往々あるのは、蓋し這般の原因に基づくのであらう。それ故、若し果して所謂代償月經なるものが有るとするならば、卵巣其者は健全でありながら、子宮の發育不全或は缺如のために月經の發現すること能はざる結果、他の體部より代償的に出血するものと認めねばならぬ。併し前述の如く、月經性出血なるものは月經前に於ける全身血壓の亢進より起るものでなく、また之を下降せしめるもので無い。月經其者は黄體の內分泌の廢止に因る子宮月經脫落膜の退行變化に續發する出血機轉に外ならない。而して月經前に全身血壓の亢進するのは、畢竟するに黄體內分泌物が血管系に及ぼす影響によつて起るのであるから、既に黄體が退化し、內分泌の廢止と共に、月經が起る時期に至れば、自ら血壓が下降するやうになるので、月經性出血の起るがために血壓が下降するのではない。

此の如く說き來れば、月經不潮者に週期性血壓亢進を減却して常態に復せしむるがために、子宮以外の他部より代償出血を來すと云ふ從來の所說の誤れることは明かである。然らば月經不潮者或は其の量の少い者に往々他部より出血することのあるのは如何なる故かと云ふに、それは其の本人の臟器に何等かの病理的變化があつて、血壓亢進により出血し易い傾向を有つてゐるからであらう。例へば鼻腔或は肺或は胃等より出血するのは、此等の臟器に何等かの異常變化があつて、その血管壁が破綻し易くなつてゐるので、週期的に全身の血壓が亢進すると、それがために血管壁が破れて出血する。それが所謂代償月經と稱せられるのであるが、併し前述の如く、血壓の亢進するのは月經前であつて、月經の將に起らんとする時、或は月經の初めに至れば、最早や血壓は著しく下降してゐるから、他部より出血しても、それは月經前に起るべき道理で、決して月經時に起るべきもので無い。されば「代償月經」といふ名稱の不當無意義なる所以は愈々明かである。また上記の如く豫じめ一二の臟器に病理的變化があつて、其の血管壁の破綻し易い傾向を有つてゐる者ならば、たとひ月經が通常に來潮しても、月經前の血壓亢進によつて子宮以外の他臟器からも出血を來すべき筈である。斯く觀察すれば、月經不潮者に於て子宮以外の體部より出血することのあるのは、決して代償的のもので無く、豫じめ病的變化を有する一二の臟器が、週期的血壓亢進のために出血する

のであつて、月經其者とは何等の關係もない出血機轉に過ぎないのである。

私は上記の見地より從來諸學者の報告した『代償月經』の實例中、殊に信ずべからざる一二のものを擧げて見よう。それは卵巢の摘出後、代償月經の起つたといふ報告で、例へばタウフエルは卵巢摘出後、月經の代りに鼻出血を來した者を見たと云ひ、グレヴエックは卵巢を除去した四十四人の中、二人に於て代償月經を來したのを見たといひ、クアインは卵巢及び子宮共に缺如した三十三歳の女子に、毎月規則正しく鼻より出血するを認めたといつた。併し此等の報告は『代償月經』と看做すに足るべきものでない。卵巢なくして月經の起るべき筈は無く、從つて卵巢の除去せられた者に週期的血壓亢進の起るべき筈もないから、卵巢除去後に所謂『代償月經』の起るといふが如きは、前述の學理上から見ても到底認容すべからざる所說である。近時シッペルも『代償月經なるものあるか』Gibt es eine vikariierende Menstruation? ? Münch. med. Woch. Nr. 52 1921といふ論文を公にし、『代償月經』なる語の不當なる所以を論じて、「他臟器よりする出血は決して月經性出血の代理に非ずして、これとは全く關係なき傷害臟器に於ける獨立機轉である。」といつた。私は茲に從來使用される『代償月經』なる術語を廢せんことを希望する。

女子に於ける性慾と其の變態

(三)

女子に於ける性慾も男子に於けるが如く、生殖腺の作用、「發情帶」の末梢的刺戟及び精神の影響によつて發揚興奮するものである。生殖腺の作用とは、卵巢の內分泌によつて、特殊の化學的物質所謂「ホルモン」が血液中に輸入されて、腦髓に於ける性慾中樞を刺戟するを云ひ、發情帶の末梢刺戟とは、知覺神經に富んだ皮膚及び粘膜、就中、陰部、乳房、臀部、口唇等の機械的刺戟によつて知覺神經が興奮し、其の刺戟を一は直接に腦髓に傳へ、一は脊髓の腰部に在る性中樞に傳へて、之を興奮せしめるを云ひ、精神の影響とは、異性の性的特徵、及び之を一層顯著ならしめる扮裝、修飾等に關する客觀的刺戟、並びに之に附隨關與する諸般の性的觀念によつて、性慾の興奮することである。

女子に於ける發情帶は、陰核、外陰部、膣、乳房及び口唇等であつて、內外兩方面の刺戟により性的興奮を來すものである。其の中、特に記述するの要あるは、月經時及び月經後に性慾が興奮す

ることで、其の原因は主として内部生殖機關の充血のため、局所知覺神經が刺戟せられるにある。然るにリッピングは野蠻民族文化民族の別なく、月經時に於ける女性が性交を嫌忌する事實に據つて、月經時に性慾の興奮しないことを説いたが、併し此の如き見解は全然其の見方を誤つてゐる。蓋し月經時に性交を避け、また之を嫌忌するのは、畢竟衞生的及び審美的動機に出で、月經を不淨汚穢視する思想に基づくので、決して生理的原因から起つたことで無い。月經時に性慾が亢進し、色情の昂まることは夙にハルレルの認めた處であり、また近世に至つて有名なる神經精神病學者クラフト・エビング等も説く處である。またコッスマンは月經の終つた直後、或は月經期の終日に於て、特に性慾が亢盛するといひ、ギユヨーは月經後八日以内を以て、特に性慾の盛んなる時であるとした。それからまた女子に於ては外陰部及び膣の痒疹に基因する瘙痒の感覺によつて、性慾が著しく發揚することがある。口唇も知覺過敏であつて、其の刺戟は容易に性的興奮を惹起する。グアノッリーが二十八人の女性に就いて試驗した處に依るに、單に鑷子を以て機械的に口唇を刺戟しただけでも、十二人の女子は忽ち發情したといふことである。蓋し接吻なるものは熱烈なる愛情を表する目的よりも、寧ろ性慾を發揚し、快感を增進せしめんがために之を行ふものと見る方が生理上の意義に協つてゐる。乳房のことに就いては、既に本誌の九月號に掲載した『乳房と生殖機關』に説い

て置いたから、茲には再說しない。

　女子に於ける生殖腺、即ち卵巢のグラフ氏濾胞及び間質腺より分泌する「ホルモン」が、啻に女子固有の第二次性徵を喚起するのみならず、また性慾をも發動せしめる作用あることは周知の事實である。されば卵巢の發育の不完全なる者、或は之を摘出せられた者は、自ら性慾が沈衰するやうになる。併し性慾は元來腦髓の機能の一であつて、生殖腺其者より起るもので無いから、たとひ卵巢が摘出されても、性慾は必ずしも消失するに限らず、猶は依然として存在することも尠く無い。また先天性及び後天性に卵巢を缺如した者に於ても性慾が發現するのみならず、時としては却つて亢進することの稀有ならざる事實に徵すれば、性慾を發揚せしめる「ホルモン」即ちヤストロウイッツの所謂「發情性物質」Erogener Stoff が單に生殖腺のみに形成せられるものに非ざることが判る。ランツの實驗に徵するに、多數の哺乳動物に就いて其の甲狀腺を除去すると、雌雄共に生殖機能が廢絕し、また人間に於ても甲狀腺の萎縮より起る處の「クレチニスムス」なる疾病に性慾の沈衰を來すことを見れば、甲狀腺よりも「發情性物質」が形成せられるかも知れない。それは先天性に生殖腺の缺乏した者に於ても、性慾が著しく亢進發揚するが如き事實のあるからである。

(四)

女子に於て其の生殖腺たる卵巣が萎縮し、月經が閉止すると共に、生殖機能を失ふのは大抵四十五乃至五十歳の間である。さりながら性慾其者に至つては必ずしも之に伴うて消退するもので無く往々却つて其の亢進を來すが如きことのあるのは、ミユツシー、ベルネル等の記述に徴しても明かであり、また女子が更年期以後に至つても結婚する者の尠く無い事實は、其の性慾が猶ほ依然として渝らない證據である。但し其の一面に於ては、一身上の事情や生活上の關係から結婚する者もあるに違ひないが、併し年若い男子と結婚するが如き老婦人に至つては、一は性慾の關係に出づるものと看做しても決して差支へは無い。ルースが英國愛蘭に於て十箇年に亙つて調査した五十五歳以上の老婦人の結婚統計を見るに、實に左表の如くである。

十七歳以下の男子と結婚せる者	一　人
十七歳乃至二十五歳の男子と結婚せる者	三　人
二十六歳乃至三十五歳の男子と結婚せる者	十二人
三十六歳乃至四十五歳の男子と結婚せる者	十五人

またレーウエンフエルドの記す處に依るに、獨逸ミユンヘン市廳より刊行した年報記事に徴すれば、五十一歳乃至六十歳の老婦の結婚統計は、實に左記の如き割合を示してゐる。

	相手の男子の年齢			
	二五歳	自二六歳至三〇歳	自三一歳至四〇歳	自四一歳至五〇歳
千九百七年	一	一	六	一〇
千九百八年	一	三	八	一〇
自千九百一年至千九百〇七年	五	八	四九	一〇二

是に由つて之を見れば、生殖腺の既に萎縮した老婦に於ても、猶ほ性慾が依然として存在し、且つ結婚する者の尠くないことが明かである。キッシュの説に依れば、四十五歳以上の婦人にして結婚した者の數は、普國に於ては二、五八%、英國に於ては一、三八%、瑞典に於ては一、五三%、愛蘭に於ては〇、三一%である。また英國に於て千八百五十五年の頃、更年期以後の老婦にして結婚した者の數及び年齢に關する統計を見るに左の如くである。

四十六―五十歳	四三五
五十一―五十五歳	二一九
五十六―六十一歳	八九
六十一―六十五歳	二二
六十六―七十歳	七
七十一―七十五歳	三
七十六―八十歳	三

千八百七十二年の頃、ベーメンに於て結婚した老婦人中の最年長者は、實に八十六歳に達したものであつた。(Kisch, Das Geschlechtsleben des Weibes) ベルネルは更年期以後になつても猶ほ性慾が完全に存續する者や、また其の著しく亢進發揚して非自然的方法により之を滿足した如き者を記述した。

先天性に卵巢の缺如した者に於ても往々性慾の存在することは諸學者の認める處で、例へばハウフは生來卵巢を有しない一處女が、非自然的醜行に耽つたことを見、グレヴエッケは子宮及び卵巢の全く缺如した一女子が、能く性交の快を感ずることを記し、クッスマウル等もまた子宮の缺如及び萎縮した者に於て同樣の事實を認めた。加之、生殖腺が缺損したにも拘はらず、性慾が常人に於けるよりも强烈であつた女性も往々見受けられる。コルマンは卵巢及び子宮を缺如し、また膣が狹隘にして性交を遂げることの出來ない一女子の性慾が甚だ强盛であつて、淫亂症の徵を呈し、他に雞姦を行はしめて性慾を滿足せしめた者を報告し、パールスは先天性に子宮及び卵巢の缺如した一女子が性慾に强く、正婚以外の性交をなした者を記述し、ブリッチマンは子宮、卵巢を缺いた者に性慾が强かつたことを見た。

卵巢の摘出後に於ける女子の性慾に就いては、從來諸學者の報告する處未だ全く一致しないが、

其の多くは性慾が變化しないことを認めてゐる。有名なる婦人科學者ヘガールは卵巣摘出後に於て屢々性慾の減少を見たが、而も必ずしも之を來すものに非ざることを説き、シユマールフツスは一回は性慾が減少し、一回は性交を嫌忌し、一回は初めは之を嫌つたが、其の後再び之を好むに至つたことを見、ブルンツエルは四人の中二人は快感の存せることを見た。ブルームの説に依れば、三十三歳に至る以前に於て卵巣を除去された女子には、毫も性慾が減退すること無く、却つて其の二三の者に於て性慾が亢進したことを實驗した。ローソンテート及びバントツクもまた内部生殖機關の全部を除去した女子の中、往々性慾が著しく亢進した者を見たといひ、キツシユは處女時代の際卵巣を摘出された二十六歳の婦人が依然としては性慾を有し、一紳士と結婚して四年を經た後、彼を訪うて果して子を擧げ能ふや否やを質した由を記した。されば私等はアンドレル等と同じく、性慾と生殖機關との間に必至直接の關係なきことを認めるものである。

女性生殖機關の中、知覺の特に鋭敏なのは陰核である。クラフト・エビングの説に依るに、處女に於ては陰核が唯一の發情帶であるが、初めて性交の行はれた後、膣が陰核に代つて最も鋭敏なる發情帶となるのである。蓋し性交以來次第に陰核の發情的意義は減失し、多産婦に至れば殆ど全く消退して了ふ。陰核を手術的に除去すれば快感が減ずることはあるにしても、併し常習手淫の女性に於ては何等の効果も無い。（未完）

半陰陽に關する說話

(一)

男か女か、其の性の疑はしい人間のあることは夙に太古より知られてゐた。人若し『創世記』の記事を假に信ずるとしたならば、人間の祖先たるアダムは、同時に男女の兩性を兼有せる最初の半陰陽者と云ふべきものである。埃及に於ては、月の神は男女の兩性を一身に兼具せるものであり、希臘に於てはヘルメスとアフロディテイとの間に生れたヘルマフロヂッスも男女兩性を兼有せるものであつた。醫語に半陰陽を「ヘルマフロデイテイスム」Hermaphroditismus と云ふのは實に希臘の神話から起つたのである。

而して希臘に於ては旣に太古時代より半陰陽の人間が知られてゐたことは、醫聖ヒッポクラテースの遺書中にも記錄されて居るのを見ても明かであるが、啻に希臘ばかりでなく、埃及、印度に於ても夙に之を知つてゐた。

中世紀時代の頃は、半陰陽を以て神罰のために起つた不祥不吉のものなりと思ひ、當時のあらゆる神學者は不幸なる半陰陽者を世界より除去すべきことを要求した。十七世紀に及んでも猶ほ此樣な考へが存續してゐた。モンテイヌの記した處に依れば、女として結婚した一半陰陽者は、その生殖部を濫用したとの廉で死刑に處

せられたことがある。その他、彼は尼院に入つた一僧尼の半陰陽者であつたことを記したことがあり、またモンタヌスは女子として結婚した半陰陽者が、男女二人の子供を生みながら、一方には其の家の下婢を姦して之を姙孕せしめたことを記述した。猶ほ往古の記錄中には、可なり多く半陰陽に關する奇異の報告が散見する。

近世の知見に依れば、半陰陽は決して稀有なものでは無く、比較的多く認められるもので、例へばプレスラウの婦人科學者フリッチュの云つた如く、平均各年少くとも一回は其の生兒の性の不明なるがために診察を請ひに來る兩親のある程である。

（二）

漢土に於ては、半陰陽を「人痾」或は「二形」或は「半月」といひ、我國に於ては「はにわり」「ふたなり」といふ。「病名彙解」に「本草綱目に云ふ。體男女を兼ぬるを俗に二形と名づく（中略）その類三あり、男にして即ち女、女にして即ち男なるものあり、半月は陽、半月は陰なるものあり、妻なるべくして夫たるべからざるものあり」といひ、「倭名類聚抄」には「内典云、五種不男、其曰二半月一、俗訛云、波爾和利（はにわり）、謂二其體而不一レ男一月三十日、其陰十五日爲レ男、十五日爲レ女、名二半月一也」とあり、「箋註倭名類聚抄」に之を註釋して「按、五種不男、見二法華經安樂行品一、記云、五種不男、生劇妬、變レ半也、半謂二半月一、半月列在二第五一、此所引蓋是、又四分律云、黃門者、妬黃門、變黃門、半月黃門、半月黃門者、半月能男、半不レ能レ男、云々」とあり、「和漢三方圖會」に「五雜俎云、晋惠帝時、京洛有レ人、兼二男女體一、亦能兩用二人道一者、今人謂二之半男女一

(中略)一云、上半月爲レ男、下半月爲レ女、般若經載傳之、又半擇迦是也」とある。

是に由つて之を見れば、半陰陽を「半月」といふのは一ケ月の上半期は男となり、下半期は女となると云ふ傳說に基いたもので、邦語で半陰陽を「はにわり」といふのは漢語の「半月」の訛言であるらしく「類聚名義抄」に「半月、はにわり」と記し、「伊呂波字類抄」にも「半月、はにわり、十五日爲レ男、十五日爲レ女之様也」とある。而してこの「半月」といふ語の出處は佛典であるがまた一に「黃門」といふ名もある。

我國に於ても半陰陽のことは古くから知られてゐたもので、平安朝時代に出でた「類聚三代格」の中に「國不放之人、僨員之人、黃門、奴婢之類云々」とあつて、黃門を擧げてある。(黃門は佛典に記せる半陰陽の名)、また寂蓮法師詞書と傳へらるゝ「異疾草紙」に「都に鼓を首にかけて路次歩く男あり。形は男なれども女の姿に似たることどもありけり。人これをおぼつかながりて、夜寢入りたるに密かに衣をあげて見れば、男女の根共にありけり。これ二形のものなり。」とある。

(三)

成書に記するが如く半陰陽には異假の二種を區別する。前者は一身にして男女兩性の生殖腺を有し、後者は一性の生殖腺を有するも其の外陰が他性の觀を呈せるものである。

異性半陰陽には骨盤內に於て各側に一箇の睾丸及び一箇の卵巢を有するものもあるが、併し此樣な者よりも割合に多いのは、一側に睾丸、他側に卵巢を有するものである。オボロンスキーは右側に睾丸、左側に卵巢を具へた一人の人

間を見たことがある。其の解剖的標本は今に猶ほプラーグ大學の標本室に貯藏されてあるが、之を見ると、右側には睪丸、副睪丸、輸精管、左側には卵巢、輸卵管があり、また一側には子宮と膣、他側には一の攝護腺がある。之と同樣なものはマリア・ドロテア・デルリールといへる眞半陰陽者で、此の者は男性的性慾を有し、陰莖が勃起し、射精する能力を具へてゐたが、死後之を解剖した處、膣と一對の輸卵管を有する一の子宮とを具へ、その右側には一箇の睪丸、左側には一箇の卵巢を有つてゐた。

然るに眞半陰陽者の中には、相離れた兩性生殖腺を體内に有つて居るのでは無くして、一つの生殖腺の中に他性の生殖腺を含有してゐるやうなものがある。即ち卵巢内に睪丸組織を有つてゐるが如きもので、此樣なものを「オヴオテスチス」Ovotestisと稱する。卵巢と睪丸とが一緒にあると云ふ意味である。ノイゲバウエルは數度まで姙娠した婦人に於て其の卵巢内に睪丸組織を證明したことがあるが、實に珍らしい實例である。

前記のマリア・ドロテア・デルリールの他、シュルツエーの記述したホーマンと云ふ者もまた模範的の眞半陰陽者である。此の者は男女兩性の交接機能を有し、其の骨盤と乳房とは全く女性的であり、また小陰唇も能く發育し、定期性月經もあつて男子と性交を營んでゐたが、然るに他の一方に於ては、その體質、音聲、鬚髯共に男子の如く、尿道下破裂を伴へる五仙迷許りの陰莖を有し、右側の陰嚢には睪丸と精系とを具へ、また能く精液を射出して能く婦人と交接したといふことである。

（四）

眞半陰陽よりも屢々實驗せらるゝものは假半陰陽であるが、世の中には睪丸及び規則正しく發育した外陰部の他に、僅かに發育した膣と子宮とを有せる男子があり、また攝護腺を具へてゐる女子もある。此の種類の人間として一時歐洲の學界に汎く知れ亙つた者は、ジョーゼフ・マルッオといへるもので、身體發育期の頃よりあらゆる傾向が男性的徴候を呈してゐたが、ただ精液製造の痕跡が無く、また月經も來潮しなかつた。此の人間は始終男子として生活し、二三回冒險事業に從事したこともあり、加之、二回迄淋病に感染したこともあつた。その體格も立派な男性的で、肩胛部は濶く、多くの鬚髭を發生し、乳房の痕跡も無かつたが、併し四肢は纖麗で、骨盤は可なり廣濶であつた。死後之を解剖した處、六糎迄長さの陰核があり、そして膣、子宮、輸卵管、卵巢、攝護腺を有つてゐた。蓋し女性假半陰陽者たりしことは明かである。

多くの假半陰陽者は常に外陰部構造の異常を有つてゐる。即ち男性假半陰陽に於ては、その陰莖の發育徴にして甚だ小さく、尿道は龜頭の前部に開口せずして陰莖の根部或は會陰に開口し、陰囊は左右癒合せず、その中央部が分裂して漏斗狀物を形成し、睪丸は鼠蹊管或は腹腔內に留止してゐるから、その外陰部の外觀は殆ど女性のそれに酷似してゐる。實際上、此種の假半陰陽は比較的多く實驗せらるゝもので、其の模範的適例の一として茲に擧ぐべきものは、千八百八十四年佛國醫學會に供覽せられたデュリア・デーといへる者である。頭髮は長く、容貌優婉にして乳房は能く發育し、髯毛に乏しく、

一見婦人の外貌を具へ、またその膣口も一見した處では通常であるが、驚くべきはその陰核の甚だ大なることで、其の長徑二十五密迷を算し强く彎曲して、その外觀恰も包皮を有せる龜頭の如くであつた。膣口には毫も處女膜の存在を認めず、膣の長さは九ツオル許りで盲端に終り指を挿入するに子宮頸を觸れず、双合診を行ふに、子宮、卵巢らしきものなく、月經の來潮は一度も無い。之に反して大陰唇内には各側に睪丸らしいものを觸れた。此の人間は未だ曾て男性に對して戀愛の情を起したことは無く、結婚したもの丶少しも性交の快を感じなかつた。この實例は男性假半陰陽の一好例と稱すべきものであるが、猶ほ之に類似するものを擧ぐれば千八百九十三年オイエルモンプレッツの記述した男性假半陰陽で、此の者は常に女性の服裝をなし、その外陰部の狀態は前者に酷似してゐたといふことである。（以下次號）

湯女考

抑も江戸で湯屋の始めて出來たのは慶長年代で、家康入國の時である。曳尾庵の著「我衣」に曰く、風呂屋の初めは御入國の始つ方、諸見附御門御普請の最中、今の常盤橋見附の外へ水茶屋をしつらひたる人あり。勤番の武家方江都洪覽の初めなれば、日々に多くつどひ歩き、また丸の内のことなれば長夜の住居の鬱を晴らさんとて、五人三人打連れて彼の茶屋へ來り、終日茶を喫んで語り合ふ。それより段々酒となりし頃、或一人の侍、久敷湯あみせずして身體不淨、思ふまゝに湯あみしたきものと云へば、何れも然りと云ふ。こゝに於て彼の茶屋工夫をして、己が宿所に風呂を立てゝ諸人を入らせけり。それより髮をすゝぐ女を置きたり云々」と。されば湯屋は水茶屋より起つたもので、その始めは客の髮をすゝぐ爲めに置いた女がいつしか私娼となつたのである。而して之に戯れんが爲め湯屋に赴く者も多く、元祿年代までは風呂屋に

運ふ者は、紫紐の深編笠に長柄の大小、紅裏を散らつかせた。これが即ち丹前姿といはれたもので、それは丹後守の邸前の風呂屋に通つたといふ意味から、丹後守の前を略して丹前といつたのを、其の後派手な姿をすべて丹前姿といふことになつたのである。而して湯女の有様に就いては、三浦淨心の「そゞろ物語」に記載せられてあるから、茲に之を抄出して見よう。曰く「湯女と云ひてなまめける女共二十人三十人ならびて垢をかき髪をすゝぐ。さてまた其の他に容色類ひなく、心ざま優にやさしき女房共、湯よ茶よといひて持ち來り戯れ浮世話をなす。頭を廻らし一度笑へば、百の媚をなして男の心を迷はす。されば之を湯女風呂と名づく。太公望が敵をはかるに利を好むものには財珍を與へて之を迷はし、色を好むものには美女を與へて之を惑はせと敎へしも思ひ知られたり。」と。而して右の如き湯屋は江戸のみならず、大阪の島の内にも現はれた。「南水漫游」には難波雀とて延寶年中出版の小册に湯女のゐた風呂屋十四軒湯屋二十二軒あつたことを擧げ、且つ「元祿の頃には額風呂にも湯女ありて小三と呼ぶ。其の證とするものは元祿年間の册子「風流文車」といふものに、額風呂の湯女小さんが垢する所書きたる圖ありて、小さんは其の頃名高き湯女と見えたり。」と記してあるが、此の小三といふは、戯曲に有名なる「小三金五郎」の小三のことである。「がくの小三は心から、風呂屋の勸め引きかへて、同じ浮身も品かはる、茶屋の山衆の仲間入」と宇治加賀掾院本「難波役者評判」にある通り、彼女は一時は湯女であつたが、其の後島の内の綿屋といへる娼家の妓婦となつた。また同じく戯曲に由つて世に其の名高き「三勝半七」の三勝も大阪島の内の湯女であつた。其の他「心中天網島」で近松巣林子の妙筆に描き出されてゐる小春もまた島の内の湯女であつたが、其の後新地へ移つて娼婦となつたのである。それは「心中天網島」の淨瑠璃文句の中に「南の風呂の浴衣(ゆかた)より今この新地に戀衣(こひごろも)」とあるを見ても明かである。當時元祿の頃の島の内には柳風呂、額風呂等といふ湯女を置いた風呂屋があつて、私娼の巣窟であつたのである。

德川時代に於ける湯女は、明治時代に及んでも尙ほ其の名殘を留めてゐた。明治十二三年頃までは東京の風呂屋には、所謂二階といふものが設けられてあつて、其處に二三人の女を置き、今日の銘酒屋と同じ有樣であつたことは、今尙ほ之を記憶して居る人も少くはないであらう。

幼女の分娩

熱帯國に於ては十乃至十一二歳位で既に姙娠分娩する者があることは、別に珍らしい話でもないが、温帯國に於ては此様な事實は甚だ稀有である。就中十歳未滿にして姙娠分娩するが如きは實に最も稀なことで、カルスは八歳にして姙娠した者を記述し、モリトールは九歳にして葡萄狀鬼胎を産んだ者を見、リユッテルは九歳にして姙娠した者を報告したことがある。吾國近古時代に於ける這般の稀有なる事實に就いて、私の聊か調査したものを左に擧げて見よう。

一、去し癸未の冬、春日井郡六師村の女子六七歳にして孕みけるが、産に及ばずして死にけりと云ふ（『鹽尻』卷の九、寶永年代刊行）

二、永祿七年三月、丹波國に於て七歳の少女子を産む。これ世を擧げて天下の怪異なりといふ。（『筒井記』）

三、文化年中にも、下總國佐倉附近にて七八歳の女子産せることあり。（『松屋筆記』）

四、文化九年、下總國にて八歳の女子男子を生みけり。年代記にも出でける。（『寶歴現來集』）

五、享和九年壬申九月三日、下總國藤代の驛にて、八歳の女子男子を出生しけり。稀代のことなりて遠近中よりさはぎて、菓子やうの

物など携へて行き見るもの多かりき。（『燕居雜話』）

六、文化九年壬申十月十日、御勘定奉行柳生主膳正様へ口達

土屋治三郎使者

大村市之允

拙者在所、下總國相馬郡藤代村百姓三吉厄介忠藏の娘とやと申す八歳に罷成候もの、去月十一日の曉出產之處、男子出生致候につき年頃不相當の儀に候間、具分の者差し遣し、樣子相糺し候處、同人儀、文化二丑年五月一日出生、四歲の頃より經水のめぐり有之候得共全く病氣と心得罷在候。然る所去秋の頃より腸滿の氣味有之（中略）近頃に相成り乳房も色づき愈々懷胎に相違有之間敷、右用意致し罷在候處、去月二日夜中より蟲の氣つき、翌三日曉平產、母子共に丈夫にて乳汁も澤山に有之候由、とや儀は年頃より大柄に相見え候。出生の小兒は並の小兒よりも產髮黑長き方に有之、其他は相替り候義無御座候由云々。（『兎園小說』）

七、下總國相馬郡藤代宿忠藏といふものあり。もとは常陸國筑波郡城中村忠兵衞といふ者の次男にて、先年當所百姓三吉といふものに養はれ、三吉從弟女よのといふものをめあはせたり。忠藏もとより女子あり、名をとやと云ふ。とや四歲の年より月事を見る。（中略）文化九年正月より月事止み、三四月の頃より妊娠の體なり。（中略）月重なるに從ひ胎動などありて、九月二日夜中より腹痛し、甚だ苦痛ありて三日曉男子を產めり。即時乳汁出で養育すといへり。とやは十歲ばかりの姿に見

え、行狀は小女に適ふことなし。乳房は大人の如し。小兒は健やかに見えて生育すべき容體なりといへり。(『一話一話』)

以上に擧げた『松屋筆記』以下の諸隨筆書に記載した幼女分娩のことはいづれも同じ事柄であつて、とやといふ一幼女が年齡四歳の頃から月經を通じ、七歳にして姙娠し、八歳にして分娩したこと及び其の體格の年齡に比して大きかつたことが分る。

幼女の姙娠分娩は性的早熟のためであつて、即ち幼年時代に於て生殖機關の發育を抑制する內分泌腺、松菓腺の病理的變化のため、早くより生殖機關が發育成熟し、從つて第二次性徵も之に伴うて現はれる者、即ち性的早熟の者が姙娠分娩することは、固より不思議な話でない。(本誌創刊號揭載『性的早熟と早夙性發情』參照)

男性同性愛者の心理に就いて

岐阜 T K 生

私は何等學說を有するものではないけれども、或人より露骨にその心理狀態を見たことがあるので、愚見を述べて見たいと思ふ。

抑もその人は或富豪の主人で、五人の子福者であるが、幼少の頃からの異性嫌ひで、先づ先天的とも見られる。思春期に入つて總ての人(殆んど)は異性に對する愛の欲發を見るのに、彼は反對に同性に對する愛の欲發を見た。豊艶な肉體よりも骨太の肉體に遣る瀨ない憧れを持つてゐた。求めんとすれども求め難い愛に煩悶した。まして富豪に生れた身の常に周圍の眼が多くて、尙更に苦惱したのであつた。身體の發育さへ見ろやうになつて、彼はさうした惱みの中から、嫡男に生れた身の早目に妻を娶られねばならなかつた。不自然なる愛に悶えてゐるだけ一層苦惱の激しかつた彼が、止むなく結婚したのは恐らく死ぬやうな思ひであつた。異性に對して更に愛を覺えない身は、只規則的な家庭の人となつたに過ぎない。その結婚は決して彼等夫婦の幸福なるものではなかつた。夫婦の中に極めて必要なる愛が無い。言はゞ歡樂なる虛僞なる

結婚をしたので、夜になつても賣笑婦のやうな一夜妻を聘んだやうな心持でゐたのであつた。これが定まつた自分の妻だと思ふ時には、成程子孫を造る機械位に思つた。終生側に在つて一夜妻とは幾分違ふ所もあるかいなと思つた。時折結婚倫理の反逆者であると思つては遣る瀬無く責任觀念に責められるのであつた。其間五人の子を創造したけれども、それは異性に對する愛の表徴でなくて、只機械的創造したもので、同性を思慕する念は更に變化無く、益々苦惱の募るばかりであつた。會社の重役とか縣市の名譽職にある彼は、常に宴會の席で藝妓の艶めかしい姿を見るのであるけれども、他の人々さ異つて髮の匂ひ、白粉の薫り、燃えるやうな眞紅の長襦袢が却つて煩はしく、出來る限り早く席を外すのを常としてゐた。そして、常に不自然なる愛に煩悶した。

若い頃には自分より年長の苦み走つた男らしい男性を慕つたのが、此頃では却つて色の白い涼しい瞳の美少年がたまらなく可愛くなつてきた。一人の美少年を得た彼は熱烈なる愛を以て、他の人々が新婚當時のやうに、毎日側に居なければ其夜の眠りが出來なかつた程で、少年は毎晩彼の別莊に來るのであつた。現今も引續きその關係を繼續してゐる。そして此頃も會つた時、以前より一層同性に對する愛が昻上してゐるのを知つた。

私は斯うゆふ事實を見て亦其間、私は彼が重役であつた會社に勤務してゐた頃、切ない心を打ち開けて言ひ寄られたことがあるので、露骨にその人の變態なる心理を訊いた私は——かうした心理狀態の人に接する時——世間の多くの人達が一概に卑蔑するやうに無氣に卑しむ者ではなく、不自然なる愛である丈け一層切ないものあるを察して、氣の毒にも思ふのである。まだ他の一人の同性愛者に接したことがある。

これ等同性愛者は矢張り精神的のみの交際ではなく、自然肉體的關係に及ぶものと見做される。

女性が男性に對するやうに同性を愛するのと、男性が女性に對するやうに同性を愛するのさ二種ある。

その肉體的關係の方法が三種に分別される…………

…………………………

…………………………

其他にもあるかも知れないが、私の印象としては是丈である。

……………………。かうした愛に共鳴した熱烈さは矢張り異性に對するものと更に變りがない。

それから、若い時は自分より年長者を慕ひ、年嵩れば反對

に自分より年少者を可愛がるといふことは、異性に對するものと亦變りがない。

私はこれ等に依つて心理的方面から其の本性を見るに、容易に同性愛が治癒し、異性を愛慕するといふやうには決して成れないものと思ふ──凡ての人々が異性に對する愛情を消失せしめ得ざらんやうに。

かうした結果が欺瞞なる虚僞なる結婚が餘儀なく行はれるのを悲しむ者である。

然し人爲的治癒し得ざると思はれる變態性慾者に對して、其の處方箋に於て今具體的の腹案は持合せて居ない。脩適んで多くの人より主として心理的方面より、其の本性の闡明を得て其の後である。

同性愛者J・O生君に呈す

岐阜　T　K　生

君は現在同性の愛に悶え苦しんで居られるのを氣の毒に思ひます。

あの柔和な皮膚、あの媚びるやうな眸、あの紅さした口唇異性よりも寧の濃い、筋肉の引締つた男らしい同性に、世間の多くの人々が異性に對すると同じやうな戀愛を感ずる君はそれ等の人々より以上の苦惱があるのを察します。チラ〳〵と緋縮緬の襦の中に白い脛でも見えやうものなら、靈綿たる情緒に興奮する男を怪しく思ふ程、異性に對する情愛の薄い君は、反對に同性に對して、その男と同じやうな興奮を覺えるでせう。さうした不自然な愛に悶える人は君のみではない。世間には幾人もあらうと思ひます。「一度の望みも叶はないとすれば、一生こんなに苦しまなければなりますまいか。女であつたら、美少年であつたらと思はない時はありません。」といふ悲痛な涙も「不自然」といふ惱の泉からわき出づるのでありませう。

變態なロマンスを想像して望みを叶へたいと肉體的にまで及んでゐると思はれる君の心理を、世間の多くの人達が卑蔑するやうに、無氣に蔑む者ではありません。私は同性愛に對して餘り批判するだけの價値のある思考の所有者でありませんが、兎に角不自然の愛であるだけ、その苦惱の悲痛なるもの有るをお氣の毒にも思ひますけれども、茲に一言謂ひたいのは、先天的？變態性慾の所有者である君が、如何なる事情があるにもせよ、妻を娶られたことを卑暴であると思ひます。『妻はあれ共世の中の男性が妻を愛する程な熱烈な愛も

注がれず、味氣ない家庭の所有者」と自ら告白して居られるやうに、決して幸福な夫婦ではありますまい。君は變態性慾を滿たすべき同性を求めて居られる爲に、世の中の男性が妻に對する程な熱烈な愛は薬にしたくも無いでせう。愛情の無い結婚は破壞します。君の現今の同情愛が異性愛になつて熱烈な愛を妻に與へ得られないならば、これは欺瞞な虚僞な結婚と言はなくてはならないのです。否結婚をしたのでなくて同性の愛が滿たされない代償に、賣笑婦さ假裝をしてゐるやうに思つて居られるさも思へます。罪惡を犯してゐるのではありますまいか。相當修養のある君が斯うした結婚をしたには種々な事情もあらう。君の愛が不自然な者であるだけ、他人に話しもならず、一層切ない心を抱いて結婚をされたかも知れない。然し結婚して二人が不幸に終らうより結婚せずして、何故何等かの方法をとらなかつたか、私はそれを責め度い。

此際冷靜に此後を考へる必要があります。

其處で自己の個性を通して不自然なる愛を求めんさ欲せば必らず夫婦關係の破綻を生ずるは疑ひない。夫婦關係の圓滿を得んと欲せば、遣る瀬無い變態なる心理を放棄して、熱烈なる愛を妻に傾注しなくてはならない。

その何れをさらんかに迷はれるであらう。事は重大である。愼重に考慮の必要有るは私が謂ふまでもない。この岐路に立つて何れをとるかは君の心一つだが、同性の愛の前には夫婦關係は對立の比でないやうな責任觀念の輕々しさを見るさ（私はさう思へた。）一層愼重なる考慮を要するものであります。

是には聊か愚見も持つてゐますが、然しそれは一應君の心理の眞髓を徹底的に訊かなければ申し上げられません。私は重ねて言ひます。妻を有してゐてその妻に熱烈な愛を與へられず、他に不自然な愛を得んと悶えて居られるは許容し難い罪惡であることを。然し私は他の多くの人達のやうにこの君の現在の苦惱を無氣に卑む者では無いことを（九月十三日）

（編輯部より）新年號からは更に面目一新して讀者諸君に見えるつもりです。ところで、まだ早過ざるかも知れませんが、新年號の内容の一部だけを一寸御披露致します。「性の方面より觀たる解放的女性」に於ては、解放的女性の貞操無視に關する學理的考察が拂はれ、「膣痙症（ワギニスムス）」に於ては、新婚女性の最大恐怖が說かれてあります。いづれも長篇でありまして、必ずや讀者諸君に多くの新知識と興味とを與へることと信ずるのであります。その他の諸篇も次號で發表致します。なほ讀者諸君からも性の問題に對する意見や感想を有せられる方は、學究的眞心と眞摯なる態度とを以て御寄稿あらんことを偏へに希望致します。

日本の古文學と「性」(三)

（五）鶺鴒傳説

「日本紀」神代の巻に曰く、

陽神先唱曰二美哉善少女一、遂將二合交一、而不レ知二其術一、時有二鶺鴒一、飛來搖二其首尾一、二神見而學レ之、即得二交道一、

陰陽の二神が鶺鴒の首尾を搖かすのを見て、始めて性交の道を知つたといふ傳説は、此の「日本紀」の記事の如くであるが、併し私等の見る處では、此の傳説は恐らくは吾國固有のもので無く、「アイヌ」の神話が混入して、變形潤飾せられたものらしく思はれる。

ジョン・バチエラーの著「アイヌと其の民族」Ainu and their Folklore の中に記する處に依れば、アイヌは鶺鴒を『情慾の鳥』(オチウチリ Ochiuchiri)と稱し、神が人間を作つた後、此の鳥が人の前に來つて子孫を生殖するに必要なる交接の道を敎へ、その親切なる敎によつて人間は此の世界に繁殖したと信じてゐる。この傳説は「日本紀」に於ける鶺鴒傳説と殆ど揆を一にしたもので、而も之が吾國の傳説より以前にあつたことと思はれるのは、アイヌの傳説に於ては鶺鴒を以て世界の開闢に最も重要なるものとし、神が天地を創造した時、特に一羽の鶺鴒を天上から降して、神の自ら開拓した地に飛び下

らしめ、尾羽を搖かして大地を平坦にせしめたといふことが詳細に說いてあるからで『日本紀』に於ける斷片的記事の如き簡單なものでなく、アイヌの世界創造神話に於ては、鶺鴒は實に重要の位置を占めてゐるのである。それが日本人に傳はり、人間の祖先なる陰陽の二神に、鶺鴒が性交の道を敎へたといふ傳說に變形したのであらう。それが『日本紀』の神代史中に收錄せられるに至つたがため、鶺鴒傳說は人口に膾炙せられるやうになり、千古の女流詩人和泉式部をして、

逢ふことを稻負ふせ鳥の敎へずば
人は戀路に惑はましやは
(和泉式部集)

と詠ましめ、また寂蓮法師をして、

をみなへし多かる野べの庭たゝき
さがなきことを人に敎へそ
(夫木抄)

と詠ましめるやうになつた。稻負ふせ鳥、庭たたき、いづれも鶺鴒の邦語である。

もしほ草(一)

紫さいへる源氏名を貢ひて、幾年かうき濁り江に沈みし女の、年季あけて人妻となりしに、悲慘なる運命は、いづく迄も彼女のあとを追ひて、夫なる人は少しの手違ひより破產し今は見る影もなき陋屋に住まひて、わびしき世を送れるを、往時相知れりける或富人の聞き及びて、ひそかに彼女のもとに文を送り、心を動かさんとせしに、嘗ては川竹の流をくみし女にも似ず、女の道をわきまへたりと見え、直ちに返書を差出して、いたく辱めたりし由、ある人より傳へ聞きぬ。あはれ女の道のすたりのみ行く今の世に、斯かる女もありけるかと、その女の身となりて試みに詠み出でたる歌。

紫のみだれもあらずして

年へし人のつま琴に
うき玉の緒をはしたなく
かけん君とは思ひきや

色なまめける業の
名を買ひたるは昔にて
今はゆかりの色をだに
厭ふおもひを知るや君

身をうき草の根をたえて
水の心も知らなくに
さそふまに／＼委せしは
世をうかれ女の昔ぞや

ながくも汲みし川竹の
ながれを出でゝもとの世の
きよき瀬瀬にかへりては
袖にかけじな仇し涙

まづしき家にとつぎても
心にかざるあやにしき
たつる女のみさほをば
なにひるがへす玉づさぞ

たのみなき世にうらぶれて
見るもいぶせきさむしろに
つゞれの袖はかたしけど
いかで襟をば重ぬべき

こゝろの駒はうかれても
人のつま屋はよけて行け
君よ踏むべき玉ほこの
道は我れだに知るものを（香渓）

もしほ草（二）

今は昔、わが伊丹のある商家に、みめ美しき一人娘あり。さる方より養子を迎へて、一時は琴瑟の契りいと睦まじく、花に眠れる胡蝶の夢、さこしへに醒むべくも見えざりけるが

いかなる故にかありけん、養子なる男、舅姑をうらむことありて、一夜ひそかに養家を出で、武庫の山麓に隠れてまた歸らず、女悲しさ遣らん方なく、男のあとを追はんとせしに、母の遮る處となりて果たさず、泣く〳〵も家に留りて、あけくれ武庫山を望みて夫を慕ひ、わが身の不幸を嘆きて袖に涙の絶えまなく、二年許り經て狂死せし由、此の程或人より傳へ聞きて、同情の念禁ずること能はざるまゝに、その女の身となりて次の如き歌を詠み出でぬ。

君すみませる武庫やまの
　峰にたなびくむら雲に
　　落つる夕日のかげ見れば
　　　やがても濡るゝ袂かな

鳥のみ訪ふ山ざとに
　世をしら雲とくらしても
　　伊丹のかたを望みては
　　　君も我れをや忍ぶらん

猪名野の小笹折りとりて
　嬉れしきふしに數へつゝ
　　千代をちぎりし言の葉は
　　　今猶ほ耳に殘れるを

昆陽(こや)の池べの松かげに
　露おく袖をしぼりつゝ
　　わかれし君のおも影は
　　　猶ほ眼の前にさまよふを

つまと云ふ名はありながら
　君に逢ひ見んよしも無く
　　月日ふる屋のおきふしに
　　　いつまで袖をしぼるらん

うつゝに逢ふは難くとも
　うつし畫だにも賜はらば
　　ちひさき胸に抱きしめて
　　　せめて夢にも語らんに　（香園）

次號豫告

△裸體美術に關する管見（長篇）
△幼兒に於ける「自己發情」に就いて（下）
▽苦悶と性的興奮
▽半陰陽に關する說話（承前）
▽女子に於ける性慾と其の變態（承前）
▽日本の古文學と「性」（四）
▽窃視症の一實例（寄書）
▽變態性慾要說（四）

創刊號內容▽發刊の辭▽性的早熟と早夙性發情▽月經の生物學的意義に關する一疑問▽割禮の遺風と認むべき日本民族の龜頭裸出▽虐待性好淫者ザード侯爵と殺生關白豐臣秀次▽江戸時代に於ける性的犯罪の利▽男性假半陰陽者アレキシナの日記中より▽女嫌ひ▽變態性慾要說（一）

第二號內容▽マソヒスムスに關する說話▽貴婦人墮落の原因考察▽日本に於ける生殖器崇拜の起源及び成立に就いて（上）▽黴毒に傳染したるショーペンハウエル▽墮胎と墮胎專門▽變生男女の話

第三號內容▽女性の生殖機能と犯罪（上）▽自然の防姙作用▽性慾の昇華に就いて▽日本に於ける生殖器崇拜の起源及び成立に就いて（中）▽男娼考▽男女關係の變遷▽變態性慾要說（二）

第四號內容▽女子同性愛に關する說話▽女性の生殖機能と犯罪（下）▽月經不淨觀の原因考察▽醫學上より觀たる獨身生活の利害（上）▽日本に於ける生殖器崇拜の起源及び成立に就いて（下）▽毛髮戀愛——截髮漢▽迷信と猥褻罪▽强姦の鑑定難▽變態性慾要說（三）

第五號內容▽同性愛に關する內分泌の學理に就いて▽先天性生殖腺發育不全▽非自然的性交に因る姙娠▽醫學上より觀たる獨身生活の利害（中）▽女性陰毛の生理▽「サロメ」とザヂスムス▽英國宮廷腐敗史の一節▽日本の古文學と「性」▽乳房と生殖機關▽男子同性愛の一實例

第六號內容▽精液の女體に及ぼす影響▽女子に於ける性慾と其の變態▽醫學上より觀たる獨身生活の利害（下）▽生殖機關の構成及び官能の不調和▽去勢說話▽日本の古文學と「性」

本誌定價表

壹　部（一ヶ月分）	金參拾五錢	稅壹錢
六　部（半ヶ年分）	金貳圓拾錢	稅　共
拾貳部（一ヶ年分）	金四圓拾錢	稅　共

注意
□御註文は總て前金御拂込のこと
□なるべく振替にて御送金のこと
□特別號は定價超過分申受のこと

本誌廣告料

表紙二、三、四面	金五拾圓
普通面一頁	金參拾五圓

大正十一年十月廿日印刷納本
大正十一年十一月一日發行第一卷第七號

編輯發行者　東京市外北品川御殿山七一八　中村古峽
印刷者　東京市芝區南佐久間町二ノ二四　渡邊素一
印刷所　東京市芝區南佐久間町二ノ二四　內外印刷合資會社
發行所　東京市外北品川御殿山七一八　日本精神醫學會
電話高輪一〇四三番
振替東京三一一七七番

大賣捌（東京堂、東海堂、北隆館、參文社、上田屋、至誠堂、盛春堂、共盛社、）

催眠感受性の良好なる
被驗者男女數名募集!!

▽年齡は拾四五歲より廿四五歲まで。
▽苦學生には學資を給與し、其他は希望に應じ相當の待遇を與ふ。勉學時間には差支なし。
▽東京市內及び其の附近の應募者は、日曜を除き、每日午前中に、本人直接(又は父兄同伴)來談のこと。
▽地方遠隔地の應募者は先づ本人の詳細なる履歷書を送りて、本會よりの通知を待たるること。
▽本會會友竝に會員諸君よりの推薦ある方は特に歡迎す。

大正十一年九月

東京品川御殿山七一八
日本精神醫學會
電話高輪一〇四三番

變態心理學實驗所 診療部開始

每日午前八時より正午まで

此度本會實驗所に診療部を開始し

一、精神治療(神經質、神經衰弱、ヒステリイ、諸種の强迫觀念、不眠、不安、疾病苦悶等)
一、精神分析
一、惡癖矯正
一、性格改造
一、精神檢査
一、智能測定
一、性的煩悶解決

等の御要求に應じます。詳細の規定は郵券貳錢封入本會診療部宛にて御問合せありたし。

東京品川御殿山
電話高輪一〇四三番
日本精神醫學會

變態心理

第十卷□十一月號要目□第五號

□緣切寺の話……法學博士 穗積重遠
□狐憑病說（紹介）……ベルツ博士
□臨床瑣談（精神療法）……醫學博士 佐多芳久
□天才教育の提唱（天才研究）……サイディス
□神秘心力（心靈問題）……早大文學士 大戸徹誠
□朝寢坊の觀音樣（宗教叢談）……栗山信次郎
□憂鬱なチエホフ（藝術雜話）……井東憲
□鬼神活躍（傳說口碑）……栗山信次郎
□妾の生活（人間的證劵）……河瀨吾七
□嫉妬妄想の患者例（狂人研究）……佐藤政治
□隨感隨錄……醫學士 森田正馬
□モルヒネ中毒の男（實驗室より）……文學士 中村古峽

每月一回一日發行
定價一部五十錢
郵税壹錢
半年分税共参圓
一年分五圓八十錢

東京品川御殿山
日本精神醫學會
振替東京一一七七番
電話高輪三〇四三番

變態心理學講話集

裝釘美菊版三三〇頁
口繪寫眞二葉入
定價壹圓四十錢
送料八錢

好評噴々＝再版出來!!

（本書內容）

變態心理學概論　文學士　中村古峽

變態心理學に對する一般の誤解—常態と變態との區別—變態心理學の研究範圍—變態心理と潜在意識—變態心理現象の區分—一時的變態心理現象—持續的變態心理現象—變態心理學の任務及び貢獻

精神病の概念　醫學士　森田正馬

緒言—心身の關係—精神障礙—症狀的方面より見たる觀察—原因的方面より見たる觀察—經過、豫後方面より見たる觀察—治療的方面より見たる觀察—疾病の型、性質、本態、種類—精神病の研究法—精神病學の應用範圍—附錄臨床講義—變質性精神異常者—早發性癡呆

犯罪と迷信　文學士　寺田精一

序言—迷信の行はれる範圍—迷信家—犯罪者と迷信—犯罪と關係しての迷信—犯罪の原因としての迷信—犯罪行爲遂行の爲の迷信—犯罪の發覺を防ぐ迷信—犯罪者の日常生活と迷信

不良少年の精神分析　文學士　久保良英

はしがき—心的軋轢—幻影に由る心的軋轢—强迫觀念に由る心的軋轢—容易に分析される軋轢と分析の困難なる軋轢—兩親其他に關係した軋轢—竊盜に終れる心的軋轢—放浪に終れる心的軋轢—他の惡癖に終れる心的軋轢—結論

變態心理と近代文藝　文學士　生田長江

變態といふ語の意義—近代文藝に對する誤解—變態心理と近代文藝との關係

歐洲大戰の心理的側面觀　文學士　上野陽一

平和論者の夢—不可思議に堪へぬ大戰の勃發—ザッキンソン氏の大戰原因論—文明人の發生的觀察—文明國の解放—結論

愛の還俗　文學士　菅原敎造

戀愛の聖化—聖者の性的惡鬪—禁慾の齎らす變態現象—破戒僧尼の群—操の帶—自由戀愛の歌—愛の裁判と愛の法律—愛の共産主義—自由戀愛と禁慾主義—解放—表現—裸體畫の出現—自由戀愛の主張—復讐の恐怖—色情藝術の發生—宗教畫の色情化—色情藝術の推移—ルーベンス、フラマンの色情藝術—レンブラント、和蘭の色情藝術—工藝品としての色情藝術

東京品川御殿山　**日本精神醫學會**　振替東京三一一七番　電話高輪一〇四三番

文學士 中村古峽氏著

變態心理の研究

四六版布裝頗美本
紙數四百八十頁
定價金貳圓五拾錢
送料金十二錢

本書は其の内容の種類に依つて、上中下の三篇に分たる。——

□上篇……には催眠現象・潛在精神・二重人格・透視と念寫・幽靈の出現・狐狸の憑依等、諸種の變態心理現象を一般の讀者にも理解され得るやう極めて丁寧親切に説明す。

□中篇……には著者多年の經驗中から、精神治療に關する實例數種を詳細に報告したるものにて、就中二重人格者に對する諸種の施術法幷に夢の新實驗等は全く著者の創意に屬す。

忽ち七版

□下篇……には精神病者の心理描寫二篇幷に狂人の興味ある手記繪畫二十餘種を收む。

著者の文章は世既に定評あり、讀者は小説を讀むが如き興味のうちに、此の新科學の新智識に通曉することを得べし。

□取次所 東京市外品川御殿山 振替東京三一一七七

日本精神醫學會

變態心理學講義錄

全部完結
四ヶ月卒業
總紙數二千二百頁

我が學界破天荒の試擧!!

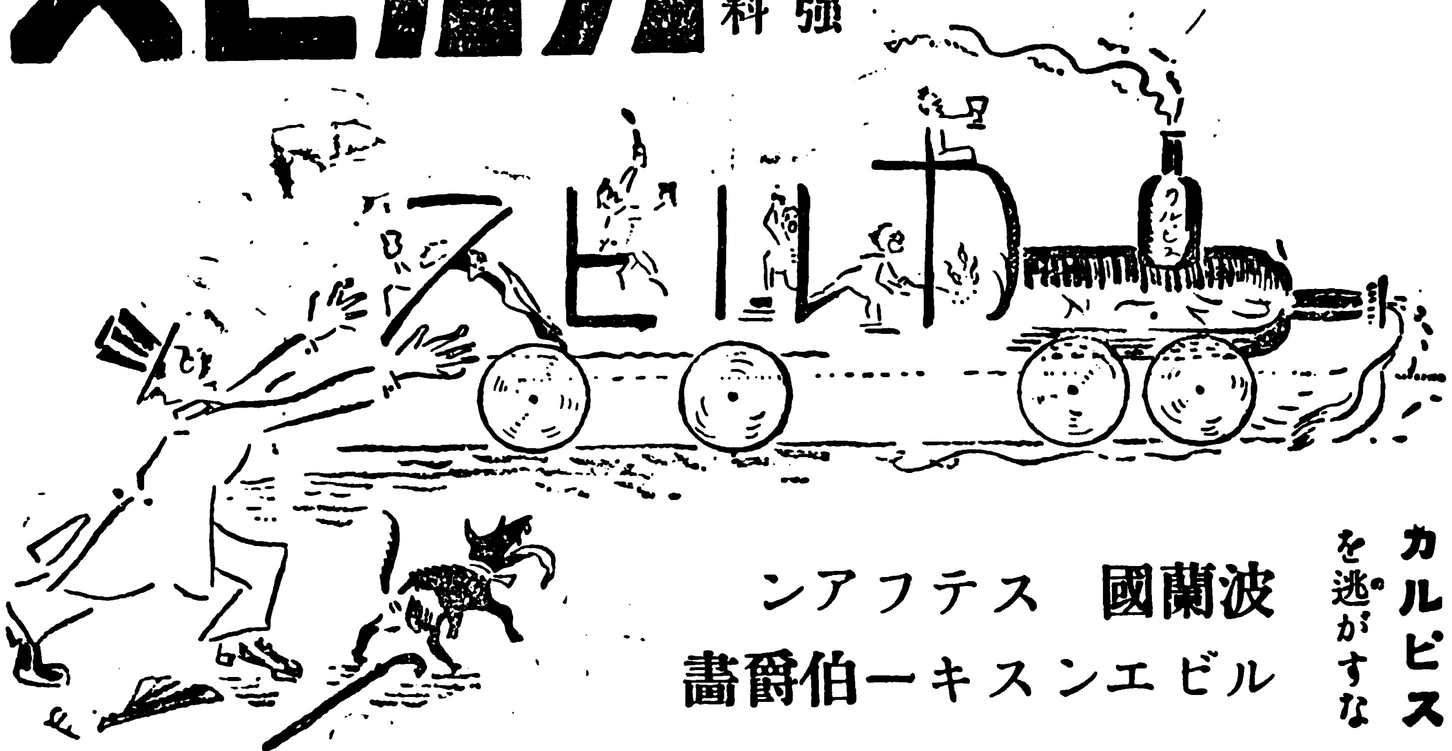
科目は何れも精粹科學の精華
講師は悉く斯界第一流の權威

▽變態心理講義　文學士 中村古峽氏
▽精神療法講義　醫學士 森田正馬氏
▽心靈學講義　文學士 小熊虎之助氏
▽犯罪心理講義　文學士 寺田精一氏
▽群衆心理講義　文學士 葛西又次郎氏
▽催眠術講義　文學士 中村古峽氏
▽臨床催眠術講義　大阪實驗心理研究所主幹 向井章氏
▽變態性慾講義　性之研究主幹 北野博美氏

▽入會者には諸種の特典あり。詳細規定幷見本入用者は往復葉書にて問合せありたし。

申込所　東京品川御殿山　振替東京壹壹五〇壹番　日本變態心理學會

大正十一年四月廿六日第三種郵便物認可　第七號　定價



性之問題研究の最高級雜誌

變態性慾

田中香涯執筆

十二月號

目次

□性的方面より觀たる裸體美術……（三四三）
□幼兒に於ける『自己發情』に就いて……（三六〇）
□女子に於ける性慾と其の變態……（三六四）
□半陰陽に關する說話……（三六九）
□苦悶と性的興奮……（三七四）
□性慾と體毛……（三七八）
□日本の古文學と「性」……（三八二）
□同性窃視症者より（寄書）……（三八三）
□執筆を終へて……（三八四）
□もしほ草……（三七七、三八一）

東京　日本精神醫學會　發行

大正十一年四月廿六日第三種郵便物認可
大正十一年十二月一日發行（每月一回一日發行）

日本變態心理叢書

變態心理主幹 中村古峡監修

變態心理編輯部著

四六判美裝 二七〇頁 送料十七錢 定價壹圓八十錢

第一編

少年不良化の徑路と敎育

好評嘖々再版

本書は、幾多の少年の不良化し、遂には恐るべき犯罪をもなすに至る徑路を觀察し、その如何なる原因に依るかを社會的家庭的、敎育的の種々なる缺陷に究め、更に思想的の遠因をも尋ね、社會的に著名なる數多の實例を引用して、心理的に懇切平易なる說明を加へたるもの。以て國民敎育の徹底に資すべく、世の敎育家、家庭父兄及社會問題硏究家の一讀を望む

内容一斑

不良少年の問題
恐るべき不良少明の犯罪
不良少年の種類と團體
不良少年を生む環境
不良少年の遺傳と素質
不良少年の感化救濟
家庭敎育と不良少年
思想問題としての不良少年

東京品川御殿山 日本精神醫學會 振替東京三一一七七番 電話高輪一〇四三番

文學士 中村古峡氏著

變態心理の研究

四六版布裝頗美本
紙數四百八十頁
定價金貳圓五拾錢
送料金十二錢

本書は其の內容の種類に依つて、上中下の三篇に分たる。——

□上篇……には催眠現象・潛在精神・二重人格・透視と念寫・幽靈の出現・狐狸の憑依等、諸種の變態心理現象を一般の讀者にも理解され得るやう極めて丁寧親切に說明す。

□中篇……には著者多年の經驗中から、精神治療に關する實例數種を詳細に報告したるものにて、就中二重人格者に對する諸種の施術法幷に夢の新實驗等は全く著者の創意に屬す。

□下篇……には精神病者の心理描寫二篇幷に狂人の興味ある手記繪畫二十餘種を收む。

著者の文章は世既に定評あり、讀者は小說を讀むが如き興味のうちに、此の新科學の新智識に通曉することを得べし。

忽ち七版

□取次所 東京市外品川御殿山 振替東京三一一七七

日本精神醫學會

哲學的冥想を加味したる新心理觀察!!

文學士 寺田精一先生新著

惑溺と禁慾

（精巧寫眞版三十餘枚入）

總紙數約五〇〇頁

定價金貳圓八拾錢

送料金拾貳錢

——（目　次　一　斑）——

一、惑溺と殘忍
一、はしがき——二、自己の生存——三、惑溺——四、信仰——五、犠性——六、宗教的自殺——七、悪魔拂ひ——八、宗教的歡樂——九、戀愛と苦痛——一〇、愛の戯れ——一一、愛の爆發——一二、愛の憎み——一三、虐げの强請——一四、結末

二、禁慾と殘忍
一、はしがき——二、空腹——三、貞操帶——四、縫合——五、去勢——六、醜化——七、傷害——八、苦行——九、誹謗——一〇、人肉聖餐——一一、宗教裁判——一二、鞭韃——一三、結末

三、人類の慘虐性
一、兒童と殘忍——二、豪傑と慘虐——三、男女と慘虐——四、嫉妬と慘虐——五、復仇と慘虐——六、憎悪と慘虐——七、冒險慾滿足——八、群衆と慘虐——九、戰陣と慘虐——一〇、革新と慘虐——一一、慘虐の變態

四、食と便と性
一、はしがき——二、懇親と會食——三、會食の恐耻——四、所有の不安——五、儀禮と食事——六、親和と酩酊——七、排泄の警戒——八、便事の羞恥——九、便所の恐怖——一〇、處女の赤面——一一、會食の秘密——一二、獲得の誇示——一三、許容と解放——一四、闇黑放膽——一五結末

五、香に對する執着と憧憬
一、はしがき——二、香氣の愛惜——三、性的の刺激——四、執着の對象——五、性慾的憧憬——六、性慾的耽溺——七、宗教的氣分——八、創作の氣分——九、耽美の享樂——一〇、臭氣の恐怖

六、香と化粧
一、夏季と臭氣——二、臭氣と實感——三、性的の意味——四、身體の臭氣——五、文化と香料——六、民族と香料——七、芳香に惑溺——八、眩惑性の力——九、化粧の芳香

七、文身の興味
一、文身と日本——二、肉體の變形——三、文化と文身——四、衣服と裸體——五、瘡痕の文身——六、塗色の文身——七、刺色の文身——八、傳說と文身——九、社會的標識——一〇、迷信と文身——一一、孤獨の遊戯——一二、性的の衝動——一三、記憶と記念——一四、圖案の奇巧——一五、虛榮と文身——一六、威嚇的意味——一七、文身が財産——一八、文身技工家——一九、繪畫と聯絡——二〇、文身競覽會——二一、境遇と理想——二二、罪人の文身——二三、刑罰と文身

八、熱さと激越性
一、はしがき——二、吾々と熱さ——三、性の慾求——四、性の犯罪——五、傷害罪——六、殺人——七、自殺——八、同盟罷工——九、熱さと刺戟

九、闇黑の力
一、錢湯と闇黑——二、不安の減少——三、羞恥の喪失——四、敢行心昂進——五、罪悪と闇黑——六、お祭と夜間——七、享樂に薄暗——八、宗教的氣分——九、幽靈の出現——一〇、白晝の畏怖

十、綽名と其の滑稽味
一、はしがき——二、命名と綽名——三、作成の動機——四、命名の對象——五、單純な形容——六、聯想の奇警——七、省略の巧妙——八、綽名と用意——九、結果

東京品川御殿山

日本精神醫學會

振替東京三一七七一
電話高輪一〇四三七番



性的方面より觀たる裸體美術

（一）

人體美を最高の美として裸體畫を描き、裸體彫刻を作ることは固より美術家の自由であつて私共の容啄する限りでは無いが、併し飜つて性的方面から裸體美術を觀察する時は多少の管見なきを得ない。殊に社會風敎の點に於て特に其の要あるを感ずる。世人の中には歐州に於ては裸體美術に對する官憲の取締が甚だ寛大であつて、殆ど放任主義の態度を執つて居るもののやうに信じ、我國に於ける取締が頗る苛察に失することを責め、如何にも警察官が審美思想に乏しいもののやうに論じ立てる者も多いが、併し歐州に於ても世人が斯く思惟する程に裸體美術に對して寛大を極めて居るのでは無い。現に近頃佛國から歸朝した私の義弟で、洋畫專門の榊原一廣の話に依るに、佛國の如き美術國に於ても一般世人に對しては裸體畫の取

締がさほど寛大で無く、また美術專門家の中にも、あらゆる裸體美術を普通の世人に公開的に展覽することの社會風敎上大いに顧慮しなければならぬことを論議する者も尠く無いとのことである。(此のことに就いては、いづれ其の詳細を義弟より聽いて次號の本誌に掲げる積りである。)また畏友高田義一郎氏の獨逸からの通信に依つても、瑞西バーゼル博物館美術部に大理石を以て彫まれた裸體美人の立像があるが、全身布を以て包んで公衆に觀覽を許さないさうである。私の見る處を以てするも、裸體美術の展覽に相當の取締を要することは當然の次第と信ずる故、玆に性的方面の觀察を叙說することにした。

(二)

抑々歐米の國民が裸體に對する羞恥の情甚だ強く、公衆の前に於てその肉體を露出することが滅多に無いにも拘はらず、裸體畫や裸體彫刻を大いに珍重し、公然之を見て何等恥づる色の無いのは實に大なる矛盾であるが、併し此の如き風習の由來を穿鑿するならば、別に矛盾でもなく相當の理由の存することを發見する。之に就いて先づ一通り卑見を披瀝し、次いで裸體美術に對する觀察に移らうと思ふ。

元來裸體に對する羞恥感情が決して原始的のもので無いことは、今日に於ても裸體を恥としな

い野蠻民族のあるのを見ても明白である。然らば何故に裸體を恥ぢるやうになつたかと云ふに、それは衣服が發明せられて身體を被覆する慣習となつた結果である。ストラッツの云つた如く、衣服其物の最初の目的は、身體を隱蔽するがために非ずして、却つて裸體を飾るがためであつた。„Der erste ursprüngliche Zweck der Kleidung ist nicht die Bedeckung, sondern die Verzierung des nackten Körpers" 而してこの衣服の前階級物と稱すべきものには二種を區別することが出來る。一は皮膚に色彩を塗り、または文身を施すこと、他の一は陰部及びその周圍の部分を掩ひ、或は裝飾することとであつて、此等が漸次衣服に移行することゝなつたのである。

裸體生活をなした未開の蠻族に於ても、その虛榮心の强いこと、遙かに今日の文明人にも勝つてゐることは夙にスペンサーの說いた處であるが、洪積紀の時代に屬する地層の中から繪具が發掘された事實に徴しても、原始人類が早くから化粧裝飾に勉めてゐたことを知り得られる。クラーチュの說に依れば、原始人類はその身體に彩色したのみならず、また微細なる燧石を以て文身を施したと云ふことである。要するに彩色文身は裸體を裝飾するがためであつて、チエーストの云つた如く、人間が衣服をつけること愈々少き程愈々文身すること多く、衣服を裝ふこと愈々多き程文身することは少い。身體の裝飾品は既に衣服の起る前から作られたもので、衣服其物も

また進化した一の裝飾品に外ならない。リッペルトの說いた如く、吾人は衣服の痕跡だも身に纒はぬ民族あるを知るも、化粧品を缺かなかつた民族あるを知らない。而して身體に彩色を施したり、或は文身を施したりするのは、之によつて異性の注目を惹き、性的結合を求めんとするに外ならぬのである。而して之より進んだものが即ち衣服であつて、つまり衣服は『進化せる裝飾品』Ein entwickelter Schmuck である。

野蠻民族は裸體でありながらも、陰部には前垂を當て、或はその附近の部位（股の如き處）に異珠貝殼を懸垂した帶を裝ふ者が多い。しかし、これは決して羞恥心から起つたのでは無く、却つて異性の眼を惹きつけて、その性慾を挑發する目的に出づること、恰も前記の彩色文身と同じである。ウエスターマークの言つた如く、裸體の蠻人が特にその陰部を掩ふのは、畢竟異性をして陰部に注意せしめるやうに仕向けんがためで、言はゞ一の誘惑的刺戟に外ならぬ。それは恰も女神ヴエヌスの裸體立像が、その一方の手を乳房に當て、他の手を陰部の前に置いて之を隱してゐるがため、却つて此の部分が眼につき易く、刺戟を與へるのと異つた處が無い。『隱蔽せるものは刺戟し誘惑す』„Das Verborgene reizt und lockt" とあるが如く、全然裸體の人間ではその陰部を隱蔽することによつて始めて異性の注目を惹くことが出來るので、裸體其物は何等隱す處がない

から刺戟を與へることが無い。ローマンの説によれば、サリラスの蠻族間に於ては、淫賣婦のみが衣服をつけるとのことで、また亞弗利加内地一土蠻に於ては、未婚の處女のみが陰部を掩ひ、既婚の女子は全く裸體であるとバルトは記してゐるが、これもまた畢竟異性の注目を容易ならしめて、性慾挑發の目的を達せんがためであることは明かである。

此の如く元來は陰部を隱蔽して却つて異性に注目し易からしめる用とした前垂や、或は裝飾帶が、次第に增大せられて遂に衣服に移行したので、衣服の元來の目的は全く性的刺戟であつたのである。就中、「半衣服」Halbkleidung と稱して、特に身體の一定部分だけを隱蔽する衣服は、更に新しい刺戟となつて性的興奮を惹起する。モーゼスは夙に此の事理を知つてゐたものと見え、女性の肉體の中、特に異性の眼につき易い刺戟部分を掩蔽すべきことを命じ、之によつて男子の性慾を唆つて猶太民族の增殖を企てたことがあつた。

さりながら他の一面に於ては、男子の嫉妬的感情が衣服の起源となつたと説く學者もある。ワイツ、シュルッ等が即ちこれで、野蠻民族の中に、ただ結婚した婦人のみ衣服を裝ふが如き者のあるのは、他の男子の攻擊に對する豫防から起つたのであると云ふ。併し衣服の起源は前記の事實が主なるもので、衣服は決して裸體を恥ぢるより起つたのでは無く、却つて性的刺戟の目的に

出でたことは殆ど疑ひない處である。

（三）

然るに衣服を身に纏ふのが一般の慣習となつてからは、遂に身體を暴露することを嫌忌し、之を恥ぢるやうになつた。即ち衣服の習慣が第二の天性となつてから以來、始めて裸體に對する羞恥感情が起つたのである。要するに此の感情はフォーレルの云つた如く、習慣性風俗の傷つけられるのを恐るゝに基くのであるから、文明國民間に於ても其の慣習風俗の如何によつては、あまり裸體を恥ぢない民族もある。古代希臘國民の如きは即ち其の一で、殊にスパルタの女子などは裸體のまゝで、同じく裸體の男子と共に體操や舞踊をして少しも憚らなかつた。また吾が日本人も古來より餘り裸體を恥とせず『夕涼み、よくぞ男に生れたる』などゝ云つて、夏には裸體となるのを何とも思つて居らぬのみか、却つて男に生れた果報の一つ位に心得てゐる。また『樂しさは夕顔棚の下涼み、男はてゝら、女はふたぬして』といふ歌も、男女共に半裸體を意に介しないことを示すものである。然るに歐米の國民に至つては非常に裸體を恥ぢ、人の前で肉體を露出するのを不道德と看做してゐる。これには有力の原因が存するからで、それは何かと云ふに全く基督教の影響に外ならない。人の知るが如く基督教は元來靈を尊び肉を卑しむ宗教であつて、殊に

中世紀時代に於ては此の傾向が特に顯著であつた。ヘッケルが其の名著「宇宙の謎」Die Welträtsel の中に痛論した如く、肉體を以て靈魂の假の宿と看做した結果は、自然に肉體を蔑視し、その清潔養護を等閑に附し、僧院などでは沐浴もせず、異臭を放つた衣服さへ着更へやうともせずして之を放任するが如き有様であつた。また肉體は卑しい性欲を挑發するものとして益々之を賤視し、男女共にその肉體を露出するを不德罪惡として之を禁止するやうになつたのである。固より「プロテスタント」に於ては此の如く甚だしきに至らないが、併し肉を卑しみ靈を偏重する精神に至つては別に異つた處が無い。歐米の國民が裸體を恥ぢる心が著しく強いのは、つまり基督教の感化の然らしめる處である。

此の如き次第であるから、歐米の國民は他人の肉體を殆ど見るに由なく、ただ衣服の上から僅かに其の形を瞥見するに過ぎない。ストラッツは説いて曰く、「近代の歐洲人は生きた女體美に就いては殆ど何等知る處なく、たゞ顏面と手とを見、宴會の際に腕と肩とを見るだけである。」„Der moderne europäische Mensch kennt vom lebenden weiblichen Körper so gut als nichts. Er sieht nur Gesicht und Hände, bei festlichen Gelegenheiten Arme und Schultern." と。此の如く生きた人體の裸體に就いて殆ど何等知る處の無い歐米の國民は、見られぬ程見たいが人間の情であるか

ら、肉體に對する憧憬の情が甚だ強い。『人は見ること愈々少きに從つて愈々空想を逞しうする』Je weniger man sieht, desto mehr ahnet die Phantasie." 裸體畫及び裸體彫刻が歐洲に盛んに行はれてゐるのは、畢竟生きた裸體を見ることの出來ない彼等國民の要求を滿足せんがためである。

古代の希臘人は體格を强健雄壯にせんがために盛んに運動競技を催うし、その立派なる肉體を他に示すを好み、且つ之を誇りとした。希臘古代の美術的作品に裸體彫刻の多いのは蓋し之がためである。また希臘は暖國で、その氣候は同じ緯度の西班牙よりも夏季の頃は甚だ暑いから裸體になり易く、從つて之を何とも思はなかつた。畢竟古代の希臘に於て夙に裸體美術の發達したのは、その國民が筋肉骨格の發育立派なる人體美を愛重したがためであるのと、猶ほ一つには氣候の關係で、裸體を意にしなかつたがためである。然るに近代の歐洲に於ては、前述の如く基督敎の影響によつて肉體を暴露することを不道德とし裸體を卑しんでゐながら、而も實際には裸體畫、裸體彫刻を愛好珍重してゐる。若し人體美を以て最高の美とするならば、寧ろ公然その肉體を露出して他に誇示すべき筈であるのに、一方には依然として裸體を不道德としてゐるのは、古代希臘人の裸體美術を愛重した精神と全く一致してゐない。好んで立派なる肉體を他に示した古代希臘人が、勢ひ裸體美術を愛好するやうになつたのは必要の結果であるが、肉體の裸出を非常の恥と

する近代の歐洲人にして、意外にも裸體美術を喜ぶのは、之を表面上から見れば、いかにも甚だしい矛盾であるが、併しその實は生きた肉體を直接に瞥見する機會の無いがため、裸體美術によつてその好奇心と性的感覺とを滿足してゐるのである。要するに彼等は人體美を以て最高の美であるといふ高尚らしい口實の下に、裸體美術を玩賞してゐるものと看做しても敢て差支へはあるまい。

(四)

美學者や美術家は美の感覺なるものは實感に非ずして假感であると云ひ、裸體畫像は決して實感を惹起するもので無く、若し之を見て肉慾を起したものがありとすれば、その人に美を解する心が無いためであると云つて、觀衆に罪をぬすくりつける。さりながら裸體畫像は第二次性徴を裸出した女體を示したものであるから、それが實感を挑發し肉慾を刺戟することのあるのは當然である。蓋し今日の文明國民に於ては性的機關其物は直接に性的興奮を喚起する刺戟となることが少いが、之に反して第二次性徴に屬する男女の容貌姿態は異性を牽引誘惑する主要の刺戟となつてゐる。歐洲人に於ては乳房の發育善く、骨盤廣く、臀部の後方に聳出した豐腴圓滿なる女性を好み、之を美の標準となすことは周知の事實である。ストラッツの著『女體の美』Ueber die

Schönheit des weiblichen Körpers に於て、女體美の型式を擧げたものゝ中、その若干を擧げれば、圓滿なる體形、乳房、廣濶なる骨盤、圓い肩、圓くして肥えた大腿、低くして鈍なる恥骨弓等がある。また以て歐洲に於ける美人の標準が、如何に女性に於ける第二次性徴を基礎とするの著しいかを知り得られる。されば花顏柳腰肉附善く、雪よりも白い肌膚の美人を眞つ裸にして、いやと云ふ程第二次性徴を暴露した裸體畫像が、平素生きた女の肉體を見たことの無い者に實感を起さしめ、性慾を興奮せしむることは當然である。雲か花かの吉野山、月影淸き須磨の浦の景色とか云ふやうな自然美ならば單に假感を起すだけであるが、豐膩圓滿なる女性の肉體を暴露して、所謂曲線美を發揮した裸體美術が肉慾を挑發することは、女神ヴヱヌスの裸體立像に戀して、非自然的行爲を營むピグマリオニストが歐洲に多い事實に徵しても明かである。

人體美、假象美、曲線美とか云ふ名目の下にものせられる裸體美術にして、單に假感を起さしめるのが其の目的であるとすれば、寧ろ雄渾莊嚴なる男性の裸像を主とすべき筈である。然るに好んで纖弱艶麗一笑百媚の女性を選んで其の材料とするのは何故か、問はずとも其の目的は明かである。美術家は藝術のための藝術 Art for art などゝ高尙らしいことを言ふが、美人が眞つ裸になつて肉附の良い太股を現はしたり、甚だしきは仰臥して大の字になり、白魚のやうな纖指を

股の間に挿入してゐるが如き裸體畫像や、また一人の女だけでは喰ひ足らぬとあつて、若い男女が眞つ裸で抱き合つたり、接吻したりする裸體美術は、如何に見ても實感肉慾を挑發するがために作られたものとしか思はれない。よしや一歩を讓つて、之を作つた美術家には何等の邪念もなく、所謂藝術のための藝術として作製したものとしても、之を觀覽する一般世人の眼には如何に映ずるか。ロダンの『接吻』Kuss や、シンヂングの『二人』Zwei Menschen などは、美術家に言はせると有名なる傑作とのことであるが、之を社會風敎上より見れば、慥かに風俗壞亂的作品である。

回顧すれば千八百九十五年に開催された伯林美術大博覽會の展覽美術に對し、セバスチアン・ブラントは其の甚だ淫猥にして公衆を誘惑するの度實に大なることを痛論した。殊に同博覽會第四十室に展覽した作品の最も甚だしきことを示摘し、同室をば靑樓の部屋に比較した。此の室の中には次の如き裸體畫が公然揭げられてあつた。ブールゴンニエーの作『アントニウスの試み』Die Versuchung des Antonius は眞つ裸の一人の女が、さも媚しい眼つきをして、手と足とをアントニウスに捲きつけ、フオータン・ラツールの作『浴するサラー』Die badende Sarah は湯から上る前に其の肉體を搖盪する女の有樣を描き、チユリアン・ストリーの作『ニンフとサチール』

Nymph und Satyr ハングス・ユーベルスタインの作『ラルゲットー・アモルゼー』Larghetto amorose は、共に二人の男女が眞つ裸で抱き合つてゐる痴態を描き、ド・ケスヌの作『野川』Der Wildbach は三十米突の長さの麻布に眞つ裸の二人の婦人を甚だしく露骨的に描き、レオン・フレデリックの作『小川のつぶやき』Murmeln des Baches は百人あまりの男女の裸體をば、最も誇張した肉的情調を以て陰部までをも精細に描寫したものであつた。

（五）

美學者の說に依れば『美感が他の感覺と異る處は、それが實感に非ずして假感なることである。感覺には慾望の伴ふものであるが、美感には決して慾望の闖入するを許さぬ。慾望を伴ふ感覺は如何なる場合に於ても美感たることが出來ぬ。例へば女が三越か白木の吳服店に行くとする。その立派な模樣や縞柄を見て、あゝ實に美しいあの小紋を二枚重ねにして、あの繻珍をしめたいと、こんな慾望を一寸でも起すなら、彼の女の美感といふものは忽ちにして亡びて了ふ。』（『人體美論』第三章の一節）と。しかし、吾人が美を見て之を美しいと感ずるのは、實際上その背後に慾望功利の念の潜在するに由ることは、內省的經驗上疑ふべからざる處で、這般の點に就いては夙に佛國のギヨーも論じた。尤も美感の中には恍として自我を忘れ現實を離れる者のあることは事

實である。霞に匂ふ萬朶の花を賞し、露の玉しく秋の野に明月を仰ぐ時などは、何とも名狀し難い一種の美感に打たれて身も世もうち忘れ、物外に超然たるの思ひがある。併しまた功利慾望の念を喚起する美感も尠く無い。暗香馥郁たる梅花の木蔭に佇めば一枝を手折らんとするの慾念が起り、山青く水清き里に至れば之に住まんとする希望が起ることは人情である。此の如く自然美に對する美感の中にも慾望功利の存在することを認める以上は、まして肉體美に對する美感には實感肉情の起ることをも肯定しなければならない。花恥しい美人の像を見て、その美を覺えるのは、ただ美しいと云ふ單純の美感ばかりで無く、その背後にはおぼろげながらも官能的快感が隨伴してゐるからである。越路の雪よりも白い肌膚を美であると見る心の中には、之に觸れる快感が少くともその要素をなしてゐる。男子が女性美を賞し、女子が男性美を愛するのは、何と云つても性的快感がその根抵をなしてゐることは明かである。されば一派の美學者が美感を以て『無關心の興味』Interesselos Interesse と云ふが如きは、あまりに美感を高尙視した誇張の說であつて、人間の本能を閑却藐視したものと謂はざるを得ない。

『太平記』に高師直が鹽谷高貞の夫人の美色を一瞥した時の狀を記して『垣の隙より闚へば只今此の女房湯より上るとおぼえて、紅梅の色ことなるに、氷の如くなる練り貫きの小袖のしほ〳〵

とあるをかい取りて濡れ髮の行くへ長くかゝりたるを、袖の下にたきすさめたる、空だきの煙り匂ふばかりに殘りて、其の人はいづくにか有るらんと、心たゞ〳〵しく成りぬれば、巫女廟の花は夢の中に殘り、昭君村の柳は雨の外に疎なる心地して、師直物の怪のつきたるやうにわさ〳〵震ひゐたり」とあり、また嵯峨の家主人作の『初戀』にも『自分は娘の下を向いて、折り物に氣を取られてゐる間、その雪のやうな白い頸、そのつや〳〵とした黒髮、その細い愛らしい奇麗な指、その美しい花のやうな姿に見とれ、その袖の移り香にうたれて何も彼も忘れてしまひ、ただウットリして嬉れしさの餘り手を叩きたい程であつた。』とある。此のやうな心持を以て果して『無關心』と云はれようか。女の肉體の美はしい姿に恍惚として自我を忘れてしまふ程になるのは、畢竟之に觸接する時の性的快感が無意識の裡に想起せられるがためである。今を盛りと咲き匂へる無心の花を見てさへ、之を折らんとする心の起るのが人間の主情である。一の事物を見て美であるとする心の根抵には、吾人の要求に合する點があるからで、猫に小判といふ譬のあるが如く、吾人の要求に適しないもの、慾望に合せないものは、美的感興を惹起するものでない。優美なる詩を吟じて甚深の感興を覺えるのも、その詩に現はれた情緒、動作、趣味等を味うて、その實際を想像し、一種の快感を惹起するからである。

されば美感なるものは、實在實感より離れた假想假感の狀態にあるものとは云へない。美感の內容をなすものは、吾人が興味を有し慾望に合するもので、美を觀賞する心の中には、その對境に應じて一定の感覺、情緒、慾望の浮び來るものである。名畫を賞美する心は、固より之を要求獲得せんとする慾望と同じでは無いが、而も此の慾望と密接の關係あることを否定し得られない。花を見て之を美しく感ずるのも、其の赤や紫等の色が精神を興奮せしめて一種の快感を催起せしめるからであり、月を仰いでその清光を賞するのも、靑色に近い光が精神を鎭靜して、平和の感を與へるからである。自然界の美にして猶ほ此の如しとせば、まして人體美の憧憬せられるのは、その根抵に於て强力なる性的快感が存在するためである。されば『美感には慾望の闖入するを許さぬ」とか「慾望を伴ふ感覺は美感ではない」とか云ふのは、高尙らしい說のやうで、其の實は空論である。三越、高島屋の店頭に陳列してある吳服物を見て美しいと思ふ女の心の底には、之を欲する心が存するからで、その要求に適し慾望に合すればこそ美感が起るのである。

(六)

生物學上、誰も知るが如く、動物の雌雄がその形態、色彩等にそれぞれ特殊の美を具へてゐるのは、之によつて異性相互の注目を惹き、戀情を喚起するがためである。人間に於ても同樣で、

男女兩性の肉體に於ける特殊の美觀は所謂『第二次性徵』と稱せられて性慾を發動する要素となつてゐる。男女が相愛するに先づ容貌姿容を以てするのは全く固有の性的本能の然らしめる處で、道學先生が之を痴情と嘲つても、美しい者を愛するのは自然の動向であるから致方がない。而して男女がそれ〴〵特殊の肉體美、即ち第二次性徵を有つてゐるのは、要するに兩性をして各自其の缺く處を滿たさしめ、性的結合を遂げささんとする自然の妙能に出でたものである。人間は何ごとに由らず、その缺乏する所を求めんとするものであるから、性的關係に於ても、その一方に缺けてゐる所を他の一方によつて補はんとし、男子は自身に缺けてゐる優婉溫雅なる女性美を求め、女子は雄偉莊嚴なる男性美を求めて、こゝに性的結合が成立するのである。

是に由つて之を見れば、肉體美に對する美感が性的慾望を要約としてゐることは少しも疑が無い。既に然りとせば、肉體の美感が決して無關心のものに非ずして、實感を隨伴することは自明の理でなければならぬ。自然界に對する美感の中には無關心のものもあるが、人體美の美感にあつては決して假感でなく必ず多少なりとも實感が之に伴ふものである。人體美を描寫した裸體美術の愛玩せられるのは、如何に一派の美術家が高尙らしい說を唱へても、その根柢に實感肉情が潛み、性的快感を惹起するに由ることは明かである。

されば裸體美術を取締ることは社會の風敎上固より必要であつて、たとひ其の作品が美術專門家の眼から見て傑作逸品のものであつても、實感を惹起し易い第二次性欲を精巧に且つ露骨に描いて眞に迫るものは、一般公衆の觀覽に供すべきもので無い。殊に美術の名を籍りて其の實人心の弱點に投じ、性欲を挑發せんとするが如くものに對しては、斷じて撤廢嚴禁しなければならない。私共は固より今日の官憲、就中、警察官等が審美思想に乏しく、偏固頑冥なる見解を以て藝術上の作品に不法の壓迫的干渉を加へるが如き弊風あることを嘆ずる一人であるが、併し私共の眼から見ても、純粹の藝術的作品とは云ひながら、裸體美術に對しては社會風敎のことをも念頭に置いて、相當の監視と取締をなすことの要ある所以を切實に感ずるものである。

幼兒に於ける『自己發情』に就いて(下)

哺乳兒に行はれる手淫の中には遺傳に基づくものもある。蓋しオッペンハイムの說いた如く、常習手淫は往々遺傳せられるもので、之を證明すべき實例と看做すべきは、ブロックの記述した一處女である。此の女は既に二歲の頃から手淫を始めたが、その母は殆ど一生を通じて手淫を嗜み、また祖母は所謂『手淫性精神病』Masturbatorisches Irresein に罹つて癲狂院に收容せられた程であるから、其の遺傳によつて夙に哺乳兒の頃から手淫癖が現はれたのである。さればイワン・ブロッホは哺乳兒手淫の多數は此のやうな遺傳に基づくものであらうと言つた。私もまた這般の事實あるべきことを肯定する。要するに哺乳兒に於て自發的に起る手淫は變態現象であつて、其の大部分は病的素質に基因するものと認めねばならぬ。但し三歲以上の幼兒に至れば、他人の誘惑或は暗示によつて手淫を行ふやうになるのは固より疑ふべくも無い。

肛門色情 Analerotik に於てもまた同樣である。肛門が『催情帶』の一なることは疑ひない處であるが、併し脫糞の際、性交時に於けると同樣乃至それ以上の快感を覺え、勉めて糞便を抑留

して之を硬固ならしめ、脫糞時に於ける肛門刺戟の度を强くするが如きものは、僅かに變態現象である。ブロイレルの實驗した一女性は、幼兒の頃から八日までも糞便を抑留して快感を增進するに努め、また他の一女子は既に生後十八月の頃より脫糞時の快感を貪ばると共に手淫をも行つたと云ふことであるが、併し此の如き者はいづれも精神病的體質のものと看做さねばならぬ。普通健全の人間に於て肛門色情の甚だ稀なることは、レーウエンフエルドの說に徵しても明かである。變態的の人間に於ては、性交よりも鷄姦せらるることによつて多大の快感を催起するが如き者のあることは固より爭ふべからざる事實で、エリスの記した處に依れば、直腸を膣として刺戟して快感を覺え、屢々鷄姦を行はしめた婦人があつたと云ひ、またルースは七十歲以上の老婦にして、脫糞の際著しい性的興奮を來し手淫を行ふの已むなきに至つた者を記述したことがある。幼兒に於ける肛門發情もまた之と其の性質を一にするもので、健全なる兒童に之を見るが如きは全然異例破格である。

サドガーは上記の肛門色情の外に『尿道色情』Urethralerotik の存することを說き、幼兒が排尿の際快感を覺えて、陰莖の勃起を伴ふが如き事實を記述したが、これまた通常健全の兒童には頗る稀有なる現象である。尤も尿道を催情帶の一として之に硝子棒等を出入し、快感を貪ばるが

如き者のあることは、私共の夙に認める處であるが、併し排尿によつて性的興奮を來すやうな事實は、健全なる人間に於ては殆ど認められない。

フロイドは乳兒が搖籃の律動的震盪によつて性的快感を催起し、自家發情を來すことを說いたが、併しフユールブリンゲルの言つた如く、搖籃の震動は單に乳兒に愉快なる感覺を與へる迄であつて、自家發情を喚起すべき性質のもので無い。それは恰も吾人が汽車の震動によつて一種の心地よき感覺となり、睡眠するに至るのと何等異つたことは無い。

是を要するに幼兒に於ては外觀上自己發情らしく見える種々の現象はあつても、併しフロイド等の說くが如くに性的範圍に屬すべき快感と看做すべきもので無く、また小兒の發育過程に於ける自然の順序でも無く、畢竟外界の影響、病的狀態、誘惑、濫用等に起因する現象に外ならない。尤も幼兒時代から性慾の早發することのあるのは疑ひない事實であるから、此の如き早熟兒童に於ては、手淫及び肛門尿道の刺戟等によつて性的快感を貪ぼり、自己發情を來すに違ひないが、併しそれは固より病的素質に基因する變態現象であつて、フロイド等の言ふが如くに殆どすべての幼兒に認め得べき普遍的現象では無いのである。

性慾が既に幼年時代に萠芽を發生することは固より何人も是認する處であるけれども、併しフ

ロイド一派の説くが如くに幼兒の一擧一動が多く性慾と關係を有つてゐると論定するのは、全然揣摩獨斷的の見方である。乳兒の陰莖が往々勃起するのを見て直ちにそれを性慾の所爲となし、乳兒の如何にも心地よげに母乳を吸吮するの狀を見て性的快感を覺えるものとなし、また自ら其の陰莖を撫摩するを見て大人の手淫と同一視するが如き、私共より之を觀れば全く大人の心を以て幼兒の行爲を揣摩したもので、所謂類似推理の方法を誤つたものである。スタンレー・ホールがフロイドの兒童心理を評して大人の心理を分析した結果から作り上げたものであると云つたのは實に適評である。また神經病的精神病的兒童に於ける變態現象をば、一般の兒童の上にも移して、手淫、肛門色情等が孩兒時代から殆ど多數の兒童に行はれることを説き、自己發情が幼兒に通有なるが如くに斷定するが如きも、全く其の見方を誤つたものと謂はねばならぬ。

女子に於ける性慾と其の變態

（五）

通常年若い未通女に於ては、その性慾は猶ほ大腦の皮質內に眠つてゐるが、併し生殖機關或は其の他の催情帶の末梢刺戟により、若しくは色情に關する精神的印象によつて腦中樞が刺戟せられる時は、始めて醒覺し、性的感覺、觀念、及び行動として發現する。されど若し腦皮質が性的感覺及び觀念の發生地として働かず、或は生殖機關の解剖的若しくは生理的機轉に異常があつて、末梢刺戟を感覺せず、或は腦から生殖機關に達する神經行路に異常あるが如き場合には、性的感覺、觀念乃至行動が現はれない。此の如き異常は先天性に起ることもあれば、また後天性に生ずることもある。若し性慾が全く缺如する時は之を性的無感覺 Anaesthesia sexualis と稱する。女子に於ては、先天性に性的無感覺の者、男子に比して遙かに多く、グートッアイトは女子の四十%、スタイエルタールは少くとも五十%、チブルンネルは五十%以上、マルガルーテー、ケムニッツは六十%を算した。此等の數字には固より多少の割引を要するにしても、身體及び精神が共に普通なる女子でありながら、獨り性慾のみが先天性に缺乏する者が比較的に多く看出されることは

疑ひない處で、オイレンブルグの所謂「精神的性的小兒症」Psychosexualer Infantilismus 即ち身心は完全に發育しても、たゞ性慾に關する精神作用のみが毫も發育せずして小兒の狀態に留つてゐるが如き先天的性慾異常は、實際上男子に見ることは頗る稀有である。男子に於ける先天的性慾缺乏は精神及び神經系に於ける異常と併發するもので、一種の變質徵候と看做すべきものであるが、之に反して、女子に於ては全く精神及び神經系の異常がないにも拘はらず、性慾の缺乏する者が尠くないのである。また性慾は全く缺乏しないが、その發育が甚だ微弱であつて、所謂『性的冷淡」Sexuell kalte Natur, Frigidität と稱せられるものも先天性に發生することがある。此の如き女性に於ては通常の刺戟によつては毫も性的興奮を來すことなく、またその滿足を要求することも無い。たゞ強度の刺戟によつて不充分ながらも之を喚起するに過ぎない。

後天的に來る處の性慾の缺乏及び減退の原因は種々であつて、生理的には更年期に達した後色情の減退することは周知の事實であるが、併しまた敎育、生活法、境遇等が性慾に大なる影響を及ぼすことは固より論を俟たない。殊に精神の過勞、眞面目なる研究、身體の勞役及び房事廢止等は性慾の減退を來すものである。但し房事の廢止は初めは性慾を亢進することもあるが、時日を經過すると共に生殖機關の官能の減退する結果、色情も之に伴うて減却する。而して性慾の缺

乏及び微弱を惹起する末梢的原因は、生殖腺の變化、摘出、房事過度、酒精中毒等で、同時に色情の消失を來すものは、全身營養疾患（糖尿病、モルヒネ中毒等）の場合に認められる。また神經傳達行路及び生殖脊髓中樞の變化から起る性慾の減退は、腦及び脊髓病患者に見る處で、機質的には腦皮質の疾患（老年期に於ける麻痺性痴呆）、官能的にはヒステリー及び種々の精神病（鬱憂病、ヒポコンドリー等）に起因することが多い。女子に於てはその性慾が缺乏し或は微弱であつても、外觀上容易に之を發見することの出來ないのと、また先天性に性慾の缺乏した女子は、イワン・ブロッホの述べた如く自然に温順で、色氣づいた青春の女性に見受けるやうな蓮葉、アバヅレの點の無い處から、却つて男子の注目を惹き、小心貞淑の女性と信ぜられて結婚を申し込まれることが實際上多く、從つて性慾に強い女子よりも結婚することが多い。併しその情交に冷淡であるがため、男子は非常に失望して愛情が次第に薄らぐ結果、家庭外に愛の滿足を求め或は離婚沙汰に及ぶやうになる。但し他の一面に於てはレーウエンフエルドやブロッホの說いた如く、性的に冷淡なる女子の中にも、その夫に對して努めて情交に興味を有せざる先天的の缺陷を隱蔽せんとする者も無いでは無い。此の如き者は其の夫をして多少滿足せしめることは出來るにしても、併しまた情交に對する冷淡と無頓着とを少しも掩ひ隱さぬ者も尠く無いから、之がため夫婦間に

愛情が成立せず、軈て破鏡の不幸を見るに至るのである。性慾は通常でありまたは人並以上に强くても、性交の際毫も快感を覺えない女性がある。所謂「ヂスパロイニー」Dyspareunie と稱せられる一種の性的異常で、之に就いては前號に說いて置いたから玆に再說しない。

上述のものに反して、性慾の異常に强烈なる女性がある。生理的には月經の閉止する更年期に往々性慾が異常に亢進することもあり、また病理的には陰部の濕疹、痒疹等の皮膚病に基因する瘙痒感覺から性慾が發揚興奮することもあるが、併し性慾が强盛にして一人の男子のみを守ることが出來ず、數多の男子に關係して、淫蕩なる生活を享樂し、貞操の觀念に缺如した女性の多くは、精神變質症(精神病的體質)と認むべき者である。その甚だしきものに至つては、些少の刺戟によつても直ちに性慾が興奮して衝動的に卑猥なる行動をなし、道德的及び審美的感覺は消失して恥部を暴露するも意となさず、男子を一見すれば忽ち劇烈なる性的興奮を惹起して之を誘誑せんとし、若しその性慾を滿足することが出來なければ、人目をも憚らず非自然的行爲を演ずるが如き者がある。此の如きものは明かに狂者の部類であつて、躁病、癲癇、「ヒステリー」、重症なる神經衰弱等に起因するものである。(「ニンフオマニー」Nymphomanie 女性淫亂症)

ヒステリーの女性に於ては性慾が減退することもあるが、またそれが俄かに亢進發揚して交接を幻覺し或は淫夢を結ぶことも稀でない。而してその幻覺し或は夢に見た男子に姦淫せられたとて强姦の告訴を提起することもまた尠く無い。ヒステリー性女子の中、性慾が病的に亢盛した者

は往々突飛なる行動を演ずるもので、ロンブロソーの記する處に依れば、富豪の娘でありながら偶々途上に遭遇した勞働者を挑んで之と情交を結び、此の醜行を恥し氣もなく家族に語つた者もあり、また自分の夫に黴毒を感染せしめんとて、同病に罹つた男子を探し廻つた者もある。またシユーレーの說に依れば新婚旅行中宿泊した旅館のボーイと驅落する者も稀でないさうである。

精神變質症の女性の中には、性慾が倒錯し手淫のみによつて之を滿足する者がある。トロツグレルの記述した二十歲の一婦人は十三歲から手淫に耽り、結婚後も單に性交のみでは性慾を滿足することが出來ず、性交中にも自ら手淫を行つた。此の婦人を檢査した處が、陰核は著しく肥大潮紅し、膣は弛緩し白帶下のあつた他には左程の異常を認めなかつた。併し茲に興味ある事實は、生殖機關の發育頗る不完全なる女性に手淫を嗜む者の往々實驗せらるることである。クツスマウルは子宮及び其の他の生殖機關の發育不全と手淫との關係を擧示し、カムペルは一回も月經來潮せず、生殖機關の發育不全にして、而も卵巢囊腫を患つた一女子の手淫に耽つた實例を記述し、アランも手淫を嗜む妙齡の一婦人に於て、子宮及び輸卵管の發育の不完全なることを見た。女子に於ける性慾倒錯には、手淫の他、同性愛、「ザヂスムス」（虐待性淫亂症）、「マソヒスムス」（被虐待性淫亂症）、及び「フエチシスムス」（節片性淫亂症）等あるが、併し男子に比すれば槪して稀である。而して此の倒錯した性慾は往々發作的に現はれ、就中月經時に起ることがある。

（附言）女子に於ける變態性慾の種類及び之に關する詳細の論述は改めて新年號から「女子の性慾倒錯」と題して連載することにしたから、本篇はこれで擱筆する。

半陰陽に關する說話

（五）

假性半陰陽者が自ら男子或は女子であると信じきつて結婚をなし、その性交不能なるがため離婚訴訟の提起せらるることがある。ドールは次の如き一實例を報告した。それは二十八歲の人で夙に處女として敎育せられ、或る男の許に嫁したが、二三日の後その夫は性交不能の理由の下に離婚訴訟を提起した。そこで本人を檢查した處、その陰核は恰も小兒の陰莖の如く、大陰唇には萎縮した睾丸と精系とがあり、直腸から內診するに、子宮、卵巢を觸れず、顏貌は女子の如きも、その體格は强勁であり、乳房は扁平であつて、全く男性假半陰陽なることが判つた。さりながらまた此の如き半陰陽者にして終生偕老の契りを全うした者もある。タルチュの著書に記載したマリア・マルサノーは八十四歲の高齡を保ち永年その夫に連れ添うたが、死後之を解剖して男子たることが判明した。

また半陰陽者が姦淫猥褻の行爲をなすことあるがため、之を檢查して始めてその性別を確定し得らるるやうなこともある。此の如き者の多くは男性假半陰陽であつて、即ちその實は男子たるにも拘はらず、女子の生活を營み、偶々他の婦女を姦淫することあるがために法廷の審判

を煩はすに至るのである。マルチニは四十七歲の產婆が屢々妙齡の婦人を犯した奇異の一例を報告したが、之に依れば此の產婆の陰核は甚だ大きく、小陰唇の發育弱く、大陰唇中には能く還納し得べき睪丸と副睪丸とを觸れ、男性假半陰陽なることを明かにした。またエンメルトはコッペンハーゲンに於ける兒童救養所長ウィルヘルム・ミョルレルなる一婦人が、その狎戲した一兒童を殺害したがため死刑の宣告を受けたが、之を檢査して男子たることを認めた。

　また相續權或は選擧權の爭により、偶然半陰陽者を檢診する機會に遭遇することがある。パーリーは選擧投票權に關する民事訴訟に於て、男子の生活をなした者の實際女子であつたことを確定した一例を記述した。それは二十三歲の人間で、陰毛は通常の如く陰阜に密生し、陰莖は二仙米半の長さを有し、陰囊の發育は弱きも、右側の陰囊內に睪丸を觸れたので、疑もなく男子と鑑定せられたのであるが、選擧日には再びその投票權に紛爭が起つたがため、パーリーはその同僚と共に再び此の人間を檢査した處、同僚も男子であるとの鑑定意見に贊成した。然るに五六日を經てパーリーは此の男が每月規則正しく經血を漏らすと云ふことを耳にしたので、更に第三回の檢査を行つた處、その乳房はよく發育し、陰囊中に觸れたと思つた睪丸は鼠蹊管に下降した卵巢なることが明かになつて、始めて女子たることを鑑定した。

　半陰陽者を檢査してその性別を定めることは、實際上容易のやうであるが、併しその實は困難なることが多い。尤も其の生殖腺を證明することが出來たならば直ちに其の男女いづれな

るやを識別し得られるが、若し男性假半陰陽にしてその睾丸が陰嚢內に降らずして依然腹腔內に留り、或は陰嚢內に降つても完全なる發育をなさずして萎縮することあらば、之を觸知することが出來ず、また女性假半陰陽にして卵巢が轉位して大陰唇內に降下する時は、睾丸と其の外觀を同じうするから、性を確定することが容易でない。されど其の本人の思春期に至れば、男子ならば精液を分泌し、女子ならば月經を排出するやうになるから、之によつて男女いづれなるかを識別することが出來るにしても、併しこれまた豫想通りに行かない。何となれば、半陰陽者に於ては屢々睾丸が萎縮し、或は射精管が缺乏し、或は盲端を以て終ることがあつて、精液の分泌排泄を來さないことがあるからである。されば精液を證明せざればとて直ちに男子に非ずと速定することは出來ない。月經に至つては更に鑑定上の價値に乏しく、オレクヒオ及びホフマンの實驗例に徵しても明かである如く、女性假半陰陽者であつても、毫も月經を通じない者もあり、またドールン及びレオポルド等の實驗した如くに、男性假半陰陽でありながら、月經樣の週期的出血を呈するやうな事實もあるから、たとひ週期的出血を認めたとて、直ちに女子と斷定し難く、また之無ければとて男子と決定することも出來ない。

人の知る如く男子は骨骼筋肉の發育逞しく且つ鬚髯を生じ、女子は纖弱婉麗にして皮下脂肪に富み、鬚髯を生じないが、併し世の中には明かに女性でありながら男子の如き相貌體質を具へ、且つ鼻下に多少の鬚髭を發生してゐる所謂男性的女子もある。ホフマンの實驗した一女性假半陰陽者は、その筋骨能く發育し鼻下に長鬚を生じて、外觀上全く男子と異る所なく馭者と

して生活した。さりながら男女間に於て多少著しい差異を見るものは陰毛の發生狀態、骨盤の廣狹及び乳房の大小である。女子に於ては其の陰毛はただ陰阜に限局して冠狀をなしてゐるが、男子に於ては更に下腹部に迄蔓延して臍部に達し三角形を作つてゐる。カスペルの如きは陰毛の發生狀態の差異を以て性別の鑑定に須要なる一徵候と認めた程である。併しまた之にも往々破格あることを銘記せねばならない。シュルッエーの說に依れば、百人の女子の中、四人は男子に於けるが如くに臍部に迄陰毛發生し、また百四十八人の男子中三十四人は女子の如く單に陰阜に限局したと云ふことであるから、陰毛の發生狀態もまた性別の鑑定上重要の價値あるもので無い。また喉頭や音聲の差異も決して性別の鑑定に重きを置くに足らない。女子にして往々喉頭が前方に突出し、その音聲粗濁の調を帶びる者もあれば、また男子にして喉頭の隆起著しからず、玲瓏玉を轉するが如き音聲を發する者もある。骨盤の廣狹もまた同樣であつて、シュレーデルの說いた如く、女子の骨盤が男子に於けるよりも廣濶であるのは、畢竟小骨盤の內に子宮、輸卵管、卵巢を容れてゐるからで、若し女子の體質弱く、その內部生殖機關の發育不完全ならば骨盤もまた小である。況んやホフマン等の見た女性假半陰陽者にして男子の如き骨盤を有する者があり、またドールン、マルチニー、レオポルド等の見た男性假半陰陽者にして女性骨盤を有するが如き實例もある。若しそれ乳房に至つては、ウイルヒヨウの如きは之に多少の鑑定上の價値を置き、女性假半陰陽の多數は一般にその乳房の大なることを云つたが、實際上之に反對の例證も尠く無い。

精神狀態、就中、性慾の傾向もまた性別を確

定することは出來ない。蓋し男女の性質意向等は主として敎育、境遇等に因るものであつて、性其物の影響はたゞ間接的作用あるに過ぎない。されば幼時から女子として敎養された男性假半陰陽者は女子の業を執り、また女子の擧動をなすものである。また性慾は必ずしも生殖腺の存在發育と必然の關係なく、先天的に生殖腺の萎縮缺乏した者に於ても往々性慾の存することがある。生來子宮及び卵巢なき女性にして性慾を有し、加之その强盛にして手淫に耽り、或は荒淫を恣にするが如き者が世にあることは、パールス、コルマン等の報告に徵しても明かである。また男性假半陰陽者は其の分娩後外陰部の狀態に依つて多くは女子と誤認せられ、女子としての敎育を受けるが故に、幼時からの因習は思春期以後に至つても猶ほ依然として女子であると自信し遂に他に嫁する者もある。されば此の如き男にして終生人の妻となつて身を全うしたやうな實例もある。またカスペルの記したロッジナ・ギョットリッヒの如き男性假半陰陽者は、時として、時としては女子として性交を行つたさうである。またクレクシオの實驗した一女性假半陰陽者は、男子として正常の性交を行ひ二回淋病に傳染したと云ひ、またトルッアルの報告した男性假半陰陽者は、女子として結婚し、嫉妬の情が深かつた。

さりながら假性半陰陽者が思春期乃至その以後に至つて、その本性を自然の發現することも稀でない。即ち男子として敎養された女性假半陰陽者、或は女子として敎養された男性假半陰陽者が、思春期の頃に至つて始めて其の外陰部の發育完全となり、固有の形態を呈して來る。往古の雜書隨筆に男子が女子に化し、女子が男子に變じたといふ所謂變生女子、變生男子なるものは即ちこれである。（完）

苦悶と性的興奮

病的人間には、異常意外の原因事情によつて性慾の興奮を來し、且つ之を滿足する者も尠く無いが、其の中にも特に奇異なる現象は、恐怖、苦悶等の如き精神感動が、往々著しい性的快感及び興奮を伴發することである。此の如きは固より病的に知覺過敏となつた者に於て、往々認められる變態性慾的事實であつて、キユルルは主に神經衰弱症に罹つた男女兩性に於て、重劇なる苦悶、恐怖を感ずる際、または宗敎的色彩を帶びた良心的苦悶を覺える場合に、性的快感を來し、或は手淫を試むが如き者あることを實驗した。またエリスの記する處に依れば、或る一婦人は其の父の葬式の際、物悲しくも棺前に祈禱した僧侶に對して、戀愛心が起つて結婚したしと主張し、また或る醫師は嚴格なる氣質にも拘はらず、葬式に列する時は强度の性的興奮を來すがため、親戚の葬儀にも列することを避けたと云ふやうな事實がある。またシユリツヒテグロルは葬式、悲劇、死刑、殉死の光景等が特に婦人に愉快なる感覺を與へることを說いた。蓋し此等は苦悶によつて性的快感の起る例證であるが、殊に興味のあるのは、エリスに下記の如き自己の體驗と感想とを報告した一男子の書信である。

生後六ヶ月なる私の愛兒が永眠した時、私は悲しさの餘り甚だしく號泣し、一二日間は何物をも食することが出來なかつた。最後に愛兒の遺骸に接吻した時などは、極度の苦惱に陷つた程であつた。然るに其の夜私は意外にも甚だしく發情した。私は實に恥羞の念に堪へなかつたが、併しそれは苦惱に侵された腦の中樞から、性の中樞に刺戟が傳達した結果であらうと信ずる云々。

されど上記の事實よりも更に一層吾人の注目を惹くのは、一寡婦エフエッスが亡夫の墓に詣でゝ、心の限り泣き悲しみ悶えた間もなく、その家の番をしてゐた一兵卒と戀に落ちたと云ふ物語である。

上述の如き事實はまた往々小兒にも見ることがある。モルは其の著『小兒の性生活』に於て、十三歲及び十四歲の少女が、苦悶の感に襲はれる每に性的快感を催うして、陰部より粘液を流出したこと、また學童の中には不勉强のため、敎師に叱責せられる苦悶から、性的快感が誘發せられて射精する者のあることを記述した。フロイドもまた學童に於て、試驗前の苦悶が性的興奮を喚起し、手淫或は夢精樣機轉を誘發せしめることを說いた。

然るに他の一面に於ては、肉體的苦悶からも性的興奮が發起することが必ずしも稀でない。其の中にも特に茲に記述するの要あるは、他より頸部を絞扼せられ、窒息狀態に瀕する苦悶によつて、著しく性的興奮を來す者があることである。縊死者に於ては殆ど每常陰莖が勃起し、且つ射精を來すものであるが、併しこれは血液循環の停滯及び全身痙攣に伴ふ處の現象であつ

て、縊首のために性的快感が起ることが無いのは、蘇生者の告白によつて誰も認めてゐる處である。然るに頸部の絞扼のために、往々著しく發情するが如き者のあるのは、畢竟相手の異性のために苦痛を與へられ、苦悶を感ずることによつて、性的興奮を來す處の「マソヒスムス」的現象の一種と看做すべきものである。されば女性の中には其の愛人より自己の頸部を絞扼せられることによつて、快感を覺える者も尠く無い。エリスの記述した一婦人の如きは、毫も性交の快を感せず、ただ異性から其の頸部を壓迫せられて、始めて性的快感を惹起するが如き性慾倒錯者であつた。『千一夜譚』Tausend und eine Nacht にも、美少年を瞥見する毎に、直ちに之に近づいて抱擁せんと欲し、自己の呼吸の閉塞したことを感ずる婦人のあつたことが叙述されてあるが、思ふに相手の異性の手によつて頸部を絞扼せられ、窒息狀態に瀕する苦悶を味ふことは、性慾の倒錯した者に取つて、特殊の快感を催起し、著しい性的興奮が喚發せられるに違ひない。ベルナルド・ド・キロスが記述した一男子の如きは、青樓に登ると娼婦をして其の背後に立たしめ、襟飾を強く後方に牽引せしめて、殆ど窒息狀態に陷つて了ふことが何よりの快感であつて、斯うしなければ少しも其の性慾を滿足することが出來なかつた。

さりながらまた自ら頸部を壓迫絞扼して、性的快感を催起する者もある。近時アルフレッド・ハースが「小兒に於ける假面性手淫に就いて」と題してミュンヘン醫事週報に公にした論文 Hass, Ueber larvierte Onanie im kindesalter. Münch. med. Woch. Nr. 31, 1922 に記載した

一實例の如きは、蓋し其の好例の一である。それは精神病的體質なる十二歳の少女であつて、屢々自分の兩手を以て頸部を壓迫し、喉頭を外部より絞約する。その際脈搏は平素の七十六搏より百十一搏までに亢進し、呼吸は促迫し、顔面は發赤し、瞳孔は散大し、次いで全身帶青赤色となり、呼吸は喘鳴を伴ひ、眼瞼は下垂する。頸部を絞約してゐる時間は、二十乃至四十秒であつて、それが終ると全身は弛緩し、頭部を一側に傾けて、二三分間其の儘の狀態になつてゐることもあれば、睡眠することもある。ハースは之を以て自ら苦悶を求めて快感を惹起せしめる一種の性的行爲、即ち『假面性手淫』であると看做した。

もしほ草（三）

七夕のうた

うき秋に
ひとり漏れたる嬉れしさは
たなばたづめの今宵かや
をとめうなゐの取り〲に
手向くる笹におく露の
たまにひさ夜の逢瀨にも
契りは深きあまの川
たえぬ流れや久方の
雲のかよひ路わけたどり
かさゝぎの橋にちかづけば
寄り來る波のほかにまた
騷ぐは星のこゝろかも　（香遥）

何ゆゑの涙と問はん人もがな
つゝみはつべき思ひならねば

人は來で待たぬに出でし月かげを
袖にやどして獨りかもねん　（香遥）

性慾と體毛

頭髪、眉毛、睫毛以外の體毛、即ち、鬚髯、腋毛、陰毛及びその他の體毛は、第二次性徴 Sekundäre Geschlechtscharaktere の一であつて、生殖腺の内分泌と必至の關係を有つてゐる。それ故生殖腺が成熟して性ホルモンを分泌する思春期に至れば、此等の體毛が發生して來るのである。獨逸語で思春期を Pubertätszeit と云ふのは、Pubes（陰毛）の語から導かれたもので、先天性に睪丸、卵巣を缺如した男女或は幼時に之を摘出せられた者に於ては毫も陰毛を發生しない。プラントは子宮及び卵巣の發育不完全なる一處女に於て、其の頭髪は長くして且つ密生したが、陰毛及び腋毛が甚だ少く、或は全然缺乏したことを觀た。されば上述の事實に徴して推測する時は、生殖腺の發育が完全にして、且つその内分泌機能の旺盛なるものは、體毛の發生もまた濃密なるべき筈であり、從つて體毛の多寡によつて性慾の强弱をも推知し得られる道理である。尤も性慾其物は他の慾望と同じく腦髓の機能に屬するものであるが、併し生殖腺の内分泌物によつて發揚興奮することは醫學上疑ひ無い處であるから、生殖腺の健全にして其の機能の盛んなるものは、從つて性慾も之に應じて强い道理である。而して體毛も同じく生殖

腺の内分泌機能によつて喚起せられる第二次性徴の一たる以上は、體毛の多く且つ其の發育の強いものは、取りも直さず生殖腺の完全にして且つ性慾の強いことを示すものと看做して差支へはない。此の如き考察は固より學理に基いたものであるけれども、往古から民俗間に於ても體毛の濃く多い者を好色者と看做す風習がある。私は未だ原圖を見ないが、プロッスの著書『女子』Ploss, Das Weib の中に掲載した挿畫を見るに圓山應擧の筆に成つたと云ふ春畫をも掲げてあるが、それは好色の女性の性交光景を描いたもので、その女の陰毛及び腋毛の甚だ多いことが特に眼立つやうに書かれてある。スコツトも色を好む女子の體毛が濃密にして且つ捲縮してゐることを説き、また有名なる觀相家ポルターも女子の毛の濃密を以て、性慾に強い一徴候であると看做した。ヴエネツトもまた毛深い男子が概して好色漢であることに注意し、ルーボーは陰毛の濃度、色、及び捲縮の度を以て性慾の強弱を測定すべき尺度とすべきことを説き、女子にして陰毛の發育微弱なるものは、十中の八九迄情事に冷淡なるものと看做して可なりとまで云つた。其の説に依るに、冷淡なる女性に於ては其の毛幹は非薄纖細にして屈撓し易く、之に反して多情の女性に於ては密叢して捲縮してゐると云ひ、またマルチノーは生殖機關が愈々發育するに從ひ其の毛髪も愈々多いと記し、タルヂユも多情の女子の毛深いことを記述した。またベルグが丁麻克に於て二千二百人の賣笑婦に就き親しく觀た處に依れば、陰毛の非常に多い者の中には甚だ多情なる者が多く、モラグリアも多情なる種々の婦人に就いて觀察し

た結果を報告したが、之に於ても體毛の密生する者多いことを認め、ロンブロソーも賣笑婦に體毛の强く發生する者多いことを認めた。またマックドナルドは屢々猥褻罪を犯した一青年に於て、陰部及び胸部に强く毛の發生したことを見たことがあり、また異常の性慾と體毛密生との間に一定の關係あることも既に二三の精神病學者によつて證明せられたが、その中にも性慾が强烈にして發作的に精神錯亂を來す處の一婦人に、全身毛髪過多症の認められたことはカスシエラーによつて報告せられ、またハックナイル及びチユークは宗敎の熱信者にして、その强烈なる性慾を强　て抑制し、遂に狂者となつた妙齢の處女に於て、全身に强く毛髪が密生したことを見た。また「ザヂスムス」なる倒錯性慾の名の淵源となつたド・ザード侯爵も、ロダンによれば毛髪が强く發生し眉毛も濃厚であつた。また其の多情なる妹も體毛が多かつたと云ふ。エリスの記する處を讀むに、彼に報告した或る男子は、毛深い婦人に對して特別の興味を有つてゐるもので、多くの婦人に就いて精査した結果、其の中五人は體毛も性慾も强からず、五人は陰部及び頭部の毛髪强く發生してその性慾もまた强く、六人は體毛も性慾も强く發現し、一人は性慾は强かつたが、體毛に乏しく、一人は體毛なく且つ性慾にも薄かつたと云ひ、世には『陰毛少き婦人にして性慾の强い者がある』と云ふ說もあるが、自分の經驗は之を否定するといひ、體毛の多きは往々神經病性素質の一徵候なることを記述した。

　さりながら玆に注意しなければならぬことは、生理的に體毛の發生しない部位、例へば婦

人の鼻下、頤部を始め、胸部、腹部等に體毛の密生するが如き全身多毛症は、必ずしも性慾の強いことを證明するものに非ずして、却つて生殖腺の萎縮變性に起因する病理的現象たることである。へガールは子宮が重複し、卵巣が萎縮して月經血甚だ少く、且つ乳房の發育しない一處女に於て、その顏面、胸部、腹部に毛髪が多く發生したことを認めたことがあり、またレイコックは上唇に鬚のある女は子を產むこと稀であるとの世說の眞實なることを肯定した。

もしほ草（四）

妹の寫眞に題せるうた

たらちの母の膝もとに
ふたり遊びて戯れし
むかしのさまを夢にみて
泣きしあしたもありけるよ

行きかひ難き八重山の
しら雲遠くへだてゝは
むかし見馴れしおも影も
さすがに今は忍ばれて

久し振りなるおとなひの
すみ色にじむ假名ぶみに
そへて贈りしうつしゑを
ながめし折りの心はも

花のすがたもおとろへて
いろつや失せし黒髪や
かた手に稚兒を抱きても
殘るはおなじ口の笑み

さはのかたみとなつかしく
胸にしめたるうつしゑの
たゞ兄さまとひと言の
言葉しがなと思へども　（香遥）

日本の古文學と「性」（四）

（六）聖者の性慾滿足

聖者ピタリウスが毎夜妓樓を訪ひ、肉體の汚瀆を免れしむべく娼婦に金を惠んだことは、一面から觀れば慈善行爲であるが、併し他の一面に於ては、その性慾を抑へきることが出來ず、矢張り異性の戀しさがため毎夜妓樓に出かけたのであつた。書寫山の性空上人が、生身の普賢菩薩の御姿を拜し得ぬのを畢生の遺憾として、七日間祈念した處、滿願の曉『室の遊女の長者を拜め、それぞ實の普賢なるぞ』との天童の託宣を夢に見て早速室の遊廓に出かけ、遊女の長者に逢うたといふ『撰集抄』の記事が果して事實であるとすれば、それは上人の抑壓した性慾が普賢菩薩の變形として遊女を夢に想はしめ、更に上人を室の遊廓に赴かしめて、間接に性慾を滿足せしめたものと見るのが妥當である。

端嚴柔和の生身の普賢白象に乘り玉ひて、法性無漏の大海には普賢恒順の月光ほがらかなりと歌はせ玉へり。また眼をあきて之を見玉へば遊女の長者なり。うたふ聲もさゝら波たつと云ふなり。また眼をふたぎ心を法界にすませば、長者また生身の普賢にてましましけり。（中略）此の長者、遊女として年を送りしかど、誰か之を生身の普賢とは露思ひ侍りし。

たゞ並べての女とこそ思ひけめ、實の菩薩にておはしましけること、實に忝くぞ侍る。

と泣性空上人を随喜させた。聖ピタリウスが金を惠まんがため妓樓を訪うたのも、性空上人が生身の普賢菩薩を拜まんとて遊廓に往つたのも、其の背後に潜在する動機は禁慾生活によつて壓抑された性慾の間接的滿足に外ならない。

同性窃視症者より

大阪　Ｓ・Ｋ

田中先生足下。私は先生の御執筆になつて居る變態性慾の愛讀者で御座いますが、それは好奇心からでもなく別にさう云ふ趣味が有つての事でも有りません。只私の性に對する惱みを解決したい爲に眞面目に研究して居るので御座います。私は當年廿五歳になる男子で、生家は九州の田舍でして、眞宗寺院の長子に生れ當然其の寺を繼ぐべく教育された者で、御恥しい話ですが變態性慾の所有者で御座います。

田中先生足下。其の私の變態な性慾を例を引いて極く露骨に申し上げますからどうぞ聞いて下さい。私の性に目覺めたのは十四五歳頃で、…………………………………………………………………………………その頃からどう云ふものか女性に對しては何等の情慾が起らず、反對に男子に情慾を感じるのでした。然し一般の男にではありません。偉い人即ち其の時分の私の目に映つた偉い人ですから、學校の先生か巡査等で髭を蓄へた人でした。さうして段々後には男らしい軍人（將校）により多く情慾を感じる様になつて、危険を犯し乍ら其の人達の――を見るのを樂しみにして居ました。十九歳頃の夏、町（私の村より二里程の小都會）の叔父の家に暑中休暇を遊んで居る時、道で散歩してゐる四十歳位の髭の美しい紳士を見掛けてから其の姿が忘れられず、數日の内に其の人（豫備陸軍大尉と後で知つた）の屋敷を突き止め、十何日の間其の附近をうろついて漸く彼の風呂上りの裸體姿を生垣の外より眺めて滿足しました。又廿歳頃の冬の朝師團の演習が私の村の附近であつた時、演習終了後何百人の將校を畑に立たせ師團長が川岸の上に立つて講評をしました。其の時私は側の方から髭の美しい將校を尉官よりも佐官と物色して樂しんで居ました。二時間餘りの後、講評が終つて長い間立つてゐた將校達は思ひ〳〵其の附近の田畑や便所に放尿し出したので、辛棒し切れなくなつた私は蔭で

捺へた二つ並んだ大便所（村芝居の時の物）の一方に入り、隣の方の見える様に穴を開け（上を小さく下を一寸大きく）て待つてゐました。見物人や馬丁の入るのには目も呉れず、只將校の入るのを待つて居た所が、私が先刻より物色してゐた一人の髭の美しい鼻の高いでつぷり肥えた中佐が入りました。上の穴から彼の顔を見た私は躍る胸を押へて彼のしやがむのを待つて下の穴から彼の──を覗きました。…………………………

…………………………………………

…………………………………………

…………………………………………

…………………………………………

…………………………………………

…………………………………………

………… …………。

以上は一例に過ぎませんが、廿五歳に成る今迄矢張り私の變態な性慾は改まりません。私の理性は無理にも女に近づいて改め様と娼妓を二三度買うて見ましたが、生理的に性交は遂げても機械的で一向精神上の快樂が伴はず、寧ろ髭の美しい堂々たる名士の姿を空想（或は寫眞を見乍ら）して──を行ふ方が遙かに快感が多いのです。其の内でも先年死んだ桂太郎が私の情慾を一番そゝるのです。あの一寸肥えた眼ざしに何とも云へぬ引き付けられる様な顔を寫眞で見た丈で──するのです。その様な譯で女に愛を持ち得ない私はとても家庭の幸福を味ふ事が出來まいと思ふと、それが私の心配であつて又最も悲しい事なのです。

田中先生足下。不幸な私の病氣の療法は無いもので御座いましようか。（十月十一日）

（編輯部より）　筆者S・K氏に御相談申しあげたいことがありますから、至急御住所御姓名を直接本會までお知らせ下さいませんか。固より絶對秘密を守ります。

執筆を終へて

□本誌は創刊以來茲に七ケ月を閲し大正十一年を送ることゝなつた。顧みて今までの内容を再讀すると、忸怩の感に堪へざることが多い。淺學短才なる私の單獨執筆のため、文章は單調であり、記事も杜選の譏を免れないのに、幸ひにして今日にまで漕ぎつけ、新年號さへ發行することが出來るのは、是れ偏へに畏友中村古峽氏の厚情と讀者諸氏の眷顧との賜として、私は茲に改めて感謝の意を表する。

□本號に掲載した「性的方面より觀たる裸體美術」は私の平素の意見を率直に表白したものであるが、之に對しては美術家文學者等の中に異論抗議を有する人達も尠くはあるまい。また讀

者諸氏にして反對意見を抱かれる方があらば、願はくは壹數の榮を賜りたい。私の腑に落ち或は私の蒙を啓くに足る寄稿ならば、喜んで次號の紙上に紹介する積りである。

□曩に東京に於て開催された女子教育會議は性教育の實施を議決した。然るに其の教授方法及び之を施行すべき學年期等に關する具體的成案に至つては未だ發表されてゐない。私も性教育其物の必要なることを夙に認めてゐる一人であるが、併し、普通教育に性教育を加へることは餘程愼重の熟慮と周到の研究とを要する。殊に性教育の任に當る者の選擇に至つては、今日の處頗る困難である。若し一知半解の人間が性教育に當るやうなことでも起れば、それこそ人の子を賊し風紀を亂すが如き不測の危險を釀成して、性教育の目的を破壞することになるであらう。眞に性に關する豐富の知識を有し、人格及び識見共に優秀なる醫學者でなければ性教育を擔任せしめることは出來ない。然るに現在の如き醫學界の有樣では、人格學識共に間然する處なき學者は全國到る所晨星よりも猶ほ少いから、中學校女學校に於て、それぞれ性教育の講師を依囑すべき適當の人物は、今日の處殆どゼロと云つても差支へは無いのである。

□元來性教育は歐洲に於て手淫の陋習が汎く少年青年間に行はれ、且つ花柳病の傳播蔓延の甚だしいがため、之を豫防する恰好の手段として其の實施の必要なることが提唱せられるに至つたのであるが、併し夙に小學校時代から之を施すべきか、また何年生位の兒童から之を課すべきか、其の教授方法は如何にすべきかと云ふ實際の方法に至つては、歐洲の諸學者間に於ても種々の意見があつて、未だ完全なる具體的成案が確定して居らない。歐洲に於て猶ほ此の如しとせば、まして我國の如き性に關する科學的知識の未だ進まない邦國に於て、性教育實施の成案に殆ど何等見るに足るべきものの無いのは當然の次第である。「言ふことは易く行ふことは難し」とは、性教育に最も恰適した言である。

□私の見る處を以てすれば、今日の處性教育を實施したくても、適任の講師なく、且つ實際的教授法に關する具體的成案が容易に決定しない以上は、ただ實施の決議のみに留めて置くより仕方はあるまい。性教育の實施は前途猶ほ遼遠である。本講の如きは少くとも中學校卒業程度以上の學力ある人達を相手にしてゐるものであるから、たとひ純學術上の所說であつても、可なり思ひ切つたことを說き得られるが、思慮未だ定まらず、また性に關する知識經驗も無い小學校、中學校、女學校の生徒に對して、婉曲に而も周到に性に關する知識を與へて、手淫、花柳病等の危險から免れしめるやうに仕向けるのは、恐らく至難の業であらうと想はれる。

創刊號內容▽發刊の辭▽性的早熟と早夙性發情▽月經の生物學的意義に關する一疑問▽割禮の遺風と認むべき日本民族の絲頭裸出▽虐待性好淫者ザード侯爵と殺生關白豐臣秀次▽江戶時代に於ける性的犯罪の刑▽男性假半陰陽者アレキシナの日記中より▽女嫌ひ▽變態性慾要說（一）

第二號內容▽マゾヒスムスに關する說話▽貴婦人墮落の原因考察▽日本に於ける生殖器崇拜の起源及び成立に就いて（上）▽黴毒に傳染したるショーペンハウエル▽墮胎と墮胎專門▽變生男女の話

第三號內容▽女性の生殖機能と犯罪（上）▽自然の防妊作用▽性慾の昇華に就いて▽日本に於ける生殖器崇拜の起源及び成立に就いて（中）▽男娼考▽男女關係の變遷▽變態性慾要說（二）

第四號內容▽女子同性愛に關する說話▽女性の生殖機能と犯罪（下）▽月經不淨觀の原因考察▽醫學上より觀たる獨身生活の利害（上）▽日本に於ける生殖器崇拜の起源及び成立に就いて（下）▽毛髮戀愛——截髮漢▽迷信と猥褻罪▽强姦の鑑定難▽變態性慾要說（三）

第五號內容▽同性愛に關する內分泌の學理に就いて▽先天性生殖腺發育不全▽非自然的性交に因る姙娠▽醫學上より觀たる獨身生活の利害（中）▽女性陰毛の生理▽「サロメ」とザヂスムス▽英國宮廷腐敗史の一節▽日本の古文學と「性」

第六號內容▽精液の女體に及ぼす影響▽女子に於ける性慾と其の變態▽醫學上より觀たる獨身生活の利害（下）▽生殖機關の構成及び官能の不調和▽去勢說話▽日本の古文學と「性」▽乳房と生殖機關▽男子同性愛の一實例

第七號內容▽幼兒に於ける自己發情に就いて（上）▽女性に於ける快感の缺乏▽所謂代償月經の本態▽女子に於ける性慾と其變態▽半陰陽に關する說話▽幼女の分娩▽日本の古文學と「性」

本誌定價表

壹　部（一ヶ月分）	金參拾五錢	稅壹錢
六　部（半ヶ年分）	金貳圓拾錢	稅　共
拾貳部（一ヶ年分）	金四圓拾錢	稅　共

注意
□御註文は總て前金御拂込のこと
□なるべく振替にて御送金のこと
□特別號は定價超過分申受のこと

本誌廣告料

表紙二、三、四面	金五拾圓
普通面一頁	金參拾五圓

大正十一年十一月廿日印刷納本
大正十一年十二月一日發行　第一卷第八號

編輯兼發行者　東京市外北品川御殿山七一八　中村蓊

印刷者　東京市芝區南佐久間町二ノ一四　渡邊素一

印刷所　東京市芝區南佐久間町二ノ一四　內外印刷合資會社

發行所　東京市外北品川御殿山七一八　日本精神醫學會
電話高輪一〇四三番
振替東京三一一七七番

大賣捌（東京堂、東海堂、北隆館、參文社、上田屋、至誠堂、盛春堂、共盛社、）

變態心理

第十卷□十二月號要目□第六號

□群衆心理と教育……慶應義塾大學文學部部長 川合貞一
□恐怖症の病源〔紹介〕……バッグビー
□西鶴に描かれた性慾生活……石田天外
□天才教育の提唱〔天才研究〕……サイディス
□棒占ひの現象〔心靈問題〕……早大文學士 大戸徹誠
□繪馬斷想〔宗教襍談〕……栗山信次郎
□南歐の詩人ダヌンチオ〔藝術雜話〕……井東憲
□ラポールの現象に就いて〔催眠研究〕……文學士 中村古峽
□不思議な殿堂……成溪學園長 文學士 中村春二
□青年哲學者の殺人事件〔時評〕……KS生
□形外漫筆……醫學士 森田形外

毎月一回一日發行
定價一部五十錢
郵稅壹錢
半年分稅共參圓
一年分五圓八十錢

東京品川御殿山
日本精神醫學會
振替東京三一一七番
電話高輪一〇四三番

日本變態心理叢書

第二編

變態心理主幹
文學士 中村古峽新著

自殺及情死の研究

四六判美裝
三五〇頁
送料十七錢

愈々發賣
定價貳圓參拾錢

著者は變態心理の研究家として世に喧傳せらるゝが、啻に個人變態心理のみならず、社會變態心理現象にも多年注目する所あり、その第一着手として自殺及情死なる現象に對する觀察を公にするに至れり。本書は、この現代社會の病患たる現象に對して、先づ統計學及醫學上より觀察し、歐米幷に日本の諸大家の學說を紹介し、更に何人も及ばざる獨特の立脚地に立ちて、自殺者の心理を研究し、その思想問題としての價値及道德的責任にまでも論及せるものなり。而かも世の專門書の如く乾燥無味に墮せず、說明は平易に、科學的冷靜と文學的熱情とを以てし、引例豐富に興味深く讀了せん事を期したり。敢て警世憂國の士の一讀を切望す。

東京品川
御殿山　日本精神醫學會　振替東京三一一七七番
電話高輪一〇四三番

□慈惠院醫專教授
□精神病科專攻

醫學士森田正馬先生新著

神經質及神經衰弱の療法

四六版總布裝函入美本

總紙數六百八十頁

定價四圓

送料拾貳錢

滿鮮臺支・參拾錢

增補再版

精神醫學の最高權威

本書は著者が過去廿年間の眞摯なる研究と實驗とに基き神經質並に神經衰弱に對する在來の學說と治療法とを根柢より覆へしたる新著にして、其の獨創の見解に富める事と其の治癒實例の豐多なる事とは、此種著作中恐らく本書の右に出づるものなからん。醫士は以て自家療法の參考に資すべく、病者は其の自衞上好箇の指導者を得たる思ひあるべく、又一般人士は以て絶好の精神修養書となすべし。敢て大方諸士の一讀を薦む

□發行所

東京品川御殿山
振替東京三二一七七

日本精神醫學會

電話高輪一〇四三番

變態心理學講義錄

全部完結
四ヶ月卒業
總紙數二千二百頁

我が學界破天荒の試擧!!

科目は何れも精神科學の精粹
講師は悉く斯界第一流の權威

▽變態心理講義　文學士　中村古峽氏
▽精神療法講義　醫學士　森田正馬氏
▽心靈學講義　文學士　小熊虎之助氏
▽犯罪心理講義　文學士　寺田精一氏
▽群衆心理講義　文學士　葛西又次郎氏
▽催眠術講義　文學士　中村古峽氏
▽臨床催眠術講義　大阪實驗心理研究所主幹　向井章氏
▽變態性慾講義　性之研究主幹　北野博美氏

▽入會者には諸種の特典あり。詳細規定幷見本入用者は往復葉書にて問合せありたし。

申込所　東京品川御殿山　振替東京壹壹五〇壹番　日本變態心理學會

愛國生活第壹卷第八號　大正十一年四月廿六日第三種郵便物認可

定價　金參拾五錢

復刻版 変態性慾（へんたいせいよく） 全6巻・別冊1

2002年10月15日発行

揃定価（本体90、000円＋税）

発行者 船橋 治

発行所 不二出版㈱
東京都文京区向丘1-2-12
☎03（3812）4433

印刷所 三進社

製本所 青木製本

中性紙使用

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

ISBN4-8350-3490-2（全7冊 分売不可 セットコードISBN4-8350-3489-9）

